

舞鶴高専年報

－ 2020年度の教育・研究活動 －



独立行政法人国立高等専門学校機構
舞鶴工業高等専門学校

第18号 2021年4月

舞 鶴 高 専 年 報

— 2020年度の教育・研究活動—



独立行政法人国立高等専門学校機構
舞鶴工業高等専門学校

第 18 号 2021 年 4 月

は じ め に

令和元年の初めからの新型コロナウイルスCOVID-19の感染が広がる一方となり、4月からは遠隔授業となり、7月から段階的に開寮して対面授業が始まりました。学寮の改修などの対応を行い、これまでに一人も感染者を出さずに来られました。学生、教職員を始めとして学寮・食堂の関係者、卒業生や保健所などの皆様に厚く感謝申し上げます。

例年の様々な催事はほぼすべてインターネット上で行われることになりましたが、感染対策を十分に取しながら、運動クラブでは、女子バスケットボール部が第11回女子全日本高等専門学校バスケットボール大会において3位となり、文化クラブでは、HANDMADE部が海難防止啓発動画の制作で第八管区海上保安本部より感謝状をいただくなど学生諸君の活躍がありました。

本校が独立行政法人国立高等専門学校機構のキャンパスとして生まれ変わってから、17年が経ちました。独立行政法人は、国が定める中期目標に基づいて中期計画を策定し、これに従って業務が進められています。本年は平成31/令和元年～5年度までの第4期中期目標期間の2年度に当たります。また今年度は独立行政法人大学改革支援・学位授与機構から高等専門学校機関別認証評価を受けて、外部から活動全体の評価を頂きました。

高専機構が教育の質保証を目指し整備を進めてきたモデルコアカリキュラム（MCC）が完成し、本校においてもMCCの本格実施に向けたカリキュラム改革が進められ、実施が始められました。Webシラバスへの移行、コンピュータによる試験実施手法（CBT）の試行などが行われ、本校も参加して教育におけるICTの導入を本格化させています。

機構本部は「GEAR5.0」と「COMPASS5.0」をスタートさせ、採択された事業が進んでいます。前者では課題解決のための研究・教育、後者では得られた成果を教育カリキュラムへ反映させます。

本校では、舞鶴市、KDDI株式会社と地域活性化を目的とした連携協定に基づいて、ICTを駆使した地域の課題解決に取り組んでいます。北近畿地域の企業との連携については、北近畿地域連携会議と京都府中丹広域振興局ならびに舞鶴高専の企業協力会である地域テクノアカデミアなどの方々のご支援により、北近畿地域の連携、たとえば北京都PMS(Product Manufacturing Service)など、具体的な事業が着実に進んでおります。

文部科学省2019年度に採択された大学教育再生戦略推進費、Society 5.0に対応した高度技術人材育成事業として「KOSEN 型産学共同インフラメンテナンス人材育成システムの構築」が2年目を迎えています。放送大学、福島・長岡・福井・香川の4高専、長岡技術科学大学と協力して、全国の社会人を対象として、橋梁施設等の点検に関するリカレント教育を行います。世界が取り組んでいるSDGs（持続可能な開発目標）については、内閣府の地方創生SDGs官民連携プラットフォームのスタートアップ分科会のメンバーとなり、舞鶴市と取り組んでいる活動がアドバンスコースのテーマとして取り上げられました。

科学技術振興機構のジュニアドクター育成塾「多自然居住地域における理工系人材の発掘と世界に羽ばたく人材育成プログラム」は2年目となり、北近畿地域の小学5年～中学3年

までの優れた理系人材を育てています。

上記の活動はありましたが、誠に残念ながら、新型コロナウイルスの蔓延により、開寮・授業の延期、クラブ活動などの学校行事の取り止めなどの影響があります。

この様な状況の中ですが、今後とも、ポストコロナの時代に対応して教育・研究・社会貢献・国際化の四分野に取り組みながら、地域志向教育の更なる充実、出前授業・公開講座の拡充、地方創生への貢献を行って参ります。この年報が皆様への本校の活動のご理解に役立てば幸いです。

校 長

内 海 康 雄

総 目 次

はじめに	2
総目次	4
学校運営	
目次	5
運営報告	7
学科・部門別教員一覧	80
教職員数	95
学校行事日程	96
教育活動	
目次	98
学生数	99
入試状況	102
就職状況（本科）	103
就職状況（専攻科）	104
進学状況（本科）	105
進学状況（専攻科）	105
進路先一覧（本科）	106
進路先一覧（専攻科）	107
卒業研究題目	108
専攻科特別研究題目（第2学年）	112
インターンシップ受入先（本科）	113
課外活動成績	114
課外活動に対する教員の活動状況	115
研究活動	
目次	116
研究業績	117
外部研究費受入	133
学協会委員及び学会・研究会等の開催協力	138
地域・社会活動	
目次	139
地域・社会業績	140
地域共同テクノセンター技術相談	149
地域委員	151
報道記事	
目次	153
報道記事一覧	154

学 校 運 営

運営報告	7
教務委員会	7
学生委員会	1 7
学寮委員会	1 9
専攻科	2 2
人文科学部門	2 7
自然科学部門	2 9
機械工学科	3 1
電気情報工学科	3 3
電子制御工学科	3 5
建設システム工学科	3 7
図書館	3 9
情報科学センター	4 1
教育研究支援センター	4 3
地域共同テクノセンター	4 5
社会基盤メンテナンス教育センター（iMe c）	4 9
国際交流センター	5 1
知的財産委員会	5 2
生命倫理委員会	5 3
情報セキュリティ推進委員会	5 4
評価委員会	5 5
FD・ICT部会	5 6
広報委員会	5 8
教育プログラム（MDE）委員会	5 9
進路指導委員会	6 0
学生相談室	6 2
修学支援室	6 3
入試広報部会	6 4
留学生委員会	6 7
教育改善委員会	6 9
交通対策検討委員会	7 0
安全衛生委員会	7 2
緊急連絡／安否確認システムワーキンググループ	7 3
男女共同参画室	7 5
舞鶴高専ジュニアドクター育成塾	7 7
K O S E N型産学共同インフラメンテナンス人材育成システムの構築	7 9

学科・部門別教員一覧	8 0
教職員数	9 5
学校行事日程	9 6

教 務 委 員 会

教務主事 川田 昌克

1. 教務委員会の構成と役割分担

令和2年度は、教務主事、副主事、各学科・部門から教務主事補1名の他、原則、学科長・部門長および学生課長と学生課課長補佐が委員として所属し、教務関係担当職員が事務手続き業務に当たっている。令和2年度の人員構成と役割分担および事務手続き担当職員は表1のとおりである。

表1 役割分担

役 職	氏名	所属	主たる役割分担	備考
主 事	川田昌克	S	総括	
副主事	加登文学	C	委員長代行、専攻科との連携、認証評価	専攻科長
主事補	室巻孝郎	M	出欠確認システム、成績評価資料の保管、AL、M科取りまとめ・調整	専攻科 MS コース長
	井上泰仁	E	3つのポリシーの改善・見直し、インターンシップ	専攻科 ES コース長 前期のみ
	伊藤 稔	S	学年暦、学力不振対策	
	徳永泰伸	C	試験時間割、入試広報との連携	
	山根秀介	人文	英語教育、再試験、海外研修旅行	
	上杉智子	自然	修学支援、学生カルテの作成、Web シラバス、MCC、CBT	
委 員	西山 等	M	M科取りまとめ・調整、達成度評価	MDE 委員長
	中川重康	E	E科取りまとめ・調整	E 科学科長
	内海淳志	E	Web シラバス、MCC	後期は主事補
	野間正泰	S	S科取りまとめ・調整	S 科学科長
	尾上亮介	C	C科取りまとめ・調整	C 科学科長
	田村修一	人文	人文科学部門取りまとめ・調整	人文科学部門長
	奥村昌司	自然	自然科学部門取りまとめ・調整、認証評価、CBT	自然科学部門長
	山口秀朗	事務		学生課長
	富田 誠	事務		学生課課長補佐 (兼教務係長)

2. 新型コロナウイルス感染症の対応について

2.1 概要

令和元年度末から令和2年度にかけて行った新型コロナウイルス感染症の対応を表2にまとめる。

表2 令和元年度末から令和2年度にかけての新型コロナウイルス感染症対応(教務関係を中心として)

令和2年 2月12日(水) ～20日(木)	令和元年度後期期末試験
2月20日(木)	校長からのメッセージ「新型コロナウイルス感染症の対応について」を通知
2月25日(火) ～27日(木)	令和元年度後期期末試験の達成度確認
2月26日(水)	3月1日(日)に予定していた「入学説明会」の中止を通知

2月28日(金)	文科省より小学校・中学校・高校等に対する一斉臨時休業の要請(3月2日(月)から春季休業開始日まで)
2月28日(金)	春季休業開始
2月29日(土)	閉寮
3月9日(月)	本科卒業式/専攻科修了式への保護者および在校生の参列自粛のお願いを通知
3月13日(金)	本科卒業式/専攻科修了式を実施(時間短縮, 参列者限定)
3月30日(月)	入学式を4月5日(日)に, 授業開始を4月14日(火)に延期することを通知
4月2日(木)	臨時教員会議にてGW前までの授業課題作成を各学科・部門に依頼
4月3日(金)	入学式を延期(日程未定)し, 授業開始を5月8日(金)に延期することを通知
4月3日(金)	京都市が市立の学校を順次再開すると発表 大阪府が府立の学校を5月6日(水)まで臨時休業とすることを発表
4月6日(月)	担任・コース長会議で学生への連絡を担当・コース長に依頼(遠隔授業の準備含む)
4月6日(月)	京都市が市立の学校を順次再開する方針を変更し, 4月10日(金)から5月6日(水)まで臨時休業とすることを発表
4月7日(火)	埼玉県, 千葉県, 東京都, 神奈川県, 大阪府, 兵庫県, 福岡県に緊急事態宣言(5月6日(水)までの1ヶ月間を予定)
4月7日(火)	在学生に対して「情報機器および通信環境に関するアンケート」を実施
4月8日(水)	京都府は北部(丹後, 中丹)を除く公立の学校を4月13日(月)から5月6日(水)まで臨時休業とすることを発表
4月9日(木)	新入生に対して「情報機器および通信環境に関するアンケート」を実施
4月9日(木)	教科書販売の方法を通知 ・北部地域: 宅配便を利用もしくは4月18日(土)・19日(日)に学校販売(ドライブスルー) ・それ以外の地域: 宅配便を利用
4月10日(金)	教務主事・教務副主事・教務主事補で遠隔授業の勉強会の実施方法を検討
4月13日(月)	臨時休校期間中の授業課題を順次, 公開
4月13日(月)	教員に対する遠隔授業の勉強会を開催 ・本校で実施する遠隔授業の形式の説明 ・PowerPoint, ビデオ撮影によるコンテンツ作成 ・Moodleの設定, Teamsの設定など
4月15日(水)	教員会議にて, 遠隔授業の準備を教員に正式要請
4月16日(木)	緊急事態宣言が全国に拡大(5月6日(水)までを予定) 埼玉県, 千葉県, 東京都, 神奈川県, 大阪府, 兵庫県, 福岡県に加え, 北海道, 茨城県, 石川県, 岐阜県, 愛知県, 京都府を特定警戒都道府県に指定
4月17日(金)	京都府は北部(丹後, 中丹)の公立の学校を4月21日(火)から5月6日(水)まで臨時休業とすることを発表
4月17日(金)	入学式の中止と, 5月8日(金)から対面授業の代わりに遠隔授業を開始する(当面の間)ことを通知
4月17日(金)	「新入生の皆さまへ校長からのメッセージ」を動画配信
4月18日(土)	北部地域在住の約100名がドライブスルー形式で教科書購入
4月19日(日)	北部地域在住の約50名がドライブスルー形式で教科書購入
4月23日(木)	学寮からの荷物搬出日を通知(各日とも午前: 北部地域, 午後: それ以外の地域) 4月29日(水, 祝日): 女子寮, 7号館 …… 97名が来校申請 5月2日(土): 2・3・5・6号館 …… 111名が来校申請 5月3日(日): 2・3・5・6号館 …… 68名が来校申請

4月28日(火)	遠隔授業特設ページを開設し、遠隔授業の方法を通知 専攻科入試(推薦特別選抜)の実施方法の変更を通知(対面での面接は実施しない)
4月28日(火)	京都市は市立の学校を5月17日(日)まで臨時休業とすることを発表 京都府は府立の学校を5月31日(日)まで臨時休業とすることを発表 大阪府は府立の学校を5月10日(日)まで臨時休業とすることを発表
5月1日(金)	本科編入学入試の日程延期を通知(期日未定)
～5月1日(金)	Microsoft Teams を利用したHRを各クラスで実施(接続テストを兼ねる)
5月5日(火)	京都市は市立の学校を5月31日(日)まで臨時休業とすることを発表
5月7日(木)	海外研修旅行の中止を通知(次年度に延期するか否かは継続して検討)
5月7日(木)	大阪府は府立の学校を5月31日(日)まで臨時休業とすることを発表
5月8日(金)	遠隔授業の開始
5月12日(火)	高専体育大会の中止を通知
5月15日(金)	北海道、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、京都府、大阪府、兵庫県以外の39県で緊急事態宣言を解除
5月18日(月)	「遠隔授業に関するアンケート」を実施
5月19日(火)	夏季インターンシップ派遣の中止を通知
5月19日(火)	前期中間試験について通知(中間試験を実施せず、その代わりとして、学修到達確認を適宜、課題提出、小テスト等により評価)
5月21日(木)	専攻科入試(前期一般学力検査選抜)の実施方法の変更を通知(面接を実施しない)
5月21日(木)	京都府は北部(丹後、中丹)の公立の中学校・高校を5月25日(月)から再開することを発表 京都府は北部以外の公立の中学校・高校を6月1日(月)から段階的に再開(分散・短縮授業)し、6月15日(月)から通常に戻すことを発表 大阪府は府立の中学校・高校を6月1日(月)から段階的に再開(分散・短縮授業)することを発表
5月22日(金)	和歌山・豊田高専と学寮での新型コロナウイルス対応に関する意見交換(1回目)
5月25日(月)	全都道府県で緊急事態宣言を解除
5月25日(月)	メンタルヘルス講演会「こころの健康を保つために～ストレスとうまくつき合うために～」を遠隔で開催
5月26日(火)	「遠隔授業の継続」および「対面授業開始日を検討中であること」を通知 「遠隔授業に関するアンケート」(5月18日)の結果を受け、「授業ノート・課題の整理期間」の実施を通知
5月29日(金)	和歌山・豊田高専と学寮での新型コロナウイルス対応に関する意見交換(2回目)
5月29日(金) ～6月4日(木)	授業ノート・課題の整理期間
6月1日(月)	臨時教員会議にて対面授業の開始日を教員に説明
6月2日(火)	「対面授業の開始と開寮・入寮について」を通知(6月15日(月)から学年ごとに順次、対面授業を開始することを通知)
6月5日(金)	「学生寮の特別運営と入寮再確認のお願い」を寮生に通知
6月9日(火)	本科編入学入試の日程を通知(8月3日(月)に実施)
6月10日(水)	対面授業では当面の間、70分短縮授業とすることを通知
6月11日(木)	和歌山・豊田高専と学寮での新型コロナウイルス対応に関する意見交換(3回目)
6月14日(日)	開寮(専攻科、本科4・5年生)
6月15日(月)	対面授業開始(専攻科、本科4・5年生)
6月21日(日)	開寮(本科2・3年生)

6月22日(月)	対面授業開始(本科2・3年生) 和歌山・豊田高専と学寮での新型コロナウイルス対応に関する意見交換(4回目)
6月27日(土)	入寮(本科1年生), 担任と新入生保護者との懇談会
6月28日(日)	新入生ガイダンス
6月29日(月)	対面授業開始(本科1年生)
7月23日(木, 海の日)・24日(金, スポーツの日)	授業日
8月1日(土)	夏季休業開始
8月2日(日)	閉寮
8月3日(月)	本科3年次編入学試験(当初予定は6月20日(日))
8月22日(土)	開寮
8月24日(月)	授業再開
9月15日(火)～22日(火)	前期期末試験(9月21日(月, 敬老の日)・22日(火, 秋分の日): 授業日)
9月23日(水)	後期授業開始(70分短縮授業)
11月2日(月)	80分短縮授業に移行
令和3年 1月8日(金)	東京都, 埼玉県, 千葉県, 神奈川県に緊急事態宣言(2月7日(日)までの1ヶ月間を予定)
1月13日(水)	大阪府, 兵庫県, 京都府, 愛知県, 岐阜県, 福岡県, 栃木県に緊急事態宣言(2月7日(日)までの1ヶ月間を予定)
1月27日(水)	最終登校日を1週間早めることを通知
2月8日(月)	栃木県の緊急事態宣言を解除(それ以外の都府県は継続)
2月19日(金)	最終登校日
2月21日(日)	閉寮
2月28日(日)	大阪府, 兵庫県, 京都府, 愛知県, 岐阜県, 福岡県の緊急事態宣言を解除(それ以外の1都3県は継続)

2.2 遠隔授業の実施

遠隔授業の実施前に行ったアンケート(4/7)の結果から通信環境に不安がある学生が一定数, いることが確認された。これら学生に対して, 各担任が個別に状況確認をし, 問題がある若干名に無線WiFiルータ(20Gbyte/月)やパソコンを貸し出した。

遠隔授業の形式は, 通信量を考慮して, Moodleを利用した「オンデマンド型」とすることにした。一方で, 朝のショートホームルーム(SHR)は, リアルタイムでの繋がりを重視するために, Microsoft Teamsを利用した「双方向型」とすることにした。学生が規則正しく遠隔授業を行うため, 「遠隔授業特設ページ」に時間割表を掲載し, 科目名をクリックすることで, Moodleの該当ページにジャンプするようにした。

4/13に遠隔授業の勉強会を実施し, 本格的な遠隔授業の準備を行った。同時に, 適宜, 事前課題を掲載し, 5/8から遠隔授業を開始した。

遠隔授業の実施中に行ったアンケート(5/18)の結果から, SHRを行ったときに映像や音声途切れる学生が20%程度いることが確認された。そのため, 遠隔授業はこれまでどおり「オンデマンド型」を継続することにした。通信環境については, 各家庭での通信環境の整備や通信会社の通信制限緩和により, 不安がある学生が大幅に減少した。一方で, 70%の学生が課題の多さに苦労していることが確認されたので, 1週間の授業ノート・課題の整理期間を設けた(5/29～6/4)。同時に, 教員に対しては, 課題の分量の軽減, 動画の時間の短縮を依頼した。

6月中旬から段階的に対面授業を開始したが, 熱風邪症状である学生に対しては出席停止(公欠)とした。出席停止期間については, Moodleなどを利用して可能な限りの授業サポートをした。遠隔授業の実施後に行ったアンケート(8/5)の結果から, 課題提出の量やスケジュール管理に対する問題は改善できなかったことがわかった。科目間で連携した課題の量の調整や, 学生が提出期限を一括して確認でき

る仕組みが必要である。遠隔授業と対面授業を比べると、講義科目では、低学年は対面授業を、高学年は遠隔授業をポジティブに捉えていた。また、実験実習科目については、学年を問わず、対面授業をポジティブに捉えていた。

2.3 アンケート結果（抜粋）

遠隔授業の実施前、実施中、実施後のアンケート結果を以下にまとめる。

1 回目（4/7）：「情報機器および通信環境に関するアンケート」

- ・遠隔授業に参加できるか
参加できるが障害あり（ギガの心配あり）15%
参加できない2%

2 回目（5/18）：「遠隔授業に関するアンケート」

- ・遠隔授業で困っていること
ギガ不足4% 授業についていけないかの心配43% 課題が多くて心配70%

3 回目（8/5）：「遠隔授業と対面授業に関するアンケート」

- ・本校の新型コロナウイルス対策についての満足度：3.25/5（満足度が高い方が5）
- ・新型コロナウイルスに対する不安度：3.15/5（不安度が高い方が5）
- ・マスク着用、手指消毒など新型コロナウイルス対策に気をつけている：4.18/5（気をつけている方が5）
- ・対面授業の開始はどのように感じていたか：3.26/5（ポジティブな方が5）
- ・遠隔授業（6月中旬まで）の満足度：3.21/5
- ・対面授業（6月中旬以降）の満足度：3.51/5
- ・対面授業と遠隔授業のどちらが良いか（講義科目）：3.49/5（対面授業が良い方が5）
- ・対面授業と遠隔授業のどちらが良いか（実験実習科目）：4.20/5（対面授業が良い方が5）
- ・遠隔授業はオンデマンド型と双方向型のどちらが良いか：オンデマンド型62%，双方向型11%
- ・遠隔授業の通信機器：パソコン94%，スマホ45%，タブレット7%（スマホのみを使用は4%）
- ・遠隔授業で困ったこと
通信量5%
授業についていけなかった20%
通信環境が悪くて、動画を満足に閲覧できなかった12%
提供されたファイルの音声聞き取りづらい、文字が見えないなどがあった26%
課題提出が多かった71%
課題の提出状況が把握できなかった55%
適当な「動画を閲覧の場所」や「勉強するスペース」がなかった8%
生活が不規則になった10%
友達に相談しにくい23%
先生に質問しにくい34%
特になし7%

2.4 授業時間数の確保と夏季休業の短縮

通常時は、5週間程度の夏季休業を確保するが、4月中に授業をほとんど実施することができなかったため、夏季休業を3週間に短縮した。また、前期中間試験の代わりに学修到達度（課題提出、小テスト等）で評価をし、前期期末試験とあわせた総合評価とすることにした。前期については、最低、14週の授業日を確保したが、不足する1週分は補講や4月中の課題学習などにより代替することとした。

2.5 授業時間

通常時であれば、1科目90分が基本であるが、学寮での密にならない食事や入浴の時間を確保するため、短縮授業とした。対面授業開始当初は70分短縮授業としていたが、11/2からは80分短縮授業に移行した。表3に短縮授業の時間割表を示す。

表 3 時間割

	70 分短縮授業	80 分短縮授業	90 分授業（通常時）
SHR	9:00	8:40	8:40
1・2 時限目	9:10～10:20	8:50～10:10	8:50～10:20
3・4 時限目	10:30～11:40	10:20～11:40	10:30～12:00
昼休み	11:40～13:15	11:40～13:15	12:00～12:55
5・6 時限目	13:15～14:25	13:15～14:35	12:55～14:25
7・8 時限目	14:35～15:45	14:45～16:05	14:35～16:05
クラブ活動	17:00 まで	17:30 まで	

2.6 教室開放

対面授業開始後、新型コロナ対策のため、学寮ラウンジを閉鎖した。その代わりとして HR 教室、図書館 1 階を開放した。利用時間は

- ・平日の放課後：19:30 まで（教務主事と学生主事が巡回指導）
- ・土日祝日の日中：9:00 から 16:30 まで（教務主事補と学生主事補が巡回指導）

とした。また、定期試験 2 週間前からは曜日によらず 20:30 まで開放した。



HR 教室



図書館 1 階

図 2 教室開放の様子

3. 令和 2 年度の主な取り組み

3.1 朝のショートホームルーム（SHR）の実施

通学圏外からの学生の割合が高い本校において、登校をしているかの確認を直接、担任が行う重要性が高まってきたので、1～4 年生については、令和 2 年度から朝の SHR を導入した。年度当初は、遠隔授業を実施していたため、Microsoft Teams を利用して SHR を実施した。

3.2 電子版出席簿

昨年度に試行的に導入していた電子版出席簿「出欠管理システム」を本格的に運用した。本システムは、Microsoft SharePoint を利用して構成されており、各授業担当者が入力する。朝の SHR にも入力を行うため、希望する担任にはタブレットの貸し出しを行った。また、SHR の出席が確認できなかった学生には、SHR 終了後、本人、担任および保護者にメールが自動送信される。さらに、午前中の授業の出席が確認できなかった学生には、13 時に同様のメールが自動送信される。このように情報共有をすることで、学生・担任・保護者の三者で出席状況を確認できるようになり、安否確認にも利用できる。

各科目の総欠席時間数については、電子版出席簿で自動集計することが可能となり、担任が簡単に把握できるようになった。

3.3 席次算出のための平均点の算出方法の変更

昨年度までは進級に必要な科目の平均点により席次を算出していたため、旧カリキュラム（現 3 年生以上のカリキュラム）では余剰単位の点数が反映されなかった。今年度からは評価点を明示している全科目の単位重み付きの平均点により席次を決定するように変更した。

3.4 5年生学年暦の変更

昨年度までは5年生の後期期末試験は1月下旬から2月上旬にかけて実施していたが、今年度からは1～4年の後期期末試験と同時期に実施するように変更した。

3.5 成績評価資料の電子化

昨年度までは、紙ベースの成績評価資料をファイルに綴じて保管することを基本としていたが、量がかさばるなどの問題があった。この問題に対処するため、今年度からは成績評価資料を電子化し、専用サーバーに保管することになった。再試験の成績評価資料については、来年度から電子化する予定である。

3.6 単位修得確認表

本科1～4年の学生が自身で単位修得や学習到達目標の達成度の現況を確認するため、単位修得確認表を導入した。

3.7 三つのポリシーの見直し

令和元年度本科入学生からカリキュラムが新しくなったこと、三つのポリシーの抜本的な見直しが行われてこなかったこと、日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定の継続申請を行わないことが決定されたこと、高専機構としてのディプロマ・ポリシーの二次案が決定されたこと、などを理由として、本科の三つのポリシーの見直しを行った。新しいアドミッション・ポリシーについては令和3年度入学生から適用した。また、新しいディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーについては令和4年度入学生から適用し、「令和4年度本科学生募集要項」に掲載する予定である。

3.8 質保証6項目

表4 質保証6項目

項目	担当
① ポートフォリオ教育の実施	室巻・加登
② 実験スキル計測の実施	内海・徳永
③ 分野横断的能力の育成の実施	伊藤・室巻
④ データ（CBTなど）に裏付けされた教育改善の実施	奥村・上杉（・内海・伊藤）
⑤ ピアサポーター育成の実施	（学生相談室・修学支援室・学生委員会）
⑥ 学生情報の集約および共有の実施	上杉・山根

高専機構では、表4に示す高専教育の質保証6項目を第4期中（令和1～5年度）に達成することを目指している。本校では、⑤以外は教務委員会が担当しており、各担当者を中心として検討を進めている。

①については、学生が実習の成果物（加工品、図面など）をMicrosoft OneDriveに保管するとともに、「達成度確認表」を利用して達成度を確認する仕組みを構築しており、次年度、新2・3年生から実施する予定である。②については、年次進行で「実験スキル評価シート」の作成を行っており、令和2年度は3年までの準備を終えた。③については、各学科で行っているPBL教育の現状分析を行った。今後、必要に応じて充実・拡充をはかっていく予定である。④については、今年度、数学・物理・化学・専門（電気回路および計算機工学）のCBT（Computer Based Testing）を実施したが、その結果を分析してフィードバックする試みを始めている。⑥については、学生の状況を担任などが把握するために、今年度、試行的に学生カルテを作成した。

4. 教務関係の行事

令和2年度の教務関係の行事を表5にまとめる。

表5 令和2年度の教務関係の行事

5月8日（金）	前期授業開始（遠隔授業）
6月15日（月）	対面授業開始（専攻科、本科4・5年）

6月22日(月)	対面授業開始(本科2・3年)
6月28日(日)	新入生ガイダンス
6月29日(月)	対面授業開始(本科1年)
8月1日(土)～8月23日(日)	夏季休業
8月3日(月)	本科3年次編入学試験
9月15日(火)～9月22日(火)	前期期末試験
9月23日(水)	後期授業開始
9月30日(水)～10月2日(金)	前期到達度確認期間
10月19日(月)	英語デー
11月24日(火)～11月30日(月)	後期中間試験
12月8日(火)・14日(月)・17日(木)	CBT 数学(2年)
12月10日(木)・17日(木)	CBT 数学(1年)
12月10日(木)・15日(火)・17日(木)	CBT 数学(3年)
12月11日(金)	CBT 化学(1年)
12月24日(木)	CBT 専門(3E・4E)
12月26日(土)～11日(月)	冬季休業
1月15日(金)	CBT 物理(2年)
1月16日(土)	本科入学試験(特別選抜)
2月8日(月)～16日(火)	後期期末試験
2月18日(木)～19日(金)	後期達成度確認期間
2月20日(土)	春季休業開始
2月21日(日)	本科入学試験(学力検査選抜)
3月6日(土)	本科入学試験(2次募集)
3月8日(月)～18日(木)	再試験期間

5. 教務委員会での協議事項

令和2年度の教務委員会での協議事項を表6にまとめる。

表6 教務委員会での協議事項

第1回教務委員会 令和2年 4月1日(水)	(1) 今年度の役割分担について (2) 今年度の新しい取り組みについて (3) 新型コロナウイルス感染症の対応について (4) 検討課題の確認
第2回教務委員会 令和2年 4月30日(木)	(1) 科目再履修の免除願と科目変更願の提出期限について (2) 編入学試験の日程・実施方法について (3) 今年度の再試験の評価について (4) カリキュラム・マップの作成について (5) 到達度確認表の作成について (6) 成績評価資料の電子化について (7) 令和3年度学則別表の変更について
第3回教務委員会 令和2年 5月12日(火)	(1) 修得単位確認表について (2) 規程・内規の改正について (3) 再試験結果通知様式について (4) 令和2年度の2年次留年生における科目再履修の免除願について (5) 定期試験実施要領の改正について (6) 遠隔授業実施期間中の出席管理システムの運用について (7) 分散登校および中間試験の実施について

第4回教務委員会 令和2年 6月5日(金)	(1) 対面授業の実施にあたっての検討事項 (2) 学事日程について (3) 編入学試験の日程について (4) 本科入学試験の予備問題について (5) 定期試験実施要領について (6) 試験実施通知文の変更について (7) 原級留置生の「測量学Ⅰ」の取り扱いについて (8) 再履修免除について
第5回教務委員会 令和2年 7月14日(火)	(1) 編入学試験の実施について (2) カリキュラム・マップについて (3) ディプロマ・ポリシーの見直しについて (4) 第4期中の教育の質保証計画について (5) 単位修得率確認表について (6) 成績評価資料の保管について (7) 学年暦の変更について
第6回教務委員会 令和2年 7月31日(金)	(1) カリキュラム・マップについて (2) アドミッション・ポリシーの見直しについて (3) 後期学年暦の変更について (4) 令和3年度入学試験の実施方法の変更について (5) 後期時間割について (6) 質保証について (7) 出席確認システムの仕様変更について
第7回教務委員会 令和2年 8月25日(火)	(1) 令和3年度入学試験募集要項について (2) 遠隔授業継続中の学生の定期試験実施について (3) 成績評価資料の電子化について (4) 機構本部からのアンケート（中期計画に関連した学修状況アンケート）について (5) ディプロマ・ポリシーの見直しについて
第8回教務委員会 令和2年 9月18日(金)	(1) 学生からの成績評価に対する異議申し立てについて (2) ディプロマ・ポリシーの見直しについて
第9回教務委員会 令和2年 11月11日(水)	(1) ディプロマ・ポリシーの見直しについて (2) 新カリキュラムにおける時間割について (3) 1・2年生の指導体制について (4) 学則別表について (5) 成績通知表の送付について (6) 令和3年度学年暦について (7) 留学に関する規程の制定について (8) 学則（他の教育機関の単位認定）の改正について (9) 定期試験の実施について
第10回教務委員会 令和2年 12月2日(水)	(1) 2年学生の追試験および補講について (2) ディプロマ・ポリシーに対応した科目設定について (3) 新カリキュラムにおける時間割について (4) 1・2年生の指導体制について (5) 「原学年にとどめられた者の単位認定に関する申合せ」について (6) 留学に関する規程の制定について (7) Web シラバスについて

第 11 回教務委員会 令和 3 年 1 月 29 日（金）	(1) 2 次募集要項について (2) 定期試験を実施しない科目について (3) 再試験/追試験結果通知書（本科）の書式の変更について (4) 新しいディプロマ・ポリシーに対応したカリキュラムの流れについて (5) カリキュラム・ポリシーの見直しについて (6) カリキュラムの特徴抽出と分野横断的能力の育成について (7) 質保証 6 項目について (8) 再試験の成績評価資料の電子化について (9) 「令和元年度外部評価委員会の検討事項の対応状況」について (10) 「令和元年度・教育点検システムにおける点検項目に関する報告書」について (11) 「舞鶴工業高等専門学校学業成績の評価並びに学年の課程の修了及び卒業の認定に関する規程」の改正について (12) 1・2 年生の指導体制について (13) 編入学生及び転科生の補習について (14) 非常勤講師の任用計画について (15) 成績簿の更新について
第 12 回教務委員会 令和 3 年 3 月 16 日（火）	(1) 追試験を行った学生の進級認定について (2) 令和 3 年度学年暦について (3) 非常勤講師の任用計画について (4) 定期試験を実施しない科目について (5) カリキュラム・フローとカリキュラム・ポリシーに掲載する科目名について (6) 定期試験の入室可能時間について (7) 法学と経済学の開講時期の入れ替えについて (8) 令和 3 年度の学級日誌について (9) 追試験の実施方法について (10) 留学生や編入学生の補講について（規程の改正） (11) 「令和 2 年度教育点検システムにおける点検項目に関する報告書」 (12) 「再試験結果通知書」のフォーマットについて (13) 学生準則の改正について (14) 学生の表彰について (15) 「機械工学科におけるカリキュラム・ポリシー」の修正に関する申請について (16) ピアサポーター制度に関する提案について

学 生 委 員 会

学生主事 小野 伸一郎

令和2年度の学生委員会、並びに学生会・クラブの活動等は、新型コロナウイルス感染症の感染予防の観点から、多くの取り組みおよび活動は縮小あるいは中止となった。実施されたものは新型コロナウイルス感染症の感染予防を講じたものであった。

1. 新入生支援・指導

4月16日（木）17日（金） 新入生合宿研修・元気回復行動プランワークショップ…中止
 7月 1日（水） 6日（月）13日（月） いじめ防止仲間づくり・学びのすすめ講演会、PEER（認知行動療法）
 7月20日（月）21日（火） クラブ紹介
 10月3日（土） 学生会新入生歓迎会

2. 交通安全指導・禁煙指導

6月 1日（月） 交通安全講習会・駐車場登録（オンデマンド）
 6月～ 8月 駐車指導、禁煙巡回指導
 10月～12月 駐車指導、禁煙巡回指導
 1月～ 2月 積雪時の駐車指導、禁煙巡回指導
 10月22日（木） SHR 車両事故報告と車両規則について一斉放送

3. 環境美化

10月 2日（金） 第1回環境美化清掃
 11月30日（月） 第2回環境美化清掃
 2月16日（火） 第3回環境美化清掃

4. 課外活動

<学生会>

4月25日（土） スポーツフェスタ…中止
 7月 1日（水） クラブ顧問会議
 松尾寺駅周辺ボランティア清掃…中止
 秋の音楽祭in松尾寺…中止
 10月11日（日） 舞鶴赤れんがハーフマラソン2020ボランティア…中止
 松尾寺駅周辺ボランティア清掃…中止
 11月20日（金） 学生総会
 12月 2日（水） 校長フリートーキング
 12月14日（月） 学生総会

<クラブ活動>

高専エコラン鈴鹿大会・茂木大会…中止
 5月 9日（土） 福井高専との交歓試合…中止
 6月27日（土）28日（日） 近畿地区高専体育大会バスケットボール（舞鶴文化公園体育館）…中止
 7月10日（金） 全国高等学校野球選手権京都大会…中止
 7月11日（土）12日（日） 近畿地区高専体育大会サッカー（西舞鶴公園）…中止
 8月29日（土）30日（日） 全国高専体育大会卓球（舞鶴文化公園体育館）…中止
 9月 5日（土） 6日（日） 全国高専体育大会バドミントン（舞鶴文化公園体育館）…中止
 10月10日（土）11日（日） 全国高等専門学校プログラミングコンテスト（苫小牧）オンライン
 10月18日（日） 高専ロボコン2020近畿地区大会（オンライン）
 11月 4日（水） 近畿地区高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト（舞鶴）オンライン

12月 5日（土） 6日（日） 全国高等専門学校デザインコンペティション（仙台）オンライン
3月 関西高専合同演奏会…中止

<高専祭関係>

10月29日（木）30日（金） 高専祭準備・前夜祭…中止
10月31日（土）11月 1日（日） 本祭（一般公開）…中止
11月 2日（月） 高専祭片付・後夜祭 …中止
代替行事
10月30日（金） 運動会 …雨天中止，ビンゴ大会（体育館）

5. 講演会

7月 1日（水） 6日（月）13日（月） いじめ防止講演会（1年生）
10月 5日（月）12日（月） ネット犯罪被害防止講演会（1年生，情報科学センター共同開催）
7月22日（水）29日（水） 薬物乱用防止講演会（3年生）
9月22日（火） 1年生いじめ防止学年集会

6. その他

6月 9日（火） 第1回中丹高等学校補導連絡協議会
7月20日（月） 第1回いじめに関するアンケート
8月31日（月） 第2回いじめに関するアンケート（SNS）
9月17日（木） 近畿地区高専学生主事連絡協議会・人権教育連絡協議会（オンライン）
10月 7日（水） 避難訓練
10月13日（火） 第2回中丹高等学校補導連絡協議会
11月 4日（水） 令和2年度学生顕彰式
11月24日（火） 第17回全国国立高等専門学校学生支援担当教職員研修（オンライン）
12月 7日（月） 第3回いじめに関するアンケート
1月13日（水） 第4回いじめに関するアンケート（SNS）
2月 2日（火） 第3回中丹高等学校補導連絡協議会…中止
3月11日（木）12日（金） 令和2年度東海・北陸・近畿地区国立高等専門学校学生指導力向上研修会
…中止

7. 新型コロナウイルス感染症対策

6月 9日（火） 校内清拭講習（教職員に対して毎日の清拭方法）
6月15日（月）～（年間を通じ毎朝） 登校健康確認指導（健康調査確認、マスク着用指導）
6月15日（月）22日（月） 通学生集会（自宅・アパート生活における感染予防行動について）
12月25日（金） 校内一斉放送（冬季休暇中の感染予防対策）

学 寮 委 員 会

寮務主事 豊田 香

令和2年度の学寮運営の理念および基本方針を以下に示します。しかしながら、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の対策と対応を最優先せざるを得ない年度となりました。

1. 令和2年度 学寮運営の理念

「自主性と協調性を養う」

寮生活を通して基本的な生活習慣を身に付け、人格を育成し、規則遵守の態度を養う。また、寮生活の経験に基づき友情、相互寛容など人間関係について正しい理解と自主、自律の精神を養う。

2. 令和2年度 学寮運営の基本方針

- (1) 新型コロナウイルス感染症の対応
 - 毎朝の健康管理表による体温管理を励行
 - 3つの“密”（密閉空間、密集場所、密接場所）を避ける注意喚起
 - 手の殺菌、寮室の換気と清掃、手洗い、マスク着用の励行
 - 他寮室での滞在を禁止
 - 学寮ラウンジの使用禁止
- (2) 寮生活規則の遵守
 - 二足制の維持
 - ブレーカーダウンの徹底
 - 寮室点検の実施
- (3) 安心で清潔な学寮
 - 新型コロナウイルス感染症の対策と対応を最優先する
 - 外周と寮内の防犯カメラ設置要望
 - 担当教員によるフロア巡回と清掃チェック
 - 点呼後のフロア清掃
 - 生活委員の活動を中心としたごみの分別と移動
 - 不法投棄の撲滅
 - 寮設備の補修
- (4) 自主性と協調性を育む活動
 - 寮生会との連携と活動への教職員による支援
 - 寮生会委員会活動への教員による支援

3. 学寮関係行事等

- | | |
|-------------------|--|
| 5月 | 新型コロナウイルス感染症対応：
二人部屋間仕切り用カーテン設置
6号館1階ドア改修
6号館1階および2階へのベッド搬入工事 |
| 5月22日（金） | 3高専校長・寮務主事会議（オンライン開催） |
| 5月29日（金） | 3高専校長・寮務主事会議（オンライン開催） |
| 6月11日（木） | 3高専校長・寮務主事会議（オンライン開催） |
| 6月14日（日） | 開寮（本科4，5年生，専攻科生） |
| 6月21日（日） | 開寮（本科2，3年生） |
| 6月27日（土） | 入寮（本科1年生，専攻科生新入生，編入学生） |
| 7月 3日（金） | 第1回フロアミーティング開始 |
| 7月10日（金） | 3高専校長・寮務主事会議（オンライン開催） |
| 7月13日（月）～7月17日（金） | 学習時間巡回指導 |
| 7月16日（木）～7月31日（金） | 昼食指導 |
| 7月30日（木） | 大掃除 |
| 8月 1日（土）～8月 2日（日） | 閉寮 |

8月 2日 (日) 舞鶴高専1日体験会
 8月 9日 (日) 舞鶴高専1日体験会
 8月22日 (土) ～8月23日 (日) 開寮
 8月22日 (土) 舞鶴高専1日体験会
 8月26日 (水) ～9月 4日 (金) 学習時間巡回指導
 8月27日 (木) 第2回フロアミーティング開始
 9月 5日 (土) 舞鶴高専1日体験会
 11月16日 (月) 近畿国立高専寮務主事会議(オンライン開催)
 12月11日 (金) ～12月16日 (水) 寮室点検
 12月 3日 (木) 寮生総会(寮生会長、寮生副会長の選挙)
 12月 3日 (木) 第3回フロアミーティング開始
 12月 5日 (土) ～12月19日 (土) 第3回寮室点検
 12月 6日 (日) 寮生会クリスマス企画
 12月 7日 (月) 田野瀬太道文部科学副大臣、本田太郎衆議院議員、多々見良三舞鶴市長による視察
 12月24日 (木) 大掃除
 12月26日 (土) 閉寮
 1月11日 (月) 開寮
 2月16日 (火) 入寮選考結果発表
 2月19日 (金) ～2月21日 (日) 閉寮

○学寮委員会等の開催

4月 1日 (水) 第1回学寮委員会
 5月27日 (水) 第2回学寮委員会
 7月21日 (火) 第3回学寮委員会
 9月30日 (水) 第4回学寮委員会
 11月18日 (水) 第5回学寮委員会
 2月 3日 (水) 第6回学寮委員会

10月21日 (水) 臨時学寮委員会
 10月29日 (木) 臨時学寮委員会
 3月 3日 (水) 臨時学寮委員会

5月20日 (水) 主事・主事補会議
 7月15日 (水) 主事・主事補会議
 9月23日 (水) 主事・主事補会議
 11月11日 (水) 主事・主事補会議
 12月 2日 (水) 主事・主事補会議
 1月27日 (水) 主事・主事補会議
 2月 5日 (金) 主事・主事補会議

4. 3高専校長・寮務主事会議

学寮における新型コロナウイルス感染症対策に関する情報交換のため、学寮の規模が大きい豊田高専、和歌山高専および本校による校長・寮務主事会議がオンラインにて実施された。

5. 近畿地区寮務主事会議

令和2年11月16日 (月) 明石高専、奈良高専、和歌山高専および本校の近畿地区国立4高専寮務主事に より近畿地区寮務主事会議がオンラインにて実施された。

本会議では、以下に示す協議事項および承合事項について協議と情報交換が行われた。

【協議事項】

1. 新型コロナウイルス感染症対策と今後の課題について (提出校：和歌山高専)

【承合事項】

1. 学寮のネットワーク環境について（提出校：舞鶴高専）
2. 寮生へのリース，レンタル物件について（提出校：舞鶴高専）
3. 次年度の入寮選考と寮生数について（提出校：舞鶴高専）
4. 寮内で新型コロナウイルス感染症が発生した直後の食事の提供方法について（提出校：舞鶴高専）
5. 多様性の獲得を目的とした行事推進・運営について（提出校：明石高専）
6. ハラル対応食材の購入方法とその経費の出处について（提出校：奈良高専）
7. 寮生で新型コロナウイルス感染者が出た場合の対応フローについて（提出校：奈良高専）
8. 宿直業務の割振りルールについて（提出校：奈良高専）
9. 女性教員の宿直環境について（提出校：奈良高専）
10. 宿直業務を外注している場合の業務内容と支出予算について（提出校：奈良高専）
11. 寮生の自宅状況の変化に伴う在寮について（提出校：奈良高専）
12. 留学生・自宅が遠距離の寮生が体調不良になった場合の対処方法について（提出校：奈良高専）

6. 4号館改修工事終了

4号館の改修工事が終了した。これにより，1号館および4号館を女子寮として運営を始めた。

7. 宿日直業務

A寮監，B寮監，女子寮監，管理当直の4名体制で運営を始めた。

専攻科

専攻科長 加登 文学

1. 年間活動の概要

専攻科の年間活動の概要を表1に示す。

表1 活動内容

年 月	内 容
令和2年4月	・専攻科総合システム工学専攻入学式（4/5）中止 ・新入生オリエンテーション（4/13 オンラインで実施） ・第1回専攻科委員会（4/2） ・1年生，2年生研究室配属決定 ・専攻科学生のTA募集 ・学位申請説明会：1年生（動画配信） ・第2回専攻科委員会（4/23）
令和2年5月	・専攻科推薦特別選抜書類選考（5/13） ・第3回専攻科委員会（入試委員会と合同）（5/15）学力選抜実施について ・第4回専攻科委員会（入試委員会と合同）（5/19）学力選抜方法の変更について
令和2年6月	・特例適用による学位申請説明会：2年生（6/2） ・第5回専攻科委員会（6/2） ・専攻科一般学力検査選抜試験（前期）（6/21） ・第6回専攻科委員会（入試委員会と合同）（6/23）
令和2年7月	・第3ブロック専攻科長会議〔オンライン〕（7/17） ・第7回専攻科委員会（7/29） ・特例適用による学位申請説明会（事務手続き）：2年生（7/30）
令和2年9月	・学修総まとめ科目「履修計画書」の確認（9/11～9/24） ・前期期末試験（9/15～9/22） ・特例適用による学位申請入力（学内締切：9/29） ・第8回専攻科委員会（9/25） ・学則変更および特例適用専攻科変更の届出
令和2年10月	・学修総まとめ科目計画書提出（2年） ・特別研究基礎中間発表（10/6） ・専攻科一般学力検査選抜試験（後期）（10/18） ・第9回専攻科委員会（入試委員会と合同）（10/20） ・コース長による学生面談（1年生）
令和2年11月	・第10回専攻科委員会（11/17）
令和2年12月	・合同学校説明会での専攻科説明（12/5） ・第11回専攻科委員会（12/24）
令和3年1月	・近畿地区高専専攻科長会議〔オンライン〕（1/6～1/8） ・特別研究発表会（1/19） ・専攻科2年生後期期末試験（1/25～1/26） ・特別研究基礎発表会（1/26） ・学修総まとめ科目「成果の要旨」の確認（1/29～2/10）
令和3年2月	・第12回専攻科委員会（2/3） ・第13回専攻科委員会（MDE委員会と合同）（2/4） ・特別研究論文提出（2/4） ・専攻科特別研究報告集原稿の提出（2/4）

令和3年2月	・専攻科1年生後期期末試験（2/8～2/16） ・特例適用による学位申請入力（学内締切：2/18）
令和3年3月	・第3ブロック専攻科研究フォーラム〔オンライン〕（3/2） ・第14回専攻科委員会（3/11） ・専攻科修了証書授与式：総合システム工学専攻16名（3/19） ・令和4年度専攻科学生募集要項配布

2. 専攻科の運営

2.1 専攻科委員会の構成と役割分担

専攻科の活動は専攻科委員会が担い、委員長、教務主事の他、学科・部門から各1名程度の教員および学生課長と学生課課長補佐が委員として所属し、教務関係担当職員が事務手続き業務に当たっている。令和2年度の人員構成と役割分担および事務手続き担当職員は表2のとおりである。

表2 専攻科の運営メンバー

氏名	役職	主たる役割分担	備考
加登文学	委員長	総括	専攻科長
川田昌克	委員	教務関係事項への助言	教務主事
井上泰仁	電気電子システム工学コース長	当該コースの運営、進路指導、教育関係書類の整備、特別研究審査資料等の確認	電気情報工学科
室巻孝郎	機械制御システム工学コース長		機械工学科
渡部昌弘	建設工学コース長		建設システム工学科
石川一平	委員	教育関係書類の整備、特別研究審査資料等の確認	電子制御工学科
藤田憲司	委員	国際交流	人文科学部門
岡田浩嗣	委員	進路指導委員会との連携	自然科学部門 進路指導副委員長 (進学)
山口秀朗	委員	事務手続きの承認	学生課長
富田 誠	委員		学生課課長補佐
嵯峨信子	陪席	事務手続きの実施	学生課職員

2.2 入学と修了

令和2年度入学者は、総合システム工学専攻27名（電気電子システム工学コース10名、機械制御システム工学コース11名、建設工学コース6名）であった。また、令和2年度修了者は、総合システム工学専攻16名（電気電子システム工学コース8名、機械制御システム工学コース4名、建設工学コース4名）であった。

2.3 入試関係

今年度（令和3年度入試）から一般学力検査選抜（前期日程）にA方式（願書提出時に入学誓約書を提出）とB方式（他大学等との併願が可能）を導入した。

令和4年度入試から、一般学力検査選抜における英語の筆記試験に替えて、TOEICスコア（TOEIC IPを含む）による評価を行う。

※新型コロナウイルス感染拡大を受け、令和3年度入試において、以下のような変更を行った。

- ・推薦特別選抜において、提出された出願書類の内容を確認する目的の面接は実施しないこととした。
- ・一般学力検査選抜〔前期日程A方式〕、〔前期日程B方式〕の選抜内容のうち、面接は実施しないこととした。また、全国的に大学の編入学試験等の日程が延期されていたこともあり、前期日程B方式合格者の「入学誓約書」の提出期限を一般学力検査選抜〔後期日程〕の試験日直前の令和2年10月16日（金）まで延長した。

2.4 カリキュラム改正

令和3年度専攻科入学生から適用されるカリキュラムについて、開講科目の削減、科目の開設年度の移動等の改正を行った。

2.5 学則変更の届出、および特例適用専攻科変更の届出

学則の変更（専攻科の修了要件から教育プログラムの要件を削除すること、およびカリキュラム変更に伴う学則別表の変更）について大学改革支援・学位授与機構に変更を届け出た。

また、特例適用専攻科について科目表および学修総まとめ科目担当者変更の届出を9月に行った。

2.6 学位授与申請

1年生に対しては、「特例適用による学位申請説明会」を受講登録締切日前の4月6日（1年生対象）にオンラインで行い、履修単位確認と書類作成の説明をした。

2年生に対しては、「特例適用による学位申請説明会」を6月2日に行い、履修単位確認と書類作成の説明をした。また、7月30日に「特例適用による学位申請説明会（事務手続き）」を実施した。9月に「学修総まとめ科目履修計画書」の確認作業を行い、10月に特例適用による学位申請の手続を行った。また、2月に当該学生に対する履修単位の確認と「学修総まとめ科目成果の要旨」の確認作業を行い、学位申請の手続を行った。そして、特例適用による学位申請に対する大学改革支援・学位授与機構の審査を経て、令和3年3月、申請者全員に「学士」の学位が授与された。なお、通例（従来の学位申請方式）適用による学位の申請はなかった。

2.7 三つのポリシー

専攻科のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーについて見直しを行い、本科からの接続性や学位申請における専攻の区分を意識した、より一貫性のある新しい三つのポリシーを策定した。令和4年度入学生から適用される予定である。

3. 学生教育関係

3.1 学生の研修

今年度行われる予定だった ISTS2020 (International Seminar on Technology for Sustainability) および JSTS2020 (Japan Seminar on Technology for Sustainability) はいずれも中止となった。

令和2年11月7日～令和3年1月9日にかけて「SDGs Webinar 2020 -“今”を視て創造する新しいSDGs-」（全5回、参加者：全国の国公立高専の専攻科1, 2年生と本科4, 5年生、長岡・豊橋両技科大学の大学院生など合計39名）が開催され、機械制御システム工学コースの1年生1名が参加した。SDGsをベースとして地域の問題解決のための地方創生・イノベーションについてオンラインでのワークショップ等に取り組んだ。

3.2 研究成果の発表

専攻科では、学生が自身の研究成果を積極的に学会等で発表することを奨励している。これは、研究発表技術を涵養するためだけではなく、学外での客観的な評価を受けることによって、研究に関する新たな発見や今後の方向性に繋がるためでもある。今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響があり、多くの発表会が集合形式ではなく、オンライン形式となった。発表件数の内訳を表3-1に示す（本人発表のみ、すべて国内での発表）。

表3-1 学外での研究発表件数（第3ブロック専攻科研究フォーラムを除く）

所属コース名	発表件数		
	1年生	2年生	合計
電気電子システム工学	1	0	1
機械制御システム工学	2	1	3
建設工学	0	3	3
合計	3	4	7

また、第3ブロック専攻科研究フォーラムが3月2日にオンラインで開催された。従来のポスター発表は実施されず、参加人数を限定した発表会となった。本校からの発表件数の内訳を表3-2に示す。

表3-2 第3ブロック専攻科研究フォーラムでの研究発表件数（専攻科1年生）

所属コース名	発表件数		
	オーラルセッション	ポスターセッション	合計
電気電子システム工学	2	未実施	2
機械制御システム工学	2	未実施	2
建設工学	2	未実施	2
合計	6	未実施	6

3.3 インターンシップ

今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で、インターンシップは行われなかった。海外インターンシップについても、例年、1年生希望者をKMITL（タイ国キングモンクット工科大学）に派遣しているが、今年度は中止となった。希望者については来年度の参加を検討することとした。

3.4 新型コロナウイルス感染症対応

4月からの遠隔授業期間では、テレビ会議システム（Microsoft Teams）を利用した年度当初のガイダンスを、4月10日に2年生、4月13日に新入学生を対象として実施した。また、例年4月に実施している新入学生向けの学位申請説明についてはMoodleを利用した動画配信により実施した。その他、履修届等の手続きについてもMoodleやTeamsを利用した。また、この間においても、特別研究については、許可を得たうえでの通学を可能とした。

6月15日から対面授業が開始された。専攻科棟は2足制であるが、今年度から学生個人に靴箱スペースを割り当て、他者と上履きを共有しないようにした。全コースが共通で受講する科目は人数が多くなるため、専攻科棟ではなく、本館棟の第一合併教室を使用するなど、密にならないようにした。

1月に実施された特別研究および特別研究基礎の発表会では、CAコースにおいて、オンラインを併用した方法を試行した。発表会場には発表者と指導教員が集合し、他の教員はTeamsで発表会に参加した。

4. 進路状況

令和2年度の進路状況を表4に示す。今年度も専攻科の求人状況は好調であり、就職希望者全員が内定をいただいた。また、今年度は大学院進学割合が増え、半数程度が大学院に進学することとなった。

表4 進路状況（令和3年3月）

電気電子システム工学コース	機械制御システム工学コース	建設工学コース
【就職】 アイテック阪急阪神 朝日レントゲン サンエー電機 【進学】 神戸大学大学院 奈良先端科学大学院大学(3名) 筑波大学大学院	【就職】 小松製作所（試験・研究） 小松製作所（開発・設計） 神鋼テクノ パナソニック アプライアンス 【進学】	【就職】 関西工務店 兵庫県庁 【進学】 大阪大学大学院 和歌山大学大学院

5. その他

5.1 第3ブロック専攻科長会議

令和2年度は石川高専を担当校として、7月17日（金）にWeb会議で開催された。協議事項では、「特別研究（学修総まとめ科目）について」、「新型コロナウイルスの感染防止のための対応の評価と今後の対応について」、「新型コロナウイルス対策への専攻科の取り組みについて」、「インターンシップについて」

て」、「学生の健康調査について」、「特例審査における専攻科定員（学生数はMax130%）について」について議論され、情報共有がなされた。また、承合事項では、「大学との連携教育プログラムについて」、「特例適用専攻科関係」、「JABEE 関係」、「入試関係」、「履修関係」等について各校の状況が説明された。多くの時間が新型コロナウイルスへの各校の対応状況の共有に費やされた。

5.2 近畿地区高専専攻科長会議

令和 2 年度は近畿大学高専を主幹校として、令和 3 年 1 月 6～15 日にかけてインターネット会議（Slack）により開催された。協議事項としては「特例適用専攻科における認定科目表について」について議論された。承合事項では、「特例適用専攻科関係」、「入試（志願者確保）関係」、「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度」等について各校の状況が説明された。

人 文 科 学 部 門

人文科学部門長 田村 修一

1. 授業公開

本年度は、新型コロナウイルスの全国的な拡大の状況を鑑みて、実施されなかった。

2. 英語デー

10月19日(月)、英語教員が実施運営主体となり、クラス担任等の協力を仰ぎ、教務委員会主催の学校行事としてTOEICおよびTOEIC Bridgeの団体受検を実施した。日頃の学習の成果および英語のリーディング・リスニング能力を評価する目的で、本科1・2年生はTOEIC Bridgeを、本科3年生から専攻科2年生まではTOEICを受検した。本年度は、本科3・4年生と専攻科1年生が全員受検(受検料無料)で、本科1・2・5年生と専攻科2年生は任意受検で、受検者が受検料の一部を負担した。

3. 英語プレゼンテーションコンテスト

第14回近畿地区高等専門学校英語プレゼンテーションコンテストは、11月14日(土)に開催された(主幹校 舞鶴工業高等専門学校)。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、テレビ会議システムを利用した遠隔開催となったため、事前にビデオ撮影された発表がストリーミング配信され、その後、審査員によるリアルタイムでの質疑応答が行われた。

シングル部門	電子制御工学科1年 宮武駿 Spike Master Award 受賞 タイトル: The Secret of Swing Spike
	建設システム工学科1年 谷口実沙莉 Great Greeting Giver Award 受賞 タイトル: How to Greet People in the COVID-19 Pandemic
	建設システム工学科3年 鮫島美雪 Creative Analyst Award 受賞 タイトル: How do you visualize "1÷1/2" ?
	電気情報工学科1年 根来真由 建設システム工学科1年 今西彩華 建設システム工学科1年 古川美緒 Humorous Presenters Award 受賞 タイトル: Cream Puff and Éclair with Milk Girls
チーム部門	

シングル部門では、宮武君は自身の特技であるけん玉をテーマに、「ふりけん」という技を成功させるための秘訣について、動作解析を交えて発表した。谷口さんは日本と欧米諸国での挨拶の仕方の違いに着目し、それを接触文化という視点から説明した。鮫島さんは分数の割り算をテーマに、どのように説明したら小学生にもわかりやすくなるのかを追求した。チーム部門ではフレッシュな1年生女子チームが、シュークリームとエクレアをテーマに、漫才のスタイルを取り入れたユニークな発表を行なった。全員がコンテスト初出場ということもあり、質疑応答で戸惑いを見せる場面もあったが、次につながる良い経験になった。

なお、英語教員全員が出場者の指導にあたった。

4. 外部資金導入

本年度は、人文科学部門教員で、以下の者が科研費等の外部資金を獲得している。

○児玉圭司教員

- ・(研究分担者) 基盤研究(B)「近代日本の地域自治一村と大字の法史学的研究」(代表: 川口由彦 法政大学教授)
- ・(研究代表者) 基盤研究(C)「官吏・典獄と被収容者から読み解く、明治日本の監獄」

○牧野雅司教員

- ・(研究代表者) 若手研究「外交文書の「見た目」から読み解く近世日朝関係の特質」

○荻田みどり教員

- ・(研究代表者) 研究活動スタート支援「源氏物語の受容を中心とした食に対する意識の変遷に関する研究」

○山根秀介教員

- ・(研究代表者) 若手研究「ウィリアム・ジェイムズの多元論哲学に対するシャルル・ルヌヴィエの影響に関する研究」

5. 舞鶴市郷土資料館企画展とワークショップの実施

10月3日(土)～10月30日(金)に開催された舞鶴市郷土資料館企画展「こどもが会える丹後伝説—AIで広がる“海辺の京都 浮世絵コレクション”」(於: 赤れんがパーク)において、荻田みどり教員が展示企画の協力を行い、その一画でポスター展示を行った。この企画展は、舞鶴市が所蔵する糸井文庫というコレクションを展示するもので、この糸井文庫の和本を解説する授業の実践紹介を行った。和本に触れたことのない高専生たち(3年生の総合国語ⅡBの授業で実施)が、AIの力を借りながらくずし字で書かれた糸井文庫の本を解説していく様子や、体験した学生の声を、実物の本とともに紹介した。

10月11日(日)には、関連企画としてワークショップ「AIを使って丹後の伝説を読む」を実施した(於: 赤れんがパーク)。参加者の方には授業と同様に、AIの機能を使いながらくずし字を解説する体験をしていただいた。

6. 「放課後教室」の実施

本年度も、自然・人文科学部門合同で「放課後教室」を開催した。これは、学生に学習する習慣を身につけてもらうこと、学生が教員に接しやすい環境を整えることを目的としたもので、定期試験の数週間前から週に2回程度、放課後(16:30～18:00)に低学年の教室を利用して行った。本年度は前期の中間試験が実施されなかったため、それに応じて「放課後教室」の実施回数、参加者数も、昨年度に比べ減少した。「放課後教室」は今年度を通じて15回開かれ、延べ人数で教員92人、学生345人が参加した。

7. 「総合演習」の実施

自然・人文科学部門合同で「総合演習」を実施した。1年生と2年生全員が週に1クラス、習熟度の向上を目的に課題に取り組んだ。

8. 教員の動き

令和元年度末をもって、教授・吉永進一先生(英語)、助教・KHAN SAMIA HASEEB先生(英語)、および嘱託教授・垂谷茂弘先生(社会)が退職された。令和2年度4月からは新たに平尾恵美先生(英語)を助教としてお迎えした。

自然科学部門

自然科学部門長 奥村 昌司

1. 教育の取り組み

(1) 新型コロナウイルス感染症の対応

4月は授業を実施せず、5～6月は遠隔授業を行い、前期の中間試験を実施しないなど、例年と異なった動きが必要であった。物理の実験では、1つのクラスを2つのグループに分け、各グループが実験を行う時間をずらすなどの工夫を行った。また、4年生の選択科目では、本来1つであったクラスを2つのクラスに分けて授業を実施するなどの対策をとった。

(2) 中学数学の復習と数学基礎力診断テスト（1年生対象）

4月入学の新入生に対する取り組みとして、入学前の数学の事前課題（宿題）を今年も配布して、新入生に対して中学数学の復習を促している。新年度の「基礎数学演習A」の授業時間内に確認テストを実施する予定である。今年度実施する予定であった確認テストは遠隔授業のための課題として利用した。

(3) CBT（1年生・2年生・3年生対象）

CBT「数学」・「物理」・「化学」を、教務係および情報科学センターの協力を得てクラス毎に実施した。「数学」については1年から3年の全クラス（12月10日～12月17日）、「物理」については2年の全クラス（1月15日）、「化学」については1年の全クラス（12月11日）を対象として実施した。トライアルを含めて4年目になり、スムーズに実施することができた。

(4) 学力向上対策（編入生・留学生対象）

今年度は電気情報工学科に1名の4年次編入生がいた。編入生については本人の希望と担任からの要請を受けて教科担当者が学習相談を実施し、補講および学習についてのアドバイスを行った。今年度は新たな留学生はいなかった。

(5) 総合演習（1・2年生対象）

人文科学部門と共同で担当している1・2年生の総合演習の時間に、数学、物理、化学などの日々の学習をおぎなう課題学習に取り組ませた。また、物理実験レポートの書き方について指導を行った。

(6) 放課後教室（主に低学年の希望者対象）

人文科学部門と合同で、学生に学習する習慣を身につけてもらうこと、学生が教員に接しやすい環境を整えることを目的として、「放課後教室」を今年度も実施した。

定期試験（前期期末、後期中間、後期期末）の約3週間前から週に2回程度、放課後に人文・自然科学部門の教員が数名待機する教室に学生を集めて予復習や試験勉強の学習支援を行った。成績不振者には担任から個別に参加を促し、基礎学力の向上をはかった。

今年度の「放課後教室」は年間を通じて15回開かれ、延べ人数で教員83名、学生345名の参加があった。今年度で3年目となる「放課後教室」への参加者数は年々増加しており、少しずつ学生の間に普及してきている。



放課後教室：勉強に集中する学生達



放課後教室：相談しながら勉強する学生達

(7) 進学希望の学生に対する学習支援

大学への編入学や専攻科進学を希望する学生に対する学習支援として、過去の大学編入試験や専攻科入学試験の問題について学生が解答した答案のチェックを行い、解答と解説を行った。

(8) 昨年度に整備した物理実験室・準備室に加え、今年度は化学実験室・準備室の整備を行い、理科学系科目における実験の充実を図っている。また、放課後に理科好きの学生たちを実験室に集め、理科教員の指導の下、理科に係わる活動を体験させている。

2. 学校広報

(1) 今年度、オープンキャンパスの代わりに実施された一日高専体験会において、会場へ来られた生徒や保護者の方に低学年の授業の様子を伝えるため、人文科学部門とともにパネル展示を行った。また、一日高専体験会に参加できなかった方にも舞鶴高専の授業の様子を知ってもらうため、ヴァーチャル一日高専体験会にて動画を配信した。動画では、自然科学部門が提供している授業の紹介や使用教科書、板書などの紹介を行った。



自然科学部門紹介パネル



一日高専体験会でのパネル展示

(2) 学校HP内の学生生活紹介ブログにおいて、自然科学部門に関わる記事を2点投稿した。6月25日の記事では、6月から再開した2・3年生の対面授業の様子を、数学、物理、化学の授業中の写真を添えて紹介した。11月17日(人文科学部門と合同)の記事では、上述の「放課後教室」の様子を紹介した。

3. 公開講座・出前授業

科学の楽しさを伝えるため、数学・理科が好きな小中学生を対象に、今年度は公開講座「遊んで、学ぶ。不思議なパズルとフィボナッチ数列」と「遊んで、学ぶ。計算機と平方根」を実施した。



公開講座「遊んで、学ぶ。
不思議なパズルとフィボナッチ数列」



公開講座「遊んで、学ぶ。計算機と平方根」

4. ジュニアドクター育成塾の取り組み

本校が平成31年度(令和元年度)に採択されて実施している、科学技術振興機構の行うジュニアドクター育成塾の事業の取り組みにおいて、自然科学部門では、今年度に第2段階育成プログラムに進んだ受講生を、数学のテーマ「再帰性と数学」、理科のテーマ「身近な現象のしくみを学ぼう」でそれぞれ2名ずつ受け入れ、課題研究の指導を行った。

5. 人事

- 令和2年4月1日、小島広孝氏を化学担当の自然科学部門講師として迎えた。
- 令和2年4月1日、熊谷大雅氏を数学担当の自然科学部門助教として迎えた。
- 令和3年3月31日、背戸柳実教授が定年退職される。昭和61年から36年間の長きにわたり務められ、その功績により名誉教授の称号を授与される。なお、背戸柳先生には来年度も嘱託教授として勤務いただく予定である。

機 械 工 学 科

機械工学科長 山田 耕一郎

1. 年間活動の概要

今年度はコロナ感染拡大防止対策や後期からの実習工場改修の為、例年よりも大きな制約を受けるなか、下記のような活動を行いました。

年 月	活 動 内 容
4月	・遠隔授業（課題等）開始
5月	・対面授業開始
7月	・出前授業「定規より便利な工具（ノギス）を作ろう」（舞鶴市立若浦中学校，7/14） ・舞鶴高専1日体験会（7/26）
8月	・舞鶴高専1日体験会（8/2） ・舞鶴高専1日体験会（8/9） ・舞鶴高専1日体験会（8/23）
9月	・舞鶴高専1日体験会（9/6） ・公開講座「考えて動かそう！きみにもできるロボットづくり」（9/12） ・公開講座「3D-CADを使ってみよう！パソコンで3Dモデル組立て」（9/13） ・公開講座「プログラミングによるドローンの自動飛行」（9/27）
10月	・出前授業「ハンドスピナーを作ろう」（舞鶴市立和田中学校，10/29）



若浦中学校出前授業で作成したノギス



和田中学校出前授業



舞鶴高専1日体験会（学科紹介）



舞鶴高専1日体験会（時計を作ろう！）

2. 地域企業の協力による製品企画の流れの体験

機械工学科では、4年生の設計製図Ⅲを利用し、地元企業の協力を得て製品の企画・製作などの流れを体験できる授業を行っています。今年度も本授業を利用して3件の連携授業を行いました。

1件目は、株式会社椿本チエインによる新製品開発提案授業を行いました。今年度の課題は、椿本チエインの製品を使用して、“人を幸せにする装置”の考案設計でした。遠隔授業期間中は、オンライン会議ツールを利用して班毎にアイデア出しを行い、提案製品の設計を進めました。教員と学生で予選会を実施し、評価の高かった上位3班が7月14日（火）の本選に進みました。本選の発表の際には、椿本チエイン京田辺工場の技術者の方々もオンラインで参加し、各班の発表に対して評価およびコメントをしてもらいました。10月13日（火）の表彰式は対面形式で執り行い、入賞した班の学生たちは、直接表彰状および副賞を受け取ることができました。また、発表会の審査を担当された椿本チエインの技術者の方から、各班が提案した装置に対する講評を頂きました。

2件目は、オムロン株式会社による課題解決型授業を行いました。綾部事業所で導入されているLCIA（簡便自動化）課題の解決設計に取り組みました。昨年度と同様、部品を供給するレールの設計を行いました。今年度は、感染拡大防止の観点から事前に学生発表の様子を動画撮影し、本校OB技術者に質問を頂きました。10月28日（水）は教員と学生のみでの発表を行いました。そこで事前に頂いた生産コストや加工性の面から質疑を伝え、それに回答する形で行いました。

3件目は、株式会社イシダによるメンテナンス実習授業を行いました。イシダから故障を仕込んだ計量器付きラベラーを借り、それらの故障に対するメンテナンスを行いました。イシダからは2回技術者を派遣してもらい、12月1日（火）はOBの仕事紹介を行うとともに、技術者にメンテナンス授業の様子を見てもらいました。また、12月23日（水）はイシダの技術者の前で、メンテナンス報告、機器改善の提案等を行い、技術者との質疑応答を行いました。

どの授業も学生にとって学校の授業だけでは経験できないとても実りの多い実習となりました。



椿本チエイン連携授業



オムロン連携授業



イシダ連携授業

3. 進路状況

今年度の進路状況は下記のとおりです。

就職（15名）	進学（10名）
IDEC, 旭化成, 大阪シーリング印刷 サントリーホールディングス, シーアールイー 東海旅客鉄道, 日産オートモーティブテクノロジー パナソニックLS社, 日立造船, ファナック 三菱電機ビルテクノサービス, 三菱パワー 村田機械, ヤンマーホールディングス 理研ビタミン	舞鶴高専専攻科, 京都工芸繊維大学 豊橋技術科学大学, 長岡技術科学大学, 金沢大学, 岐阜大学

4. 新任教員

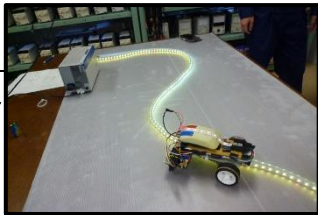
今年度から新たに、山本昌平（助教）に着任頂きました。

電 気 情 報 工 学 科

電気情報工学科長 中川 重康

1. 年間活動の概要

電気情報工学科の年間活動の概要を下表に示します。

年 月	内 容	
令和2年 6月 9日 28日	・4年生創造工学オンラインコンセプト発表会 ・新入生ガイダンス	 
令和2年 7月 3日 14日 26日 28日	・電気情報工学科 1年生向け学校案内 (7/3, 7/7, 7/8, 7/9) ・出前授業 「エクセルで画像処理」(若浦中学校) ・一日体験会(7/26, 8/2, 8/9, 8/22, 8/23, 9/5, 9/6) 学科展示「電気・電子回路を体験しよう!」 体験授業「ゲーム開発を体験しよう!」 ・4年生創造工学成果発表会	
令和2年 8月 8日 16日	・公開講座 「夏休み親子工作教室～太陽電池を使ったものづくり～」(大浦会館) ・公開講座 「夏休み太陽電池教室」(本校)	
令和2年 9月 1日 26日 27日 28日	・5年生卒業研究中間発表会 ・公開講座「環境発電エナジーハーベスティングを体験しよう」(本校) ・公開講座「生体情報を測定する脈波センサーの作成を体験してみよう」(本校) ・4年生工学基礎研究の研究室配属決定	
令和2年10月 3日 10日 22日 24日 27日 29日	・公開講座 「POV-RayによるCG制作を体験してみよう」(本校) ・公開講座 「電波を目で見てみよう」(本校) ・電気情報工学科特別講演会(電気三学会関西支部主催) 「ドローンによる地理空間情報の整備とICT技術」 株式会社GEOソリューションズ 加賀谷仁秀氏 ・公開講座 「3Dプリンターで作る立体造形プログラム入門」(本校) ・3年生電気情報工学実験(イルミネーションの開発)成果発表会 ・出前授業 「ゲーム開発を体験しよう」(和田中学校)	  
令和2年11月 7日 14日 15日 21日	・公開講座 「身近なものを使ってIoTを体験してみよう」(本校) ・公開講座 「プログラミング教室(中学生向け)」(本校) ・女子中学生一日体験会 ・公開講座 「プログラミング教室(小学生向け)」(本校)	
令和2年12月 6日	・公開講座 「チカチカ光るクリスマスツリーを作ろう!」(本校)	
令和3年 2月 2日 4日 16日	・4年生工学基礎研究発表会 ・出前授業 「プログラミングにチャレンジ」(2/4, 15, 岩滝小学校) ・5年生卒業研究発表会	
令和3年 3月 20日	・パワーエレクトロニクス オンライン公開講座 「電圧共振・電流共振・LLC・E級スイッチング」	

2. 学生による学会発表など

電気情報工学科学生の学会発表を下表に示します。*印は本学科出身の専攻科生です。

年 月	発 表 学 会	発表者
令和2年 9月	日本福祉工学会九州支部大会 熊本2020 「筋電位と膝関節角度を用いた人の歩行状態の事前推定」	小西 智裕*
令和3年 3月	第68回応用物理学会春季学術講演会 「液体金属を用いたショットキーバリアダイオード作製実験の実施」	内田 竣也 萩原 隆仁
	「ガリウム合金を用いたショットキーバリアダイオードの開発」	萩原 隆仁 内田 竣也
	令和3年電気学会全国大会 「近接配線によるゲート電圧保持現象の検証」	松本 瀬名
	「高速計測 I-V 特性に基づく MPPT 更新間隔の検討」	大西 一誉*
	2020年度先進的技術に関するシンポジウム（豊橋技術科学大学高専連携推進センター）「印刷プロセスによるフレキシブルデバイス作製」	晶 光流 金尾 啓史 山本有紀乃
	第3ブロック専攻科研究フォーラム 「Study on MPPT Simulation Based on High-Speed I-V Measurement」	大西 一誉*

3. 電気情報工学科特別講演会

令和2年10月22日(木)に本学科の特別講演会として、電気三学会関西支部主催の「学生のための講演会」を本校視聴覚教室にて開催しました。株式会社GEOソリューションズ開発部長の加賀谷仁秀先生に講師をお願いして、「ドローンによる地理空間情報の整備とICT技術」と題してご講演頂きました。学生達は、ドローンを取り巻く現状や地理空間情報分野におけるドローンの活用について、非常に興味深く聞いていました。

4. ジュニアドクターの取り組み



令和2年度、舞鶴高専ジュニアドクター育成塾（科学技術振興機構）の2年目の取り組みを実施しました。受講生は1年目に基礎講座や課題学習を行います。本学科は、基礎講座の「未来の技術を支えるプログラミング」、及び課題学習の「AI・IoTコース」を担当しました。2年目の受講生は、1年間に渡り研究を行います。本学科では「イルミネーションの作製」を研究テーマとして実施しました。この研究成果については、受講生がサイエンスカンファレンス2020で発表し、審査員特別賞を受賞しました。

5. 5年生の進路状況

今年度の5年生は、就職希望者が20名(56%)、進学希望者が16名(44%)でした。

【就職(内定企業)】: アイテック阪急阪神, イシダ, NTTコムウェア, NTTコムソリューションズ, NTTフィールドテクノ, NTTネオメイト, 大阪ガス, オムロン, 関西電力, キヤノンメディカルシステムズ, グローリー, サンテック豊岡工場, 西日本旅客鉄道, パナソニックアプライアンス社, 日立造船, 日立ビルシステム, FIXER, 本田技研工業, 三菱電機伊丹製作所, 三菱電機姫路製作所

【進学(合格先)】: 愛媛大学, 京都工芸繊維大学, 岐阜大学, 神戸大学, 山梨大学, 豊橋科学技術大学, 近大付属高専専攻科, 舞鶴高専専攻科(7名), 松江高専専攻科, HAL大阪

6. 教員の人事

4月1日に、情報科学技術による医療診断支援システムの開発を研究テーマとする森健太郎助教が着任しました。

電 子 制 御 工 学 科

電子制御工学科長 野間 正泰

1. 年間活動の概要

電子制御工学科の年間活動の概要を下の表に示す。

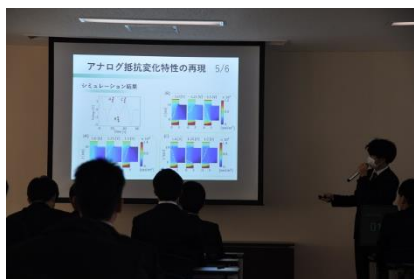
月 日	活 動 内 容	備 考
令和2年6月	新入生・専門学科ガイダンス	全教員
7月26日, 8月2, 9, 22, 23日, 9月5, 6日	一日体験会	若林, 藤司, 高木, 伊藤
8月, 11月	全日本小中学生ロボコン・舞鶴高専地区大会, 公開講座「作ってみよう! 移動ロボット」 (対象: 小学生, 中学生)	中止
9月	インターンシップ報告会	中止
11月10日	卒業研究中間発表会	2会場で実施, 35名発表
11月	学科特別講演会	中止
11月	4年生海外研修旅行	中止
12月	女子中学生一日高専体験会	中止
令和3年1月	授業公開	中止
1月21日	卒業研究発表会	35名発表
2月17日	創造設計プロジェクト競技会	リモート併用



卒業研究発表会



卒業研究発表会



卒業研究発表会



卒業研究発表会

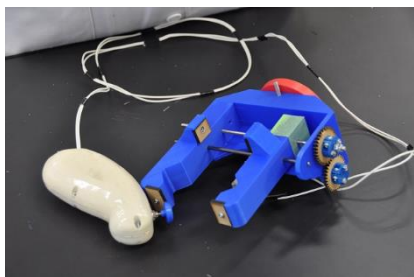
2. 教員人事

令和2年5月1日付で西 佑介氏が准教授として着任された。専門分野は酸化物エレクトロニクス、電子回路、半導体工学であり、企業経験を生かした教育・研究での活躍が大いに期待される。

3. 創造設計プロジェクト

例年是对戦形式のロボコンを通じたPBL (Project-based Learning) を実施しているが、今年度は対面授業と遠隔授業の両立が可能となるように、新たな様式が導入された。各グループで MATLAB (Simulink, ROS toolbox) と物理シミュレータ (Gazebo) を用いたモバイルロボットのソフトウェアの開発と、3D-CAD と 3D プリンタを用いたロボットハンドの開発が行われた。

課題はコンビニエンスストアでの商品陳列（移動）を想定し、形状や重さの異なる9個の商品（質量100g以下、約200g、500g以上のおにぎり、サンドイッチ、カップ飲料）を「陳列棚エリア」から「専用トレイエリア」まで把持するロボットハンドに関する課題が設定された。ロボットハンドはティーチングペンダントとロボットハンド用コントローラの手動操作によって制御された。



4. 進路状況（5年生）

最近5年間の進路状況を下の表に示す。本年度の進路指導は5S担任の高木太郎准教授が担当し、就職希望者と進学希望者の進路が確定した。

年度	卒業予定者数	就 職	進 学 (専攻科・大学編入学)	その他 (自営業・専門学校)
令和2年度	34	21	13	0
令和元年度	28	14	14	0
平成30年度	37	22	15	0
平成29年度	27	17	10	0
平成28年度	35	18	15	2

建設システム工学科

建設システム工学科長 尾上 亮介

1. 年間活動の概要

建設システム工学科の活動概要を下表に示す。

年 月	活 動 内 容
令和2年 7月	・ 新入生対象専門学科ガイダンス (7/20) ・ 1日体験会 (7/26)
令和2年 8月	・ 1日体験会 (8/2, 9, 23, 30)
令和2年 9月	・ 1日体験会 (9/6) ・ 公開講座「住まいの設計と模型制作」 (9/12)
令和2年 10月	・ 公開講座「椅子の制作」 (10/4) ・ 卒業研究/卒業設計 中間発表会 (10/8) ・ 公開講座「水をきれいにする試み」 (10/10) ・ 建設技術展 2020 近畿 学校ブース出展 (10/21, 22)
令和2年 11月	・ 公開講座「レオナルド・ダ・ヴィンチの橋をつくろう」 (11/7) ・ 公開講座「テンセグリティ～宙に浮かぶ構造体を作ろう！」 (11/8) ・ 4C 見学会 舞鶴国際ふ頭 (11/11) ・ 公開講座「住宅建築模型制作(住吉の長屋)」 (11/15)
令和2年 12月	・ 出前授業「住まいの設計」 (白糸中学校 (12/3, 9))
令和3年 1月	・ 出前授業「住まいの設計」 (和田中学校 (1/20)) ・ 卒業研究/卒業設計 発表会 (1/28)
令和3年 2月	・ まいづる土木・建築フォーラム (2/17)

2. 教育活動

(1) 4年生インターンシップ

本年度のインターンシップは新型コロナウイルス感染予防の影響で実施は少ない。

1日インターンシップ等に学生は参加した。

(2) 現場見学会

新型コロナウイルス対策を実施した上で、舞鶴国際ふ頭の現場見学会に参加した。

港湾の役割や工事概要の説明を受けた後、船上から地盤改良工事(サンドコンパクションパイル工法)、ガントリークレーンに搭乗して、高所からコンテナの役割について学習した。

若手技術者の方々と意見交換会が開催され、進路や業務内容などについて考える機会となった。(写真1, 2)



写真1 現場見学会



写真2 現場見学会

(3) 第10回まいづる土木・建築フォーラム

令和3年2月17日（水）に当学科主催のフォーラムを開催した。毎年、舞鶴市市政記念館で開催しているが、本年度は新型コロナウイルスの感染拡大に配慮し、ネット配信で開催した。このフォーラムでは、5年生が卒業研究で取り組んだ地域に関連したテーマを中心に、9件の口頭発表を行った（写真-3, 4）。



写真3 舞鶴土木・建築フォーラム 発表風景

3. 学科活動

(1) 公開講座，出前授業

公開講座は、住宅建築をテーマとした「住宅建築模型制作」シリーズ，「椅子の制作」を実施した。都市環境系のテーマとして，「レオナルド・ダ・ヴィンチの橋をつくろう」，「テンセグリティ～宙に浮かぶ構造体を作ろう！」

「水をきれいにする試み」などを実施した。出前授業では，12月から1月にかけて「住まいの設計」を舞鶴市内の白糸中学校，和田中学校で実施した（写真-5）。



写真4 舞鶴土木・建築フォーラム 発表者集合写真

(2) 1日体験会

舞鶴での1日体験会では，本学科の概要（学習内容，進路等）について説明すると共に，設計製図などの授業で取り組んだ学生の建築作品やドローンなど最新の測量機器，地域と連携して取り組んだ卒業研究・卒業制作について紹介した。

4. 進路状況

令和2年度卒業生の進路は下表のとおりである。近年は企業や官公庁の採用意欲が旺盛で就職は好調である。建築コースでは進学するものが多い傾向がある。



写真5 公開講座「椅子の制作」

表 令和2年度進路状況

コース	就職			進学・編入学			合計
	民間企業	官公庁	小計	専攻科	大学学部	小計	
都市環境	11	1	12	1	4	5	17
建築	9	1	10	3	5	8	18
合計	20	2	22	4	9	13	35

図 書 館

学術情報センター長 伊藤 稔

1. ブックハンティング

今年度のブックハンティングは、新型コロナウイルス感染症の影響で中止とせざるを得なかった。その代替として、令和3年1月に山根秀介委員の主導で各クラスの図書委員を通じ購入希望図書の募集を行い、48冊を購入した。

2. 令和2年度近畿地区高等専門学校図書館連絡協議会

令和2年10月22日に奈良高専の主幹でMicrosoft365 Teamsによるオンライン開催で行われた。図書館運営や新型コロナウイルス感染症への対策など、各高専での様々な取り組みについて意見交換を行なった。なお、今回は令和4年度に近畿大学高専の主幹で開催される。

日 時：令和2年10月22日（木）13:40～14:48

場 所：Microsoft365 Teamsによるオンライン開催

参加校：舞鶴高専、明石高専、奈良高専、和歌山高専、大阪府立大学高専、神戸市立高専、近畿大学高専

3. 令和2年度紀要第56号の発刊

広報委員会から学術情報センターに担当が変わり2年目の今年度は、舩木英岳委員の主導で発刊した。令和2年10月に原稿の募集を開始し、6件の投稿があった。紀要編集委員会で投稿された原稿全てを掲載と決定し、令和3年3月に発行された。

4. 長岡技術科学大学・高等専門学校統合図書館システム（E-Cats）

長岡技術科学大学附属図書館が、全国立高専55キャンパスと連携し、当該システムを管理・運用している。このシステムの最大の特徴（利点）は、同大学にサーバ管理業務を集約し、システム管理やメンテナンス等を同大学が一元的に行っている点である。なお、現行システムは第3期に当たり、平成29年3月に開始された。

5. 研究支援サービス

図書館ホームページ中の「研究支援サービス」のページより、以下の電子ジャーナル及び学術情報データベースなどを提供している。

■ 長岡技術科学大学によるコンソーシアムを介して提供しているサービス

- ScienceDirect
- AIP (American Institute of Physics)
- APS (American Physical Society)
- JDreamIII

■ 機構本部によるコンソーシアムを介して提供しているサービス

- Science, MathSciNet, CiNii

■ ヨミダス文書館

- 読売新聞がネットで読めるオンライン・データベース

■ 国立情報学研究所(NII)が行っているサービス

- NACSIS-ILL（図書館間で行われている相互貸借サービス（文献複写や資料現物の貸借の依頼及び受付）のメッセージのやりとりを電子化したシステム）
- ILL文献複写等料金相殺サービス（NACSIS-ILLの料金情報を元にして参加機関同士の利用料金を相殺するシステム）
- Webcat Plus（NII図書情報ナビゲータ）
- KAKEN（科学研究費助成事業データベース）
- JAIRO（学術機関リポジトリポータル）

■ その他の機関が行っているサービス

- NDL-OPAC（国立国会図書館蔵書検索、複写・貸借申込みシステム）

6. その他

■ 新型コロナウイルス感染症の感染防止対策

令和2年6月29日の対面授業再開にあたり，図書館においてもマスク着用や手指のアルコール消毒，出入り口や窓の常時開放による換気，閲覧室の座席配置や座席数の削減による飛沫感染予防，貸し出しカウンターのビニールシート設置などの感染防止対策を行なった。

■ 図書館のトイレ改修

図書館のトイレ改修が行われた。機器だけでなく，壁・床も綺麗になり，大きな鏡も設置され雰囲気も明るくなった。

■ 図書館所蔵資料の不要認定

今年度，山根秀介委員の主導で人文分野の所蔵資料の不要認定（203冊）を行なった。

情報科学センター

学術情報センター長 伊藤 稔

情報科学センターには、「教育・研究部門」と「機器運用部門」の2つの部門がある。教育・研究部門では、学術交流に関する講演会、全学生対象のネットワーク講習会などを行っている。機器運用部門は、校内の教育、研究および業務において使用するサーバやネットワーク機器類の維持管理と教育用電子計算機システムの運用を行っている。

1. 教育・研究部門

■ 情報科学センター講演会

情報科学センターでは産官学の技術交流の一環として、学内外の技術者や研究者が情報交換を行う場とし、年に1回の講演会の企画・開催を行なってきた。今年度は、今村友里子委員の主導で開催に向けて準備を進めてきたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて中止せざるを得なかった。社会情勢次第であるが、来年度は開催できるように準備を進めていきたいと考えている。

■ ネットワーク講習会

情報科学センターでは、毎年、全学生を対象にネットワーク利用講習会を行なっている。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、オンライン上での自習コンテンツを利用した講習会を実施せざるを得なかった。準備期間も短かったため、トラブルも少なくなかったが、ほとんどの学生が真面目に取り組んでくれた。今回分かった問題点などを、来年度以降の講習会の実施に反映していきたいと考えている。

2. 機器運用部門

■ 遠隔授業への対応

本校だけの問題ではないが、今年度、新型コロナウイルス感染症の影響で遠隔授業が全学的に実施された。全教職員が遠隔授業の実施や授業コンテンツの作成、学校運営に様々な工夫を凝らして取り組む中、センターとしては新入生や非常勤講師へのアカウント配布方法の工夫、各種サービスに関する問い合わせやトラブルへの対応を行なった。

■ 教育用電子計算機システムの管理・運営

現在稼働中の教育用電子計算機システムは、平成29年3月に更新され4年が経過した。大きな障害が発生することなく、授業や実験実習で有効に活用されている。本システムのリース期間が5年間であるため、今年度の学術情報センター運営委員会でリース延長の可否について議論した結果、リース期間の延長を行うことに決定した。次年度はリース期間の延長契約を行う計画である。今年度は、本システムのメンテナンスとして、令和3年3月にPhantosysのマスターイメージの最適化作業を行なった。

■ 校内LAN基幹システムの運営

校内基幹LANシステムが更新されて2年が経過した。これまで大きなトラブルもなく安定して稼働している。一方で、エッジスイッチから各部屋間においてCat5以下の古いLANケーブルが一部残されていたが、GIGAスクール構想の補助金により張り替えられた。また、校内に整備されている無線LANのエリア拡大を目的とし、令和2年度補正予算を活用し、制御棟3階に無線LANアクセスポイントの増設を予定している。

■ Moodleのサーバ拡張

遠隔授業の実施に伴い、各教員が授業資料や課題など多くのコンテンツをMoodleにアップロードすることとなった。Moodleにアップロードされるデータ量の増大により、サーバのストレージが容量不足に陥ることが予想されたため、井上泰仁委員の主導でサーバの拡張を行なった。現状として、大きな問題もなく運用が行われている。

3. その他

■ 新型コロナウイルス感染症の感染防止対策

令和2年6月29日の対面授業再開にあたり、情報科学センターにおいてもマスク着用や手指のアルコール消毒、出入り口や窓の常時開放による換気などの感染予防対策を行なった。また、コンピュータの使用前に学生が自分で消毒できるように除菌シートを演習室に常備した。

■ 令和2年度近畿地区高等専門学校情報処理教育連絡協議会

今年度は、舞鶴高専の主幹でMicrosoft365 Teamsによるオンライン開催で行われた。各高専の情報部門の運営、遠隔授業対応などの新型コロナウイルス感染症対策について意見交換を行なった。来年度は神戸市立高専の主幹で開催される。

日 時：令和2年度10月1日（木）13:00～

場 所：Microsoft365 Teamsによるオンライン開催

参加校：舞鶴高専，明石高専，奈良高専，和歌山高専，大阪府立大学高専，神戸市立高専，
近畿大学高専

■ 令和2年度補正予算関係

情報科学センターとして、令和2年度補正予算「大学等における遠隔授業の環境構築の加速による学習機会の確保」を利用し、学生への貸与用ノートパソコン（Microsoft Surface Pro 7）を50台購入した。また、遠隔授業やWeb会議などでの利用を想定し75インチの電子黒板（MAXHUB）を3台購入した。その他、遠隔授業の推進に必要な備品をこの補正予算を活用し購入した。

■ 情報科学センターのトイレ改修

今年度、情報科学センター内のトイレ改修と女性用トイレの新設を行なった。今回の女性用トイレの新設で女子学生の利便性を向上することができたと思われる。

教育研究支援センター

教育研究支援センター長 谷川 博哉

教育研究支援センターでは、昨年度に引き続いて、教育研究の支援ならびに地域貢献等に関連して、さまざまな取組みを行った。現在、常勤11名、再雇用1名体制で職務を遂行している。

以下に、本年度に技術職員が取り組んだ活動および成果について報告する。

1. 教育研究支援

本年度も昨年度までと同様に、実験・実習を中心として教育研究支援の役割を果たしてきた。本年度は新型コロナウイルス感染拡大の状況下、年度初めの4月からの授業が開始できない事態となった。対応策として、4月は遠隔授業の準備期間とし、5月8日から遠隔授業が開始された。教育研究支援センターに所属する技術職員としては、実験・実習の担当がメインであるが、実験・実習を遠隔授業で行うための資料や動画の制作などを行った。遠隔授業は、正規の授業時間中にWeb上で出席をとり、授業ごとに用意されたコンテンツを学生が視聴する、という形式で行われた。コンテンツ作成に当たって課題の設定が求められており、視聴後、学生は課題とレポートを提出する。実験・実習に関しても、Web上に提出されたそれらの課題、レポートをチェックし、添削内容をアップロードして返却するなど、新しい形態の対応を行った。

6月15日からは4・5年生と専攻科生、6月22日からは2・3年生、6月29日からは1年生の対面授業が順次開始された。なお、遠隔授業を希望する学生には、前期の間、そのまま遠隔授業が実施された。対面授業に移行した後はマスク着用の徹底やこまめな消毒、できるだけ3密を避けるなどの感染症対策をしつかり行いながら、年度末まで一人の感染者も出さずに実験・実習を続けることができた。全学的に祝日に通常授業をしたり、夏季休業を短縮したり、中間試験を実施しなかったり(代わりとなる課題を設定)など、特別な日程の年度となった。

そのような状況下、学校全体の新型コロナ感染症対策の取組の支援を行った。対面授業を開始するにあたり、6月2日より、毎朝学生に健康調査の質問(発熱や風邪症状がないか)について回答依頼のメールを送信し、Web上で回答してもらうこととなった。対面授業開始後においては、何らかの症状があると回答した場合、その日を入れて8日間(または医師の許可が出るまで)の自宅療養(待機)をお願いするというルールのもと、年度末の2月21日まで毎日回答を続けてもらった。その日の全学生の回答結果が集計され、全教職員(特にクラス担任と学生指導の教職員)が未回答者や体調不良を回答した学生を確認できるような仕様のシステムを、本センターの石井技術専門職員が開発し、運用・保守を行った。

2. 学生の出欠管理システムについて

学校全体の取組として、本科1～5年生については、昨年度より電子版出席簿を用いた出欠管理システムが運用されている。Web上に置かれた学年ごとの出席簿ファイルに、それぞれの科目担当者が授業ごとに学生の出欠を入力することで、クラス担任や教務関係の教職員は、学生の全科目についての出欠状況を把握できるようになっている。新型コロナの影響で実施されることとなった遠隔授業とも親和性がよいシステムであるが、年度当初から何度か時間割の変更が行われたため、その都度出席簿ファイルを更新するなどの対応が必要となった。

この出席簿ファイルをもとに、始業時のショートホームルームを欠席した学生、および午前中の授業で出席が確認できていない学生に対して欠席確認のメールを送信している。安否確認の意味もあり、クラス担任と保護者にも送信される仕組みになっている。昨年度は教務委員が手動でメール送信のプログラムを実行していたが、今年度より新しいRPAツールを導入し、欠席確認のメールは定時に自動で送信できるようになった。

この出欠管理システムは、本センターの石井技術専門職員が作成し、運用・保守を行っている。

3. 実習工場の改修について

実習工場の運営・管理や工作実習等は本センターの技術職員が行っているが、令和2年度、実習工場A棟の改修工事が行われた。外壁・内壁と屋根の修繕と塗装、床のコンクリート打ち直しと防汚塗装、窓サッシの交換、断熱のための天井の設置、電気配線と照明のリニューアル、エアコンが設置されるなど、様々な面で新しくなった。

改修中は実習工場A棟が使えなくなるため、改修に対応するための工作実習等のスケジュールを組んでいたが、新型コロナの影響があり、さらなる変更が必要となった。通常では週1回の工作実習を、改修期間中の他の科目の時間と入れ替えて週2回ずつ行ったり、さらに土曜日に行うなど、特別なスケジュールにて対応した。令和3年3月には無事に改修を終え、新しくなった実習工場で次の年度を迎えることができた。

4. 公開講座および出前授業

令和2年度は公開講座1件を行った。受講生の皆さんに、なぜ？と不思議に感じてもらうことや、身近にある材料で作成できることなどを考慮し、公開講座や出前授業用の教材を開発している。当センターの公開講座等WGでは、ものづくりの楽しさを感じてもらおうと同時に、さまざまな科学技術にも触れてもらうことなども考慮し、公開講座や出前授業の教材を開発している。

令和2年11月23日には、教育研究支援センター主催の公開講座「中学理科復習シリーズ 第1弾【実験】水溶液の性質」を開催した。

今回は、中学の理科を高専で学ぶという初めての試みを行った。これまでは、何か「もの」を作って、持って帰ってもらう講座がほとんどだった。しかし、今年は新型コロナウイルスの流行で学びの機会が不十分になり、全国で授業の遅れが心配された。そんな中、ものづくり体験の講座だけでなく、学びの講座を取り入れて、学びを持って帰ってもらう講座はどうかと提案させていただいた。高専を進学の視野に入れるならば、「中学の理科は絶対出来るようになってほしい」、そんな思いから実験を通して復習できる講座を考えた。

今回の講座は、中学生8名の生徒さんに参加していただいた。小学校でも学んでいるみたいで、概ねみなさん勉強したことのある内容とのことだった。

生徒さんからは、「実験が出来て良かった」「今までの講座で一番楽しい」など、喜んでもらった。保護者様からも好評のため、理科実験を今後も開催していこうと思う。



5. フェイスシールドの作製

年度当初、新型コロナウイルスの感染拡大に収束の気配が見えない中、医療の最前線では逼迫した状態が続き、防護服などの物資不足に関する報道も頻出していた。そんな中、大阪府吉村知事の「雨がっぱを提供してください」という呼びかけに、本校電子制御工学科の藤司助教が衝撃を受け、フェイスシールドの作製に取りかかった。

フェイスシールドの作製は、校長を初めとする、教員や事務職員、技術職員のサポートの下行われた。西村技術専門職員はフェイスシールドのシールド部分の作製を担当した。シールド部分は地元企業から提供されたOHPシートをレーザー加工機にて切り出した。

フェイスシールドは6月までに260セット（1セットはフレーム1個につきシールド3枚を意味する）作製され、大阪府健康医療部他、舞鶴市内の歯科医院クリニックや小中学校にも寄付され、舞鶴市教育委員長より感謝状を拝受した。



6. 人事交流

平成30年4月から明石高専の井谷技術専門職員が人事交流のため舞鶴高専で勤務している。舞鶴高専での技術職員の人事交流は今回で2回目となる。人事交流は、異なる組織間の相互理解を深めるとともに双方の組織の活性化と人材育成を図り、相互発展の契機の一つになると考えている。当技術専門職員は舞鶴高専での実務を経験することを通じて職務遂行の技術を体得し、成長していると感じた。

今後も人事交流を相互発展の機会と捉え、取り組みを推進していきたい。

地域共同テクノセンター

地域共同テクノセンター長 玉田 和也

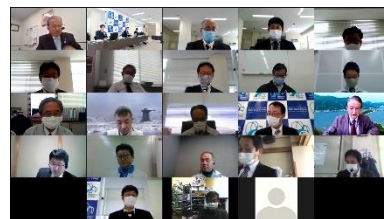
地域共同テクノセンターは地域貢献活動の推進、および地域の企業や官公庁との連携の強化を目的として、種々の活動を実施しています。令和2年度の主な活動内容を以下に報告します。

1. 舞鶴高専地域テクノアカデミア

舞鶴高専地域テクノアカデミアは、本校と地域産業界の連携強化のために設立された企業団体で、地域共同テクノセンターはその活動推進を担当しています。

今年度は12月2日にオンラインで総会が開催され、会員企業や地元自治体関係者及び本校関係者ら21名が参加しました。新規参加企業の紹介、昨年度の事業報告や今年度の事業について話し合われたほか、本校玉田和也教授による舞鶴高専の活動報告、内海康雄校長による「北近畿地域におけるSDGsを踏まえたコンパクトシティ構築－中山間・沿岸地域の諸課題の解決－」と題した講演が行われました。

また、12月23日には、男女共同参画室と地域共同テクノセンターが共同開催した「女子学生キャリアデザイン2020」に、舞鶴高専地域テクノアカデミアの会員企業様から講師を招聘しました。



オンライン総会の様子



内海校長による講演



舞鶴市建設部
土木課整備係主事
佐藤知佳様（舞鶴高専卒業生）



株式会社日進製作所
産装開発部 I T 開発課
井崎千尋様



日東精工株式会社
産機事業部技術部開発課開発係
山下恵梨佳様（舞鶴高専卒業生）

2. 科研費説明会

科研費の獲得を目的として、本校教職員を対象とした科研費説明会を、6月4日（木）および7月9日（木）の2回に渡って開催しました。今年度の説明会は、会議室に集合して実施する対面形式だけでなく、オンライン形式での参加も可能にしました。第1回は外部資源獲得の重要性について、内海校長に説明していただきました。また、今年度の科研費採択状況についての情報共有を行いました。第2回は科研費応募に向けた準備として、取得した経験をもつ西先生に科研費応募書類の作成ミニ講座を開催していただきました。



科研費説明会

3. 研究グループの構築

高専全体の運営交付金の減額が続く状況において、外部資金を獲得することは不可欠となります。また充実した教育を行うためには、教職員が関係する分野における科学・技術や教育方法などの研究が必要です。本校においては、これまでに外部資金の獲得のための説明会、科研費の申請書へのアドバイス、教員とKRAとの研究テーマについての面談、研究推進・産学連携本部が行う研修会への参加などを行ってきました。

より活発な外部資金の獲得と教育・開発を含む研究を推進するために、「研究グループ形成支援事業」を創設し各分野あるいは分野を横断したメンバーから構成される研究グループを構築することとなりました。これにより、複数の教職員が連携して、より広いあるいは深い教育・研究のテーマの発見や内容の展開、研究の企画・申請・実施の能力の向上、講演や論文数の増加、研究成果の教育への還元などの効果を期待するものです。

令和2年度も、本校の研究活動の活性化（学会発表、論文掲載など）、外部資金獲得（国プロ、科研費、企業との共同研究、その他）の大幅向上を目的として、研究グループの形成および研究グループによる外部資金獲得に向けた必要経費（予算上限40万円／年）に対して支援を行いました。

昨年度採択された研究グループ形成支援事業5件の成果報告会を7月9日に実施するとともに、新たに令和2年度研究グループ形成支援事業の募集を行い、6件の申請から5件が採択されました。

4. 展示会

舞鶴高専および教員の研究成果をPRするために積極的に展示会に出展しています。

(1) 建設技術展2020近畿（10月21日、22日）



「マイドームおおさか」にて開催された建設技術展2020近畿に学校ブースを出展しました。今年度の建設技術展は、ブース数191（内、学校13ブース）、来場者数延べ13,614人でした。

舞鶴高専の学校ブースでは、学校紹介、学生募集、学科紹介、iMecの紹介などのパンフレットの配布を行いました。多くの進路先企業の皆様と情報交換を行うとともに、舞鶴高専の卒業生がブースにたくさん足を運んでくれました。



5. 公開講座・出前授業

舞鶴高専では、地域貢献の重要な手段として、公開講座と出前授業に積極的に取り組んでいます。令和2年度は公開講座を49件、出前授業を29件実施しました。地域共同テクノセンターは公開講座・出前授業を管轄しており、今年度からは実施予定のチラシを6.5万枚印刷し、近隣の中学生全員に配布するなど活性化に向けた取り組みを行っています。



公開講座
「夏休み太陽電池教室」



公開講座
「考えて動かそう！
きみにもできるロボットづくり」



養父市立大屋中学校出前授業
「レオナルド・ダ・ヴィンチの
橋を作ろう！」

6. ナノテクノロジー教育センター (ntec)

IoT時代を迎えた今、ナノテクノロジーの基礎となる知識と技術が高専においても必要とされています。ナノテクノロジーの基礎知識を学ぶためには、成膜、リソグラフィ、ドライエッチング、観察のプロセスが必要で、それに対応する装置として、ナノテクノロジー教育センターには真空蒸着装置、走査型電子顕微鏡（電子ビーム描画可能）、走査プローブ顕微鏡などの装置、電子サイクロトロン共鳴型イオンシャワー装置（本年度設置）がクリーンルーム（クラス1000）内に設置されています。

これら機器を利用して、公開講座「小・中学生のためのナノテクノロジー体験教室」を令和2年11月8日（日）に開催するにあたり、コロナ禍での開催ため、以下の対策を行いました。①新型コロナウイルスに関するチェックシートの提出、②常にマスクの着用、③入口にて検温と手指のアルコール消毒、④3密を避けるため付き添いの保護者は1名まで、⑤共用の実験器具などを触らないように役割分担、⑥10分毎に換気などを行いました。

この公開講座では、小・中学生にナノテクノロジーが身近なところ（スマートフォンやゲーム機）に使われていることを認知、理解してもらうことを目的としています。公開講座では、ホワイトボードに髪の毛の太さやインフルエンザウイルス、原子の大きさなどのスケールを示し、それらを観察するのに適した顕微鏡の種類を示しました。次に、小学生と中学生で班を分け、光学顕微鏡の製作とマイクロピペットを用いた液滴練習をそれぞれ行いました。その後、清原研究室で開発したポータブル超音波振動液滴室温ナノインプリントシステムを用いてインプリントを行いました。最後に、インプリント結果を光学顕微鏡で観察し、インプリントしたマイクロギヤのパターンと同倍率のスケールバーを配布し、実際にマイクロギヤの歯先円直径を計測し、算出してもらい、マイクロ、ナノといった大きさを実感してもらえました。

小・中学生にポータブル超音波振動液滴室温ナノインプリントシステムを用いて実験、観察してもらうことを通して、ナノテクノロジーについて知ってもらうことができ、小・中学生にナノテクノロジーとは何なのか、理解してもらうことができました。



(a) ナノテクの説明およびモノの大きさと顕微鏡の関係



(b) マイクロピペットによる液滴練習



(c) ナノインプリントによるマイクロギヤパターン形成



(d) 光学顕微鏡の製作およびマイクロギヤの計測

公開講座の様子

本科5年生による卒業研究、また展示発表などを行うためにナノテクノロジー教育センターを利用しています。清原研究室では産学官共同研究の下でPDMSモールドを用いた超音波振動液滴室温ナノインプリントによるダイヤモンドライクカーボン（DLC）ドットアレイやマイクロギヤの作製を行っており、転写パターンやイオンシャワー加工後のDLCパターンの観察に走査プローブ顕微鏡を使っています。得られた研究成果は、THE高専@SEMICON Japan 2020にて展示発表する予定でしたが、延期となりました。

石川研究室では有機EL材料を応用した有機放射線検出器の開発を行っており、真空蒸着装置を用いて有機デバイスを作製しています。

小林研究室では、電子ビーム描画により作製したナノ構造を使って、ナノ構造周りの流れの様子を明らかにしようとしています。

内海研究室では、表面プラズモン共鳴吸収を利用したカラーフィルタ、シリコン太陽電池および半導体教育用ショットキーバリアダイオード教材の開発を行っています。また、その成果については応用物理学会で発表しました。

今後、ナノテクノロジー教育センターは、ナノテクノロジーの基礎知識の習得の場として、また地元企業に対して最先端のナノテクノロジー（超微細加工技術）に触れる場として産学共同研究の拠点となることを望んでいます。

7. 知的財産セミナー

地域共同テクノセンターでは、本科4年生を対象とした知的財産セミナーを令和2年12月2日（水）に開催（コロナ禍のため事前申し込み制）しました。

弁理士 光明寺大道氏に特許の重要性、特許の活用形式、最近の動き、特許とその書類、特許出願の手続き、各分野における特許を用いた具体的事例について講義していただきました。

知的財産権に関する基礎知識、また社会人になるに当たって最低限必要な特許の知識を学びました。非常に興味深く聞き入る学生が多く、積極的に発明クイズなどに解答する学生たちの姿が見られました。



8. その他

地域共同テクノセンターとしての今年度のその他の事業としては、公開講座・出前授業に係わる救急箱及びコロナ対策に資する検温カメラ、アクリル板を購入しました。安心・安全な公開講座・出前授業の実施に向けた万全の準備を行いました。

社会基盤メンテナンス教育センター (iMec)

社会基盤メンテナンス教育センター長 玉田 和也

安全・安心な暮らしには、橋梁やトンネル、高速道路等の社会基盤（インフラ）の適正な維持管理が不可欠です。インフラの老朽化が全国的に問題となる中、市町村では技術力不足のため適切な維持管理が困難な状況にあります。『建設』から『維持管理』へ思考を転換し、インフラの維持管理や修繕等に対応できる人材の育成が急務となっています。

1. 社会基盤メンテナンス教育センター (iMec) 講習会

iMecでは、e+iMec講習会において、全国の建設系の高専生、行政機関技術職員、民間企業技術者等を対象に、地域インフラを守る建設技術者のためのメンテナンス技術力向上プログラムを実施しています。

e+iMec講習会では、事前学修として講習会2週間前よりeラーニングを行い、iMecでの講習会は体験型学修に重点を置いてアクティブ・ラーニングを行うことで、効率的かつ効果的な教育を行っています。学修ニーズに対応して、橋梁点検、舗装と防水層、コンクリートの品質管理、地盤と斜面、鋼構造物の非破壊検査の講習会を実施しており、今年度はe+iMec講習会を18回開催し、162名が受講しました。また、令和3年3月末時点での累計受講者数は、1189名です。

橋梁点検技術者育成のステップアップ型教育プログラムとして、基礎編（橋梁点検）と応用編（橋梁点検）を実施しており、講習会修了後に実施する技術資格認定試験の合格者には、(独)国立高等専門学校機構として技術資格(准橋梁点検技術者及び橋梁点検技術者、橋梁点検技術者は国土交通省登録資格)を認定しています。令和3年3月末時点での資格登録者数は、准橋梁点検技術者389名、橋梁点検技術者は36名です。

舞鶴工業高等専門学校公開講座
 produced by Infrastructure Maintenance Educational Center
 NIT Maizuru College

“e+iMec講習会”

～地域インフラを守る建設技術者のためのメンテナンス技術力向上プログラム～

eラーニングと講習会を組合せたアクティブ・ラーニング(能動的学修)

オンデマンド型自己学修支援システム

- ・講習会前の事前学修
- ・講習会後の継続学修

e-learning + iMec 講習会

Active-Learning

社会基盤の維持管理に関する実践的教育施設で座学と体験型学修による効果的な教育を実施

《 橋梁点検技術者育成のためのステップアップ型教育プログラム 》

e+iMec講習会
【橋梁点検】

導入編

基礎編

「准橋梁点検技術者」認定講座

地方自治体が発注する一般的な橋梁形式の点検業務を実施できるレベル

応用編

「橋梁点検技術者」認定講座

国土交通省が発注する全ての橋梁形式の点検業務を実施できるレベル

開催概要		受講実績 (R3.3月時点)		
基礎編	毎年度10回程度 4月～12月に開催 (月1・2回程度) 2日間講習@iMec	行政	215人	920人
		民間	575人	
		学生	130人	
応用編	毎年度2回程度 8月～9月に開催 3日間講習@iMec	行政	18人	102人
		民間	84人	

➤ (独)国立高等専門学校機構認定技術資格(『准橋梁点検技術者』及び『橋梁点検技術者』)を取得可能

➤ 『橋梁点検技術者』は国土交通省登録資格(品確技資第170号・品確技資第183号)

技術資格認定登録状況 (R3.3月時点)

准橋梁点検技術者	389人	橋梁点検技術者	36人
----------	------	---------	-----

舞鶴工業高等専門学校
iMec 社会基盤メンテナンス教育センター

2. 社会基盤を支えるメンテナンス技術者養成による地方創生に向けた教育コンテンツの開発

〔高専機構 令和2年度高専高度化推進経費事業〕

多くの地方自治体では、社会基盤を支えるメンテナンス技術者が不足しており、学生及び技術者へのメンテナンス教育をより充実させることが求められています。全国73万橋の点検が1巡し、点検に基づく詳細調査を行い、適切な対策を実施していく段階に進みつつあります。

そこで、地域社会が求めるメンテナンス技術に長じた技術者を養成することを目的に、e+iMec講習会の教材として、電磁波レーダ法による鉄筋探査やサーモグラフィによる内部空洞の探査等を体験できるコンクリート試験体を新たに導入し、体験型学修を通して社会実装されつつある最新技術を教授することとしました。開発にあたっては、実務でコンクリート構造物の詳細調査を行う場合を想定して、受講者がより実践的かつ詳細調査の目的を考えることができるように、配筋、模擬欠陥、埋設物等の工夫を施しました。また、各種コンクリート詳細調査を体験できるだけでなく、配筋や水切りの技術変遷の再現、一部残置した施工時の型枠の観察、実物大配筋解答シート作成なども実施した結果、講習会受講者の理解を助ける教材となりました。

iMecは、今後もインフラメンテナンス技術者の育成にますます尽力するとともに、予防保全の中核的施設として地域固有のニーズに応え、地域社会に貢献してまいります。



コンクリート試験体

国際交流センター

国際交流センター長 藤田 憲司

1. 国際交流センターの運営

国際交流センター運営委員会のメンバーおよび業務分担は以下のとおりである。

氏名	業務分担	備考
藤田 憲司	統括, 海外インターンシップの連絡調整, KMITL との連絡調整, 研修旅行訪問大学との連絡調整	国際交流センター長
山根 秀介	研修旅行訪問大学での学生交流のための学生指導	人文科学部門
大内真一郎	研修旅行訪問大学との連絡調整, 国際交流学生大使 (SA) 指導	人文科学部門
平尾 恵美	研修旅行訪問大学での学生交流のための学生指導	人文科学部門
喜友名朝也	留学支援 (低学年)	自然科学部門
小林 洋平	海外研修旅行訪問企業との連絡調整, 留学支援 (高学年)	機械工学科
丹下 裕	海外研修旅行訪問企業との連絡調整	電気情報工学科
高木 太郎	海外研修旅行訪問企業との連絡調整	電子制御工学科
渡部 昌弘	海外研修旅行訪問企業との連絡調整, KMITL 研修生受け入れ次年度担当学科との連絡調整	建設システム工学科
室溪 浩	事務手続きの承認	総務課長
山口 秀朗	事務手続きの承認	学生課長
嵯峨 信子	事務手続きの実施	学生課職員

2. 国際交流センターの活動概要

① 海外協定校からの短期研修生受け入れ (キングモンクット工科大学サマートレーニング)

新型コロナウイルス感染拡大防止のため受け入れ中止となった。

② 海外インターンシップ

新型コロナウイルス感染拡大防止のため派遣中止となった。代替措置として KMITL から e インターンシップの提案があり, 専攻科 1 年生を対象に募集を行ったが, 参加希望者はいなかった。

③ 海外研修旅行

新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。

④ 留学支援

- ・ AFS 留学プログラムに 1 年生 1 名が申請し, 不合格だった。
- ・ 「トビタテ! 留学 JAPAN」 高校生コースに 2 年生 2 名, 大学生コースに 3 年生 1 名が申請した。高校生コースの 2 名が書類審査を通過し, 面接審査 (3 月 22 日) に進んだ。

⑤ その他の活動

- ・ 「国際交流学生大使」 (SA) を代表して, 9 月 28 日に学生 2 名, 9 月 30 日に学生 1 名が東舞鶴高校での留学生交流会に参加した。
- ・ SA 美術班が第 14 回近畿地区高等専門学校英語プレゼンテーションコンテストのポスターデザインを担当した。

知的財産委員会

知的財産委員会委員長 玉田 和也

本校に所属する教職員等が、職務発明等を創出した場合、又は職務発明等の可能性があると思料される発明等を創出した場合、知的財産委員会へ発明等届を提出することとなっています。

今年度、知的財産委員会では、提出された発明等届に基づいて、職務発明等であるか否かの判断、特許性及び市場性の評価並びに帰属の予備的な判断を行いました。

1. 知的財産委員会の開催と審議内容について

○第1回知的財産委員会 令和2年7月1日（水）

- ・共同出願特許の予備的審査について

届 出 者 内海 康雄

発明等の名称 救命胴衣及び遭難者位置検出システム（2件）

○第2回知的財産委員会 令和2年11月25日（水）

予備的審査を行った発明等届に係る共同出願特許2件について、高専機構研究推進課に提出した結果、継承との通知があったこと、今後当該教員から高専機構への権利譲渡届の提出、共同出願する企業との共同出願契約の締結等を進めていくことが報告された。

生 命 倫 理 委 員 会

生命倫理委員会委員長 玉田 和也

生命倫理委員会は、本校教職員が行うヒトを対象とする研究に対し、人間の尊厳及び人権が守られ、研究の適正な推進が図られるようにすることを目的としています。今年度は以下の日程で開催しました。

1. 生命倫理委員会の開催と審議内容について

○第1回生命倫理委員会：令和2年11月25日（水）

- ・研究計画の倫理審査について（5件）

申 請 者 徳永 泰伸

研究課題名「音楽空間の光・色彩環境と聴感印象の関係」

研究課題名「座席位置に起因する視覚情報の違いが聴感印象に与える影響」

研究課題名「視覚情報の有無が音の大きさ感に与える影響」

研究課題名「照明条件が内装材の見え方に与える影響」

申 請 者 若林 勇太

研究課題名「キッティングにおける情報処理能力モデルの検討」

○第2回生命倫理委員会（メール審議）：令和3年1月26日（火）

- ・研究計画の倫理審査について（1件）

申 請 者 高木 太郎

研究課題名「パワーアシストスーツのアシストタイミングに関する研究」

情報セキュリティ推進委員会

情報セキュリティ推進委員会委員長 伊藤 稔

情報セキュリティ推進委員会は、本校の情報セキュリティに関わる専門的及び技術的問題の審議と、情報セキュリティの推進を行うことを目的にしている。

1. 情報セキュリティに関する情報共有と注意喚起

高専機構 CSIRT から、定期的にメールで送られてくる情報セキュリティ関連情報について、毎回、全教職員と情報共有を行なった。また、高専機構から送られてくる個別の脅威や事例についての注意喚起については、その緊急度に応じて全教職員または個別に注意喚起を行なった。

2. Microsoft 365 多要素・多段階認証の導入

今年度、高専機構より、教職員および学生の機構テナント Microsoft 365 アカウントについて、多要素・多段階認証を導入するよう通知があった。教職員のアカウントについては、令和3年1月までに導入が完了した。学生のアカウントについては、来年度のネットワーク利用講習会などを通じて導入を完了する予定である。

3. 情報セキュリティインシデント対応

残念ながら、今年度、本校において情報セキュリティインシデントが連続して3件発生した。3件とも電子メールの利用に関するインシデントであった。現在、高専機構 CSIRT のアドバイスを受けながら、電子メール利用ガイドラインの改訂、メール誤送信防止ツールの導入、電子メールソフトウェアにおける電子メールアドレス自動補完機能のオフなどの再発防止対策に、学校全体として取り組んでいる途中である。

4. IT 資産管理

高専機構では、IT 資産管理ソフトウェア (ASSETBASE) を使用しソフトウェアを含む情報資産の管理を行っており、ソフトウェア管理規則に基づきソフトウェアライセンスの検査結果を毎年報告することになっている。今年度も、教職員の協力のもとに検査報告を完了することができた。

評 価 委 員 会

評価委員会副委員長 片山 英昭

1. 自己点検・評価の実施

令和元年度の本校の年度計画と実績について自己点検・評価を実施し、すべての項目が計画通りに活動されていることを確認した。またこの結果を本校ホームページに公表した。点検項目は、高専機構が定めた中期計画およびこれに基づいて定められた令和元年度計画に対応させて本校で設定している。このため、学校教育法第109条第1項に規定される自己点検・評価でないことから、公表の名称を「自己点検評価書」から「年度計画の実績報告」に変更した。さらに、認証評価機関が定める高等専門学校評価基準に基づき、新たに作成した点検項目について自己点検・評価を実施した。またこの結果を本校ホームページにて「自己点検評価書」として公表した。次年度以降は、これらの点検項目について定期的に自己点検・評価を行うとともに、改善点が挙げられた場合には改善状況を確認する予定である。

2. 高等専門学校機関別認証評価の受審

本年度、高等専門学校機関別認証評価を受審した。新型コロナウイルス感染拡大の影響に伴い、これまで実施して方法より以下の4点の変更が生じた。

- ・高等専門学校機関別認証評価及び選択的事項に係る自己評価書の提出期限が8月31日に延期された。
- ・自己評価書の提出期限変更に伴い、訪問調査の実施時期が12月に変更となった。
- ・訪問調査までに事前確認を十分に行うことで、訪問調査日程が2日間から1日間に短縮された。
- ・本校での訪問調査がなくなった。面談については、Web 会議システムや Web アンケートシステムを利用して実施となった。教育現場（授業や実験・実習等）及び学習環境（施設・設備等）については、映像資料の提出となった。

(1) 自己評価書の作成

自己評価書は、評価委員の中の4名（背戸柳教員、奥村教員、加登教員、片山）が評価コアメンバーとなり作成した。8月27日（木）に開催した評価委員会にて自己評価書原稿の最終確認を行ったのち、大学改革支援・学位授与機構に提出した。大学改革支援・学位授与機構により資料内容に関する質問などが五月雨式にあった。これは評価コアメンバーと芦田総務係長で対応した。

(2) 訪問調査資料の提出

教育現場と学習環境の映像資料は七森、若林両教員に作成して頂いた。先方より指定された授業科目の試験問題と模範解答及び成績評価資料は上杉、室巻両教員に収集・整理して頂いた。

(3) 訪問調査

本校は12月22日（火）にWeb会議システムにより審査を受けた。卒業生・修了生に対する意見聴取は11月にWebアンケート形式で行われた。責任者面談には、校長、三主事、評価コアメンバー4名の合計8名が出席した。教職員面談には年齢や所属・職種などを考慮した10名、在学生面談には入学区分や学年・学科などを考慮した10名に出席を頂いた。卒業生・修了生面談及び在校生面談の人選では、各部門・学科に協力を頂いた。

3. 外部評価委員会による指摘事項の確認

令和元年11月25日に本校で開催された外部評価委員会において、外部評価委員に方々よりご指摘頂いた検討課題13件がすべて対応されていることを評価委員会にて確認した。これらの結果は来年度に開催する外部評価委員会にて報告される。なお、本年度は機関別認証評価を受審していることから、外部評価委員会を開催していない。

4. 学校評価アンケートの実施

3年毎に実施している学校評価アンケートを実施した。これまでは、卒業生・修了生の「就職先」と「卒業生・修了生」に対してアンケートを実施していたが、卒業生・修了生の約4割を占める「進学先」もアンケート先として加えた。「卒業生・修了生」のアンケート回答数を増やすために、アンケート期間に正月を含めた。新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため帰省を控える人がいたことにより、回答数は微増に留まった。回答結果の課題検討は教務委員会と専攻科委員会に依頼し、次年度に検討結果を踏まえ、改善を行う予定である。

F D ・ I C T 部 会

FD・ICT部会部会長 船木 英岳

本部会は評価委員会の下部組織として、主として教員の授業方法、教育指導等の改善に資する目的で、種々の取り組みを行っている。今年度の部会員（協力職員を含む）の構成と役割分担は表1のとおりである。

表1 FD・ICT部会構成員と役割分担

氏 名	所 属	主たる役割	氏 名	所 属	主たる役割
船木 英岳	電気情報	全体の連絡調整	室溪 浩	総務課	総務課連絡調整
荻田みどり	人文科学	授業アンケート	山口 秀朗	学生課	学生課連絡調整
喜友名朝也	自然科学	教育連絡会議、 授業アンケート	芦田 康弘	総務課	全体事務の掌握、 連絡調整
篠原 正浩	機械	教育連絡会議、 授業アンケート	石井 貴弘	支援センター (協力)	授業アンケート 設定及び集計
廣芝 伸哉	電気情報	授業アンケート	金丸 亮太	教務係 (協力)	授業アンケート 設定補助
藤司 純一	電子制御	授業アンケート	能勢 嘉朗	支援センター (協力)	授業アンケート
四蔵 茂雄	建設システム	教育連絡会議、 授業アンケート			

1. 授業アンケート・達成度評価の実施

平成28年度から、他教員のアンケート結果（ただし、自由記述等は除く）も含む本校で開講されている全科目の結果を参考資料として全教員に開示することになった。これは、自分のアンケート結果だけでなく、他の教員の結果も見ることにより、教員間の議論が促され、学校全体の授業改善に繋がるのではないかという考えに基づくものである。平成31（令和元）年度からは、前年度の授業アンケートに各教員が記載した「課題分析」と「今後の改善策」に対して、それぞれ自己分析を行い、「前年度からの達成度に関する自己分析」を記載する項目を追加するとともに、「達成度の割合」を数値で記入することとした。これにより、単年度のアンケート結果だけでなく、前年度の課題分析等を反映させた継続的な授業改善を行うことで、授業内容をスパイラルアップしていく仕掛けになることが期待される。また、令和2年度は、評価委員会からの要請に基づき、シラバスに関する質問を修正及び追加した。

アンケートの実施期間は、前期分が令和2年9月30日～10月16日、後期分は令和3年2月12日～3月5日とした。

2. 授業参観の実施

今年度の授業参観は、コロナ対策として、期間の分散と参観回数の制限を設けて実施した。人文科学・自然科学・機械工学科の教員は12月8日～12月25日の期間に、電気情報工学科・電子制御工学科・建設システム工学科の教員は令和3年1月14日～1月29日の期間に、他の教員の授業を1回に限り参観する形式として、参観可能な人数も教室等の入室は3名までとした。授業参観後は、1週間以内にFormsから報告書を入力してもらい、今年度からは入力された報告書の内容は、報告者を匿名としたうえで、授業担当教員にフィードバックすることとした。参観教員は、参観結果に基づいて自身の授業改善に参考になる点について整理するとともに、授業担当教員においても他の教員からの評価が確認できることでさらなる授業改善に繋がることが期待される。

3. FD・ICT特別講演会

今年度の特別講演会は修学支援室と合同で企画し、Teamsを用いたオンラインで開催した。

日 時：令和2年11月27日（金） 14:00～15:30

講演者：舩越高樹 氏 独立行政法人国立高等専門学校機構学生参事補
障害学生支援SV（スーパーバイザー）・特命准教授

題 目：「合理的配慮～基礎から最新のトピックス～」

舩越先生は、東京大学大学院新領域創成科学研究科修士課程および東京学芸大学大学院教育学研究科特別支援教育専攻修士課程を修了され、環境学・教育学を専門とされている。昨年度までは京都大学学生総合支援センター障害学生支援ルーム高等教育アクセシビリティプラットフォーム特定准教授を務められ、今年度からは高専機構本部で障害学生支援SV（スーパーバイザー）として、高専全体の学生支援に携わっておられる。本講演会では発達障害学生の修学支援等に関する学校側の合理的配慮について事例を挙げながら分かりやすくご講演いただき、教職員が学生指導・学生支援について学ぶ貴重な機会となった。オンライン講演会は舩越先生の許可をいただいて録画して、当日参加できなかった教職員が後から閲覧できるようにした。なお、当日の参加者数は教員34名、職員12名であった。

4. 教育連絡会議

例年、全教員を4グループに分けた教育連絡会議を年1回開催しており、今年度も後期中間試験期間の前頃を予定していたが、新型コロナ対策への対応とスケジュール調整が難しく、開催を断念した。

5. 授業公開の実施

今年度は新型コロナウイルス感染症対策を考慮して、外部評価者を本校に招く必要のある授業公開は中止とした。

広 報 委 員 会

広報委員会副委員長 川田 昌克

1. 広報委員会の活動概要

令和2年度から、広報委員会は、委員長を校長、副委員長を副校長とし、教務主事、学生主事、寮務主事、専攻科長、学術情報センター長、ホームページ部会長、入試広報部会長、事務部長、総務課長、学生課長が委員として構成されている。

前年度までは、「学校概要」、「学校だより」、「年報」といった刊行物は広報委員会が担当していたが、今年度からは学術情報センター運営委員会が担当することとなった。また、ホームページの運用などについては、新設の同委員会ホームページ部会が担当することになった。さらに、現在、志願者数確保のため、入試委員会の下に入試広報部会が設置されている。これに伴い、広報委員会では、学術情報センター長、ホームページ部会長および入試広報部会長が、年度当初に活動方針などを報告する。

2. 広報委員会での報告事項

学術情報センター

今年度の刊行物の発刊に関して報告があった。

ホームページ部会

舞鶴高専ホームページの更新について、以下の事項を進めていくこととなった。

- ・トップページやその他コンテンツの整理方法の検討
- ・内容が古いものは適宜、更新

入試広報部会

中学校進路説明会、中学校訪問、舞鶴高専1日体験会および入試説明会の実施報告もしくは実施予定について報告があった。

教育プログラム(MDE)委員会

教育プログラム(MDE)委員会委員長 西山 等

1. 「総合システム工学」教育プログラム修了生数について

令和2年度の「総合システム工学」教育プログラム修了生は、電気電子システム工学コース8名、機械制御システム工学コース4名、建設工学コース4名、計16名である。現在までのプログラム修了生の数を以下に示す。

修了年度	平成24	平成25	平成26	平成27	平成28	平成29	平成30	令和1	令和2
プログラム修了生	16	17	15	16	18	22	19	14	16
専攻科修了生	17	17	15	16	19	22	19	14	16

2. 教育プログラム(MDE)委員会の活動記録

○令和2年7月23日(木) 第1回教育プログラム(MDE)委員会の開催

(協議事項)

1. 令和元年度教育点検システムにおける点検項目に関する報告書について
2. 機関別認証評価受審に向けた成績資料の保管について

○令和3年2月9日(火) 第2回教育プログラム(MDE)委員会の開催(専攻科委員会との合同開催)

(協議事項)

1. 専攻科2年生の修了認定について
2. 専攻科2年生の教育プログラム修了認定について
3. 舞鶴工業高等専門学校教育プログラム(MDE)委員会規程の運用について

○令和2年2月9日(火) 第3回教育プログラム(MDE)委員会の開催

(協議事項)

1. 令和2年度他高専からの専攻科入学生の対応について
2. その他

3. JABEE技術者教育プログラムの認定継続辞退について

令和3年3月31日で認定有効期間が終了する認定プログラム「総合システム工学」の認定継続辞退届を日本技術者教育認定機構に提出した。なお、「総合システム工学」プログラムの運用は令和3年度専攻科2年生まで適用する。

進路指導委員会

進路指導委員会委員長

兼副委員長（就職）

芦澤 恵太

進路指導委員会副委員長（進学）

岡田 浩嗣

1. 令和2年度の活動報告

1. 1 主たる委員会報告事項、協議事項

○第1回進路指導委員会（令和2年4月1日）

- (1) 進路指導委員会の実施体制について
- (2) コロナ・遠隔対応について
- (3) 書類発行代理申請の臨時許可について
- (4) インターンシップについて
- (5) 年間スケジュールについて

○第2回進路指導委員会（令和2年7月2日）

- (1) 進路活動状況
- (2) インターンシップの中止について
- (3) 合同学校説明会、キャリアセミナーの開催方法について

○第3回進路指導委員会（令和2年9月16日）

- (1) 進路活動状況
- (2) 予算計画
- (3) 個別会社訪問（インターンシップ代替）について
- (4) 進路ガイダンス（体験談）について

○第4回進路指導委員会（令和2年11月12日）

- (1) 進路活動報告書および就職活動報告書について
- (2) キャリアセミナーWEBについて
- (3) 合同学校説明会について
- (4) WEB面談室の整備に向けて

○第5回進路指導委員会（令和3年1月13日）

- (1) 進路活動状況
- (2) 予算執行について
- (3) 誓約書・進路アンケート・3者面談について
- (4) 次年度イベントについて

1. 2 進路ガイダンス

今年度の進路ガイダンスの実績を表1に示す。例年、ガイダンス会場に使用していた視聴覚室の定員の問題から、Teamsを用いてのガイダンスを実施した。具体的には、講演者と2クラス分の学生は視聴覚室に集合し、残りのクラスはホームルームでのライブ視聴を行った。多くは、委員長および両副委員長が講師を務めたが、2年生へのガイダンスは今年度学生への直接指導を行っている5年担任が担当した。

1. 3 合同学校説明会（令和2年12月5日オンライン開催）

本科3、4年生と専攻科1年生を対象とする合同学校説明会をオンラインで開催した。参加大学等は12校で、約180名の学生、および、40名程度の保護者が参加した。学生の進路選択にとって有意義な説明会となった。表2に参加校を示す。

1. 4 WEBキャリアセミナー（令和2年11月30日～12月14日）・オンラインイベント

ブースを設けての例年通りの開催を見送り、本校学生用の専用サイト（84社を掲載）を構築することで実施した。期間中にサイトにアクセスした学生は368名（アンケート提出数）であった。また、12月12日・13日には、オンラインイベントを開始し、57社の人事担当者と教室を中継した。ライブイベントへの学生参加者数は、1日目285名、2日目256名であった。

1. 5 三者懇談会

進路に係る三者懇談会を令和3年3月13日、14日の2日間で実施した。対象学年は本科4年生ならびに専攻科1年生である。新型コロナウイルスによる感染症対策として、本科棟の一般教室を使用し、十分なスペースを確保しての実施となった。また、顔を合わすことが可能ならばTeams等を用いることも可としたが、多くの学生が対面での懇談を希望する結果となった。

2. 令和2年度の進路状況

2. 1 求人状況

平成23年度以降、求人会社数は順調に増加し、昨年度に続き、令和3年春採用（本科5年生）に対して900社を超える企業から求人を頂いた。加えて、100を超える団体（国、府県、市町村、警察、消防、国立大学法人、機構等）から求人案内が届いた。一昨年度までは60団体程度であったことと比べ、大きな変化である。今後、情報収集を行い、状況分析を行う予定である。

2. 2 進路状況

昨年度は54%の学生が就職を希望したが、今年度は近年で最も高い60%の学生が就職する結果となった。要因の一つには、COVID-19感染症への対策の為に、編入学試験の試験日程が混乱したことが挙げられる。特に、学力選抜（一般選抜）については、例年であれば6月に実施される試験が、秋にずれ込むなど影響は大きかった。この状況は、次年度も続くことが予想されるため、今年度の経験を次年度の指導に活かして行きたいと考えている。

表1 進路ガイダンス

対象	開催日	備考
本科1年生	令和2年 7月 6日 令和2年 7月13日	新入生合宿研修における講話に代えて 特活の時間に、各教室で進路ガイダンスを実施 (6日：1組, 2組, 13日：3組, 4組)
本科2年生	令和2年 8月26日	進路ガイダンスを対面で実施 (学科毎教室に分かれ学科教員により実施)
本科3年生	令和2年 8月31日 令和2年10月 6日 令和2年10月 8日 令和2年11月 9日 令和2年11月30日	進路ガイダンス (2クラス毎) を実施 就職ガイダンス (5年生の就職活動体験談) 進学ガイダンス (5年生の進学活動体験談) 各ホームルームにてガイダンス (席次の重要性：推薦基準) ガイダンス (学校説明会・キャリアセミナーについて)
本科4年生 専攻科1年生	令和2年 7月 8日 令和2年10月 6日 令和2年10月 8日 令和2年11月17日 令和2年12月17日 令和3年1月 (5回) 令和3年 2月16日 令和3年 2月17日	進路ガイダンス (昨年の動向とこれからの心構え) 進路ガイダンス (5年生の就職活動体験談) 進路ガイダンス (5年生の進学活動体験談) 進路ガイダンス (合同学校説明会・キャリアセミナーについて) 進路ガイダンス (ガイドライン・履歴書・進路アンケートについて) 進路ガイダンス (履歴書作成講習, 学科毎, 専攻科) 進路ガイダンス (進学希望者に対する諸注意) 進路ガイダンス (就職希望者に対する諸注意)

※進路アンケート1次締め切り：令和3年1月11日（～2者面談期間～）2次締め切り：令和3年2月1日

表2 合同学校説明会参加校（舞鶴高専専攻科除く）

大阪大学	岡山大学理学部	岐阜大学
九州工業大学	同志社大学文化情報学部	福井大学
奈良先端科学技術大学院大学	豊橋技術科学大学	長岡技術科学大学
京都工芸繊維大学（資料のみ）	岡山大学工学部（資料配布のみ）	

学 生 相 談 室

学生相談室室長 児玉 圭司

1. 学生相談室スタッフ

本年度は、学生相談室長・児玉圭司（人文）のほか、山根秀介（人文）、荻田みどり（人文）、岡田浩嗣（自然）、喜友名朝也（自然）、谷川博哉（機械）、廣芝伸哉（電気）七森公碩（電気）、清原修二（制御）、石川一平（制御）、四蔵茂雄（建設）、毛利聡（建設）、山口秀朗（学生課長）、清水智苗美（看護師）、黒田友基（カウンセラー[精神科医]）、中川亜希（カウンセラー[臨床心理士]）、坂口なぎさ（カウンセラー[臨床心理士]）の体制で相談室を運営した。

2. 相談体制・相談件数

今年度は、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、遠隔授業期間が設けられるなどの変更があったため、カウンセラーの相談体制も例年とは異なるものとなった。6月の対面授業再開後は、概ね例年と同じく、臨床心理士のカウンセラーに週3日程度ご対応をいただいた。精神科医のカウンセラーには従来通り月1回（原則として第2週の火・水曜日のいずれか）お越しいただいた。教職員の室員による相談も随時受け付けているが、その大部分は看護師の清水先生に担っていただいている。

本年度の相談件数は延べ580件、うち教職員への相談件数が241件、精神科医への相談件数が9件、臨床心理士への相談件数が330件であった。2ヵ月余り遠隔授業期間が設けられていたため、例年に比べると相談件数は減少している。

3. 「心とからだのチェックリスト」および「学校適応感尺度調査」の実施

今年度は、対面授業再開後の7月に「心とからだのチェックリスト」を、10月に「学校適応感尺度調査」を実施し、学生が抱える悩みや問題の早期把握に努めた。「学校適応感尺度調査」の結果を踏まえて面談対象学生を選定し、担任・コース長または学生相談室員が面談を行った。面談を行った学生は156名ののぼり、面談を経てカウンセラーへと繋いだ学生も複数存在する。

4. 教職員研修の実施ほか

本年度は、教職員を対象に以下の研修・講演を実施した。

5月26日（火） 舞鶴高専新任教職員向け研修「学生のメンタルヘルス 危機状況への理解と対応」
講師：中川亜希先生（本校カウンセラー、臨床心理士）

5. 学生向けの活動

通常の相談業務以外にも、学生を対象として以下の事業に取り組んでいる。今年度は、コロナ禍の影響で例年実施していた「学生相談室 de ティータイム」を行えなかったため、学生のストレス軽減を図るための諸施策を新たに実施した。

5月 オンライン配信「メンタルヘルス講演会」（本科2年生対象、学生委員会と共催）

講師：坂口なぎさ先生（本校カウンセラー、臨床心理士）

6月 遠隔授業期間中のカウンセリング窓口として、Teamsを用いたWeb相談窓口を開設。

7月 1年生各クラス「舞鶴高専PEER～出会いと回復のピアプログラム」（学生委員会を支援）。

7月 図書館1階ラーニングコモンズおよび第2体育館にフリーWi-Fiを設置。

第2体育館は7月末まで、図書館1階は年度末まで継続。

7月 第2体育館においてe-スポーツ大会（3日間）を実施。

6. 各種研究会・研修会・協議会への参加

学生相談に関する研鑽を積むため、また他校との学生相談に関する情報交換のため、下記に示す各種研究会、研修会、協議会に参加した（〔 〕内は参加者名、敬称略）。

○近畿地区高専カウンセリング連絡協議会

10月14日（金） メールによる情報共有の形で実施（主幹校：明石高専）

○第17回全国国立高等専門学校学生支援担当教職員研修

期日は研修内容ごとに異なる オンラインで実施〔児玉・山根・清水〕

※コロナ禍の影響で、今年度は学外での研究会・研修会・協議会への参加が極めて困難であった。

修 学 支 援 室

修学支援室室長 児玉 圭司

1. 支援室および支援委員会の体制

今年度の修学支援室は、室長の児玉圭司（人文）をはじめ、上杉智子（自然・教務主事補）、牧野雅司（自然・学生主事補）、村上信太郎（機械・寮務主事補）、の教員3名、さらに特命教授・後野文雄（特別支援教育士スーパーバイザー）、特命助教・橋本茂の計6名で構成されている。

常勤教員の室員は、保護者・学生からの申し出があった際に、担任とチームを組んで、対応や合理的配慮に関する検討・調整をコーディネートする役割を担う。後野特命教授は、保護者・学生や担任からの個別相談に応じていただくほか、個別の事案について専門的知見をもとにご助言をいただいている。橋本助教には、中学校において通級指導教室などでの指導をなさっておられた経験を生かして、学生へのスキルトレーニングや定期的な面談を実施していただいている。

上部機関にあたる修学支援委員会は、修学支援室が検討した合理的配慮（または配慮が必要でない旨）に関する答申を踏まえ、本校としての意思決定を行う。

2. 活動実績

令和2年度の活動実績は、以下の通りである。

- ・修学支援室で対応した学生 18名
- ・後野特命教授による個別面談・助言等 のべ109件（保護者対応、学内協議・助言を含む）
- ・橋本特命助教による個別面談 対象学生 5名、のべ114回
- ・新規の合理的配慮 2件（試験時間延長、橋本先生による面談）

3. 学生対象講演会

7月6日（月）、13日（月） 1年生各クラス対象人権教育「いじめ防止講演会」
講師：後野文雄先生

4. 研修・発表等

《教職員対象》

11月27日（金）令和2年度FD/ICT・修学支援室合同講演会

「合理的配慮～基礎から最新のトピックス～」

講師：船越高樹先生（独立行政法人国立高等専門学校機構特命准教授・学生参事補）

12月22日（火）インターンシップ研修会

「高等専門学校における合理的配慮」

講師：児玉圭司教員

3月9日（火）修学支援室FD講演会

「本校における修学支援手続きの進め方」

講師：児玉圭司教員

「発達障害の理解と指導・支援について」

講師：後野文雄先生

《研修》

○第17回全国国立高等専門学校学生支援担当教職員研修

11月24日（火）オンラインで実施[児玉]

※今年度はコロナ禍の影響もあり、学外での研修に参加する機会は限られた。

入 試 広 報 部 会

入試広報部会部会長 山田 耕一郎

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の為の制約を受けるなか、例年通りの活動を行うことが出来なかった。感染症拡大防止対策を取りながら、下記のような活動を行った。

1. 舞鶴高専1日体験会

新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、例年のような大規模な人数が参加するオープンキャンパスを行うことは不可能であった。今年度は、例年のプレオープンキャンパスとオープンキャンパスを統合し、1回の参加人数を原則80名（保護者を含む）と限定した「舞鶴高専1日体験会」を開催した。体験会では学校説明（35分）・学科展示説明（65分）・体験授業（1学科25分×2学科）とし、全体で3時間程度のイベントとした。学科の体験授業は「時計を作ろう！」（機械工学科）、「ゲーム開発を体験しよう！」（電気情報工学科）、「レゴロボットを作って動かそう」（電子制御工学科）、「白の家」の模型作り（建設システム工学科）を開催した。なお、1回の参加人数を80名に限定している為、計7回の開催とした。参加人数を表1に示す。全体としては、生徒245名、保護者228名（計473名）の参加であった。また、1日体験会で行う、学校説明や学科紹介を動画で配信した。

表1 舞鶴高専1日体験会参加人数

日 時	場 所	参加生徒数	参加 保護者数
R2. 7. 26（日） 10:00～13:00	本校	39名	37名
R2. 8. 2（日） 10:00～13:00	本校	43名	41名
R2. 8. 9（日） 10:00～13:00	本校	37名	34名
R2. 8. 22（土） 10:00～13:00	本校	31名	29名
R2. 8. 23（日） 10:00～13:00	本校	33名	29名
R2. 9. 5（日） 10:00～13:00	本校	30名	30名
R2. 9. 6（日） 10:00～13:00	本校	32名	28名

2. 中学校訪問

感染症拡大防止の為、例年のように広域地域には訪問せず、緊急事態宣言解除後に近隣地域に絞って訪問を行った。訪問校数を表2に示す。

表2 中学校訪問

	期 日	訪問校数	備 考
第1期	～R2. 7. 31（金）	43校	舞鶴（7）、中丹（14）、嶺南（5）、丹後（11）、湖西（6）

3. 学校説明会

個別の中学校から合計15件の学校紹介の依頼を受け、指定された日時に説明会を行った。今年度は各中学校とともに、感染症拡大防止を考慮して、Zoomを利用する等の様々な開催方法で対応していた。中学校説明会を表3に示す。

表3 中学校訪問

期日	中学校
R2. 6. 26	舞鶴市立城北中学校
R2. 7. 1	上中町立上中中学校
R2. 7. 7	舞鶴市立加佐中学校
R2. 7. 8	高浜町立高浜中学校
R2. 7. 14	舞鶴市立若浦中学校
R2. 7. 21	綾部市立八田中学校
R2. 7. 22	舞鶴市立白糸中学校
R2. 7. 29	おおい町立大飯中学校
R2. 7. 31	小浜市立小浜第二中学校
R2. 9. 17	丹波市立山南中学校
R2. 9. 17	丹波市立柏原中学校
R2. 9. 17	丹波市立春日中学校
R2. 9. 25	おおい町立名田庄中学校
R2. 10. 6	守山市立守山南中学校
R2. 10. 8	小浜市立小浜中学校

4. 入試説明会

9～11月にかけて本校を始め、表4のような地域で中学生、保護者、中学教員、塾講師向け入試説明会を行った。入試説明会への生徒の申し込み件数は全体で162名であった。

表4 入試説明会

日時	場所	参加生徒数 (教員数)	保護者数
R2. 9. 13 (日) 10:30～11:30 13:30～14:30	(京都) 京都テルサ	6名 3名	5名 4名
R2. 9. 13 (日) 13:30～14:30	(草津) 草津商工会議所	13名	13名
R2. 9. 13 (日) 13:30～14:30	(三田) 総合文化センター郷の音	7名	7名
R2. 9. 16 (水) 15:30～16:30	(舞鶴) 本校：(教員対象)	(17名)	—
R2. 9. 20 (日) 13:30～14:30	(福知山) 市民交流スペース	8名	8名
R2. 9. 20 (日) 13:30～14:30	(亀岡) ガレリアかめおか	12名	13名
R2. 9. 20 (日) 13:30～14:30	(大津) 大津市ふれあいプラザ	6名	8名
R2. 9. 20 (日) 13:30～14:30	(長岡京) 長岡市中央生涯学習センター	9名	11名
R2. 9. 20 (日) 13:30～14:30	(彦根) 彦根勤労福祉会館	4名	4名
R2. 9. 27 (日) 14:00～15:00	(舞鶴) 本校	20名	22名
R2. 10. 4 (日) 10:30～11:30 13:30～14:30	(京都) 京都テルサ	11名 5名	14名 4名
R2. 10. 4 (日) 13:30～14:30	(川西) キセラ川西プラザ	6名	8名
R2. 10. 4 (日) 13:30～14:30	(丹波) 春日住民センター	6名	7名
R2. 10. 4 (日) 13:30～14:30	(精華) けいはんなプラザ	9名	10名
R2. 10. 8 (木) 15:30～16:30	(豊岡) 但馬地域地場産業振興センター：(教員対象)	(1名)	—
R2. 10. 11 (日) 14:00～15:00	(舞鶴) 本校	12名	12名
R2. 10. 14 (水) 15:30～16:30	(大津) 大津市ふれあいプラザ：(教員対象)	(7名)	—
R2. 10. 15 (木) 15:30～16:30	(三田) 総合文化センター郷の音：(教員対象)	(9名)	—
R2. 10. 19 (月) 10:15～11:45	(京都) 京都テルサ：(塾講師対象)	(18名)	—
R2. 10. 20 (火) 15:30～16:30	(京都) 京都テルサ：(教員対象)	(19名)	—
R2. 10. 25 (日) 14:00～15:00	(舞鶴) 本校	15名	17名
R2. 11. 29 (日) 14:00～15:00	(舞鶴) 本校	8名	8名
R2. 11. 29 (日) 13:30～14:30	(京都) 京都テルサ	2名	4名

5. その他の入試広報イベント

その他の入試広報部会主催の入試広報イベントについて、表5に示す。若浦中学校の出前授業では、各学科35分で「定規より便利な工具（ノギス）を作ろう」（機械工学科）、「エクセルで画像処理～遠隔授業ってこんな感じ～」（電気情報工学科）、「段ボールで作る本格派ロボットハンド」（電子制御工学科）、「家具デザイン シュローダーテーブルの模型を作ろう」（建設システム工学科）を開催した。学生には事前に2学科を選択してもらい、その2学科の授業を受講してもらった。和田中学校の出前授業では、1年生対象に各50分で「ハンドスピナーを作ろう」（機械工学科）、「ゲームを開発しよう - タブレットの傾きセンサーで動くゲームを作ってみよう -」（電気情報工学科）の授業を、2年生対象に各50分で「ロボットと遊ぼう」（電子制御工学科）、「建築模型を作ろう - 安藤忠雄の「住吉の長屋」 -」（建設システム工学科）の授業を受講してもらった。また、表の他にも、公開講座、出前授業等を行い、いくつかのイベントにおいて学校説明を行っている。

表5 その他のイベント

イベント	日 時	場所	参加生徒数	参加 保護者数
出前授業	R2. 7. 14（火） 11:00～12:50 13:40～14:30	舞鶴市立若浦中学校	3年生 32名	-
出前授業	R2. 10. 29（木） 13:30～15:20	舞鶴市立和田中学校	1年生 34名 2年生 40名	-
女子中学生一日 高専体験会	R2. 11. 15（日） 13:30～14:30	本校	1年生 14名 2年生 22名 3年生 8名	41名

留 学 生 委 員 会

留学生委員会委員長 川田 昌克

1. 在籍状況

令和2年度は、国費外国人留学生2名、モンゴル政府派遣留学生1名の計3名の留学生が在籍している。所属学科、学年等を表1に示す。令和3年3月には、1名が建設システム工学科を卒業した。

表1 令和2年度の留学生

令和2年4月現在

性別	国 籍	所属学科・学年	入学年度	備考
男	モンゴル	機械工学科5年	H30	モンゴル政府派遣留学生
男	ラオス	建設システム工学科5年	H30	国費外国人留学生
男	モンゴル	電気情報工学科4年	H31(R1)	国費外国人留学生

他高専では、コロナ禍の影響で留学生の日本入国が困難となり、長期間の遠隔授業を強いられる状況もあったようである。本校では、今年度、新規の留学生の受け入れがなかったことと、在籍中の留学生全員が帰国をしていなかったため、影響は少なかった。

2. 留学生関連行事

2.1 留学生研修旅行

例年は1泊2日で留学生研修旅行を行うが、今年度は新型コロナウイルス感染症対応のため、日帰りとし、以下の通り実施した。

日程 : 令和2年10月31日(土)

見学場所 : びわ湖バレイ、ラ コリーナ近江八幡、近江八幡水郷めぐり等

参加者 : 留学生3名、毛利委員、大和学生支援係主任 計5名



びわ湖テラス



近江八幡水郷めぐり

留学生達は、びわ湖バレイにあるびわ湖テラスからの綺麗な景色に感動し、昼食のお蕎麦や天ぷらなどの和食を堪能した。また、ラ コリーナ近江八幡では自然に溶け込む建築群に驚き、近江八幡水郷めぐりでは日本らしい秋の風景を楽しんだ。天気にも恵まれ、留学生同士の交流にも一役かった研修旅行であった。

2.2 留学生交流会

留学生交流会を以下の通り実施した。

実施日 : 令和2年10月31日(土)

場所 : 視聴覚教室

参加者 : 留学生(3名)、留学生チュータ、留学生と親交が深い5M・5Cのクラスメイト、留学生委員会を中心とした教職員等 約30名

留学生交流会では、留学生の自己紹介のほか、学生会代表、寮生会代表、国際交流センター長、5年留学生のチュータのスピーチが行われ、最後に5M・5Cから留学生に贈る言葉があった。

今年度は、コロナ禍の影響で例年の様な立食形式での開催ができず、寂しかった面もあったが、5年留学生のクラスメイトや学生会及び寮生会の学生が参加し、心暖まる言葉や今まで知らなかった新しいエピソード等が披露され、意義のある交流の場となった。



留学生の自己紹介



集合写真

2.3 留学生の地域交流

例年、舞鶴国際交流協会と6～7月に交流会を開催しているが、今年度は中止となった。

一方で、今年度は、東舞鶴高校から依頼を受け、「留学生と学ぶ会」に留学生2名が講師として参加した。

演題：SDGsの観点からモンゴルとラオスについて学ぶ

日時：令和2年9月28日（月）14:00～17:00

9月30日（水）13:00～15:30

対象：東舞鶴高校2年国際文理コースおよび1年生（計200名程度）

なお、本行事には、本校のSA（Student Ambassadors）に所属している日本人学生2名も参加した。

3. 令和3年度の受入予定

令和3年度は、国費外国人留学生1名（電気情報工学科）、マレーシア政府派遣留学生1名（建設システム工学科）の受け入れが予定されている。

教育改善委員会

教育改善委員会委員長 奥村 昌司

教育改善委員会は、本校の継続的改善システムを円滑かつ効果的に機能させるための活動を行っている。具体的には、教育プログラム（MDE）委員会および評価委員会でCHECKされた事項についてACTIONを行う役割であり、当委員会が必要と認めるときは、各学科・部門及び他の委員会に提議、付託または協力要請を行うことができる。今年度実施した事項を以下に挙げる。

1. 令和元年度の教育プログラム（MDE）委員会の教育プログラム点検結果について

第1回委員会（令和3年2月5日開催）において、教育プログラム（MDE）委員会で作成された「令和元年度教育点検システムにおける点検項目に関する報告書」の記載内容について、項目ごとに審議し、必要な修正を当委員会において行った。また、改善を要請する事項の該当はないことが確認された。修正を含む点検結果が、完成版として本校の教職員用グループウェアdesknet's NEOに掲載された。

2. 教育改善システムの今後の体制について

第7回評価委員会・第2回教育改善委員会（共催、令和3年3月18日）において、評価委員会及び教育改善委員会の各部会の整理を行い、これまで評価部会に置かれていたFD・ICT部会を教育改善委員会に置き、評価委員会に資料部会を新設することとなった。また、委員会規定を改定し、部会の細則を制定した。

3. 認証評価の結果による来年度の改善について

今年度受審した大学改革支援・学位授与機構の認証評価において「改善を要する点」として指摘を受けた点について、第7回評価委員会・第2回教育改善委員会（共催、令和3年3月18日）において、来年度の教育改善委員会で協議することが確認された。

交通対策検討委員会

交通対策検討委員会委員長 小野 伸一郎

本年度の10月から、舞鶴工業高等専門学校ライフライン再生工事（第1期）および実習工場の改修が行われた。ライフライン再生工事は、構内に敷設された電気・水道・排水管等の取り換え工事に伴い、構内道路と第1駐車場の掘り返し工事となった。実習工場の改修は大型実習機械の搬出の後、建屋の改修が行われ、構内の歩行ルートの検討が必要となった。学生および教職員の安全と、教育活動に支障無きよう総務課施設係と調整を図りながら計画を立案した。以下に、委員会による検討を記し、記録とする。

1. 実習工場の改修工事にともなう交通規制

大型実習機械の搬出の後、建屋の改修にともない、登下校ルートの交通規制を周知した。

2. ライフライン再生工事（第1期）にともなう学内駐車場の運用

○学生は第3駐車場とし、割り当てを行った。（3月まで）

○教職員および外来者を第1駐車場および学寮敷地内とし、フリー駐車とした。令和3年3月5日（金）より第3駐車場を教職員駐車場として運用することとし、指定駐車場所の抽選を行った。

＊通学通勤者の車両と歩行者の安全を確保するため、学生委員会の協力により登校時の交通安全指導を毎日実施した。

3. ライフライン再生工事（第1期）にともなう工事車両の校内交通量の規制

市道から構内に入る工事車両の臨時通路を2箇所開設し、構内交通量の規制を図った。

①市道南側の建設棟と専攻科棟の間

②市道北側のクラブハウスとゴミ置き場の間

4. ライフライン再生工事（第1期）にともなう第1および第2駐車場の区画割り

新たに敷設された第1駐車場を学生駐車場とし、また第2駐車場はバイクおよび自転車の交錯があるため行事用の駐車場とし、区画割りについて決定した。

5. ライフライン再生工事（第1期）にともなう本館棟前の交通対策

以下のように規制ラインを設定することとなった。

○保護者の学生送迎ルート

- ・現在の噴水西側を通るルートから、学生昇降口手前を通るルートとする。
- ・学生通学路の安全確保のため、学生昇降口付近に車両進入禁止エリアを表示する。

○構内駐車エリア

- ・公用車および積雪時の宿直者用駐車エリアとして、噴水西側に4区画の駐車枠を新設する。

6. 構内交通標識の新設

ライフライン再生工事の完成時における構内交通標識を新設し、構内の交通安全を図るよう要望があった。



安全衛生委員会

安全衛生委員会委員長 事務部長 佐良 俊久

本委員会は、教職員の安全管理及び衛生管理の向上を図るため（舞鶴工業高等専門学校安全衛生管理実施規程 第11条）に設置されており、教職員の安全衛生管理に関する重要な事項について調査、審議を行っている。今年度の委員会構成は以下のとおりである。

表1 令和2年度安全衛生委員会構成

職 名	氏 名	任 期	備 考
事務部長	佐良 俊久		一号委員：委員長
医 師	西村 正人		二号委員：産業医
技 術 長	福井 繁雄		三号委員：衛生管理者・副委員長
総務課長	室溪 浩		四号委員：安全管理者、五号委員
看 護 師	清水智苗美		六号委員
教 授	背戸柳 実	R2. 4. 1～R3. 3. 31	七号委員：自然科学部門
教 授	内海 淳志	R2. 4. 1～R3. 3. 31	七号委員：電気情報工学科
講 師	今村友里子	R2. 4. 1～R3. 3. 31	七号委員：建設システム工学科
技術専門職員	西村 良平	R2. 4. 1～R3. 3. 31	七号委員：教育研究支援センター
総務課専門職員	中嶋 智範		オブザーバー
総務課施設主任	岩見 遼平		オブザーバー

1. 定期巡視の実施

委員（産業医、オブザーバーを除く）8名を4班に分け、例示されたチェックポイントを目安に、学内の定期巡視（毎週1回）を実施した。具体的には、学内をA～Eの5地区に分けて、各班が順に各地区を担当するように計画した。巡視結果は委員会事務局に報告され、定例委員会で審議された。

2. 定例委員会の開催

毎月1回定例の委員会を開催することを基本とし、各班からの巡視結果について審議した。審議結果は、昨年度に引き続き、保留、連絡（調査）、連絡（対策）の三つに分けて対応した。「連絡」と判断された事項については、該当部署または該当教職員に通知した。「保留」は学校としての対応が必要と判断した事項で、施設係を中心に検討していただいた。また、定例委員会では毎回、西村産業医より、本校における健康管理および健康の保持増進に関するコメントをいただいた。

3. 安全衛生環境の改善

定例委員会で審議された事項について、当該部署や事務部へ連絡・調整を行った。これにより、安全衛生環境が改善された。なお本年度は、昨年度試行的に導入した、巡視における安全衛生に関するリスクの定量化（リスクアセスメント）を継続して行い、高リスクと思われる事項から優先的に対策を実施した。

4. ストレスチェックの実施

本校教職員を対象にストレスチェックを実施し、約92%の教職員が受検した。京都大学 名誉教授・非常勤研究員 労働衛生コンサルタント・川村 孝教授の協力を得て、本人申し出に基づく面接指導も行われた。

緊急連絡／安否確認システムワーキンググループ

座長 川田 昌克

緊急連絡／安否確認システムワーキンググループは、危機管理委員会の下部組織として、緊急連絡／安否確認システムの管理・運用およびシステムを用いた訓練を継続的に行っている。今年度の本ワーキンググループの構成員を表1に示す。

表1 ワーキンググループ構成員

川田 昌克	教務主事	伊藤 稔	学術情報センター長
佐良 俊久	事務部長（総務課長兼務）	山口 秀朗	学生課長
福井 繁雄	教育研究支援センター	能勢 嘉朗	教育研究支援センター

昨年度は、避難訓練の日と同日（令和1年5月22日（水））に安否確認訓練を実施した。しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響のため、早期に訓練を実施することが困難であり、例年と比べて遅い実施日（令和3年1月26日（火））となった。

訓練は以下の手順で行った。

- 事前に、担任及び専攻科コース長は、クラスルームなどに掲示している「令和2年度 緊急連絡/安否確認システムの安否確認訓練について」をクラス学生に周知する。教職員に対してはメールで周知する。
- 令和3年1月26日（火）16時10分に、危機管理副委員長（教務主事）は危機管理委員長（校長）名で、運用管理者（学生課長）に危機管理対策本部（今年度は中会議室）を設置し安否確認を行うよう指示する。
- 学生課長は、教務係長に本システムを利用して学生及び教職員に安否確認を行うよう指示する。
- 教務係長は学生及び教職員に以下の内容のメールを送信する。

こちらは舞鶴高専危機管理委員会です。
 地震発生時の安否確認訓練のため、本メールを送信しています。
 質問1は自分の状況、質問2は自分の居場所を回答してください。
 それぞれ1文字を返信メールの本文1行目に入力・送信してください。（返信例:あた）
 なお、本メールタイトル内の[英数字]は管理番号ですので、返信時、タイトル(「RE:」を含む)を絶対に編集・削除しないでください。
 質問1 自分の状況 あ. 本人無事 か. 本人怪我
 質問2 自分の居場所 さ. 校内 た. 学寮 な. 自宅 は. その他
 質問1で「か.」を選んだ人は怪我の状況を、質問2で「は.」を選んだ人は自分の居場所を本文2行目以降に入力してください。

- 学生は、学生用 Gmail アドレスまたは事前に登録した携帯メールアドレスから安否確認の返信をする。
- 教職員は、学校のメールアドレスまたは事前に登録した携帯メールアドレスから安否確認の返信をする。
- 訓練終了後（メール送信から1時間後）、システム管理担当者（能勢）は学生の安否確認情報を集約し、学生課長に報告する。
- 学生課長は、学生の安否確認情報を危機管理委員長（校長）、危機管理副委員長（教務主事）、事務部長及び総務課長に報告する。
- 危機管理副委員長は、学生の安否確認情報を学生主事、寮務主事及び専攻科長に連絡する。
- 危機管理副委員長は、安否確認訓練が終了したこと及びその結果を担当及び専攻科コース長に連絡する。

表2～4に安否確認の返信率を示す。今年度はコロナ対応のため、遠隔授業、Moodleを利用したレポート提出、Microsoft Formsによる健康調査や各種のアンケート、事務部や教員からのメール連絡等、こ

れまでになく情報通信技術を利用した。そのため、学生の返信率はここ5年間のなかで最も高かった。ただし、例年と同様、3年生の回答率が低かった。一方で、教職員の返信率はここ5年間のなかで大きな変化はない。とくに、職員と非常勤講師の返信率は昨年度と同様に教員と比べて低く、今後の改善が必要である。

また、メールを返信した学生765名のうち5名(0.65%)が、教職員134名のうち2名(1.5%)が質問2の回答がなかった。本システムの返信内容は2文字のひらがなからなる単純なものであるため、誤回答の数が限定的であることが確認できた。

表2 安否確認の返信率(学生)

令和3年1月26日17時10分		令和3年1月27日9時00分	
本科1年	68.7%	本科1年	96.4%
本科2年	73.7%	本科2年	95.8%
本科3年	56.5%	本科3年	82.4%
本科4年	70.1%	本科4年	89.8%
本科5年	69.4%	本科5年	91.0%
専攻科	69.8%	専攻科	97.7%
学生全体	67.6%	学生全体	91.4%

表3 安否確認の返信率(教職員)

令和3年1月26日17時10分		令和3年1月27日9時00分	
教員	86.2%	教員	96.6%
職員	57.5%	職員	77.5%
非常勤講師	36.0%	非常勤講師	48.0%
教職員全体	64.2%	教職員全体	81.2%

表4 安否確認の返信率の推移

	平成28年度		平成29年度	平成30年度	令和1年度	令和2年度
	1回目	2回目				
学生全体	71.7%	84.0%	76.5%	86.7%	87.3%	91.4%
教職員全体	89.5%	84.4%	83.0%	81.7%	66.5%	81.2%
全体	74.5%	84.3%	77.6%	85.9%	83.9%	89.7%

男女共同参画室

男女共同参画室長 芦澤 恵太
男女共同参画副室長 村上 信太郎

1. 男女共同参画室の概要

本室は、高専機構男女共同参画行動計画に基づき、男女共同参画を推進することを目的に、昨年度新設された組織である。主たる業務としては、教育・研究・就業活動全般を通じた男女共同参画推進、意識啓発である。また、今年度新設された女子学生グループ「うろうろ」の後援・活動支援も行っている。

2. 令和2年度の活動

2.1 男女共同参画室運営会議、協議事項

○第1回男女共同参画室運営会議（令和2年4月2日）

- (1) 実施体制 (2) 基本方針 (3) 令和元年度活動の振り返り
- (4) 令和元年度第3ブロック男女共同参画推進協議会の報告
- (5) 令和2年度活動計画

○第2回男女共同参画室運営会議（令和2年6月3日）

- (1) 高専女子フォーラムin関西の中止について (2) 校内設備（更衣室、トイレ整備）について
- (3) 女子学生向け講演会・教職員インターンシップの推薦について
- (4) 校長ミーティング他 企画について

○第3回男女共同参画室運営会議（令和2年10月5日）

- (1) 教職員インターンシップの実施に向けて (2) 予算案
- (3) 女子学生支援、女子志願者獲得等に向けた取組等状況調査について
- (4) 女子学生グループ「うろうろ」活動報告 (5) 各種講演会・WEB研修について

○第4回男女共同参画室運営会議（令和3年1月28日）

- (1) 令和3年度計画について (2) 予算執行計画について
- (3) 女子学生向け「学校案内リーフレット」 (4) KOSEN男女共同参画への集いについて
- (5) 全国ダイバーシティネットワーク認定証交付の報告
- (6) キャリアデザイン2020（女子学生向け講演会）開催報告

2.2 キャリアデザイン2020（女子学生向け講演会）

令和2年12月23日に女子学生向け講演会として、キャリアデザイン2020をテクノセンターと共催で実施した。女子学生が、将来の自分をイメージして自らのキャリアデザインを進める機会を設けるというテーマのもと、テクノアカデミア会員企業・団体で活躍する女性3名を招き、講演をお願いした。今年度、女子学生は約130名在籍しており、感染症対策を考慮し会場を4教室に分散し、教室間をWEB会議システムで接続しての実施となった。

（協力企業・団体：舞鶴市、(株)日進製作所、日東精工(株)）

2.3 教員職インターンシップ

昨年度に続き、教員職体験のインターンシップを女性限定で行った。コロナ禍の社会情勢を考慮し、募集範囲を近畿地区に、人数を1名のみに限定して参加者を募った。厳しい条件としたため、応募があるか心配されたが、1名の応募があり12月20日～24日（4日間）で実施することができた。

2.4 女子学生グループ「うろうろ」の活動

昨年度から活動していた女子学生グループを、公認団体とし本室が活動の支援を行っていくこととした。立ち上げメンバーは23名であったが、年度末には31名の組織となった。今後は学内の女子学生の交流の場として、また他高専との連携やリケジョ推進の急先鋒としても活躍が期待される。

3. 男女共同参画室が関係した行事・会議等 [連携機関等]

- ・ 4月30日 高専女子フォーラム in 関西 第1回実行員会 (WEB開催)
- ・ 7月 9日 全国ダイバーシティネットワーク組織令和2年度第1回近畿ブロック会議
第1回近畿ブロックセミナー (WEB開催)
- ・ 9月26日 女子学生グループ「うろうろ」公開講座補助
「遊んで、学ぶ。不思議なパズルとフィボナッチ数列」(女子学生3名, 大会議室)
- ・ 10月11日 女子学生グループ「うろうろ」公開講座・ワークショップ補助
「遊んで、学ぶ。計算機と平方根」(女子学生3名, 大会議室)
「AIを使って丹後の伝説を読む」(女子学生4名, 赤れんがパーク企画展示室)
- ・ 11月15日 舞鶴市男女共同参画講演会 講師: 上野千鶴子先生
「日本の男女共同参画はどこまで来たか? これまでとこれから」
(教職員3名参加, 舞鶴市商工観光センター)
- ・ 11月15日 女子中学生1日高専体験会
- ・ 11月25日 令和2年度全国ダイバーシティネットワーク組織近畿ブロックシンポジウム
「コロナ禍における女性研究者の働き方～改めて男女協働参画&
ダイバーシティ推進の原点へ」(WEB開催)
- ・ 11月27日 舞鶴市男女共同参画セミナー「夫婦で話そう、考えよう。パパ育休のこと」
(男性教員2名参加, WEB開催)
- ・ 12月14日 全国ダイバーシティネットワーク認定証交付
- ・ 12月20日～24日 教員職インターンシップ受入れ
- ・ 12月23日 女子学生向け講演会「キャリアデザイン2020」[地域共同テクノセンター共催]
- ・ 2月26日 全国ダイバーシティネットワーク組織令和2年度第2回近畿ブロック会議
第2回近畿ブロックセミナー (WEB開催)
- ・ 3月 3日 令和2年度高専フォーラム「KOSEN男女共同参画への集い -ON-LINE-」
女子学生グループ「うろうろ」パネルディスカッション登壇
- ・ 3月 4日 令和2年度第3ブロック男女共同参画推進協議会 (WEB開催)
- ・ 3月10日 男女共同参画推進に関する講演会[奈良高専] (WEB開催)
「なぜ今ダイバーシティなのか? ～男性主導の組織運営を超えて～」
- ・ 3月22日 女子学生交流会[奈良高専, 明石高専, 近大高専] (WEB開催)

舞鶴高専ジュニアドクター育成塾

実施主担当者 上杉 智子

1. ジュニアドクター育成塾について

ジュニアドクター育成塾は、科学技術振興機構（JST）が行う理系の次世代人材育成事業の一つで、理系の優れた能力を秘めた児童・生徒を発掘し、その能力を育てることを目的としています。本校は、平成31（令和元）年度より「多自然居住地域における理工系人材の発掘と世界に羽ばたく人材育成プログラム」という企画名でこの取り組みに採択されています。2年目となる今年度も、対象地域である京都・滋賀・兵庫・福井の小中学生たちに、科学技術との触れ合いや高度な研究課題への取り組みの機会を提供するための活動を行いました。

2. 実施組織

昨年度に引き続き、学内の実施組織「ジュニアドクター育成塾推進会議」の構成員を中心として企画を行い、全学的なサポートのもとで取り組みを実施しました。

令和2年度 ジュニアドクター育成塾推進会議 構成員

役割名	担当構成員
実施責任者	校長
実施主担当者	上杉智子
実施担当者	宝利 剛，谷川博哉，内海淳志，石川一平，加登文学，上野卓也
事務局	事務部長，総務課

3. 育成プログラム

育成プログラムは二段階に分かれており、受講一年目の第一段階プログラムは、応募者から約40名の受講生を選抜して実施します。第一段階の取り組みを修了した受講生のうち、特に優秀な受講生を選抜して、受講二年目より第二段階プログラムを実施します。取り組み2年目となる今年度は、第一期生に対する第二段階の育成プログラムと、第二期生に対する第一段階の育成プログラムを並行して行いました。

《第一段階育成プログラム》

令和2年度の受講生募集では75名の応募があり、40名の受講生を選抜しました。この受講生を対象に、理学・工学の様々な分野について学習するための取り組みを行い、成果発表会を実施しました。今年度はコロナ禍のため大幅に内容を変更し、全11回のうち10回の講座をオンラインで行いました。

(1) 基礎講座（8月10日，23日）

入塾式を行った後、2回にわたって、木製ノギスや分光器の作製など、簡単な工作を通じた測定値の扱い・有効数字・物理量の測定についての学習や、プログラミングについて学習する基礎講座をオンラインで実施しました。



基礎講座（分光器の作製）

(2) 課題学習（9月13日・20日・27日，10月10日・25日，11月3日）

受講生が2つのコース（Aコース：設計，ロボット／Bコース：AI・IoT，建築・環境）に分かれて行う課題解決型学習を、前半3回・後半3回の全6回，オンラインで行いました。



課題学習（設計）



課題学習（AI・IoT）



課題学習（ロボット）



課題学習（建築・環境）

(3) 特別講義 (11月15日) 対面による講座

大阪大学 南裕樹准教授による招待講演「モノの動きをデザインする」と、金山光一舞鶴高専名誉教授による研究者倫理についての講義、成果発表会と発表用ポスター作成の説明を行う特別講義を行いました。招待講演には、前年度の第一段階修了生17名（うち第二段階受講生11名）も参加しました。



招待講演

(4) 留学生交流会・発表ポスター作成 (11月28日) オンライン講座

本校に在学中のラオスとモンゴルからの留学生による母国の紹介と交流のあと、成果発表会に向けた発表用ポスター作成を行いました。



留学生による母国紹介

(5) 成果発表会・修了式 (12月20日) オンライン開催

第一段階での学習の成果発表会をオンラインで開催し、今年度の第一段階受講生38名と前年度の第一段階修了生1名がスライドによる発表を行いました。成果発表後は第一段階教育プログラムの修了式を行い、発表を行った受講生達に修了証書を授与しました。



成果発表の様子



修了式



受講生の様子

《第二段階育成プログラム》

令和2年度の第二段階受講生は、前年度の第一段階修了生の中から15名を選抜し、8つの研究テーマに分かれて、月2回程度オンラインによる指導を開始し、9月からは一部は対面指導も取り入れて指導を行いました。

成果発表の機会としては、11月に開催された、全国の実施機関から受講生が参加するサイエンスカンファレンス2020（オンライン開催）には、発表と議論を行うグループセッションに1名、研究発表会に2名、計3名の受講生が参加しました。

また、令和3年3月20日には第二段階受講生の成果発表の場として、舞鶴市商工観光センターのコンベンションホールで令和2年度研究フォーラムを開催し、令和2年度の第二段階受講生13名が成果発表を行いました。



グループセッションでの発表

4. 本取り組みによる学生の教育

ジュニアドクター育成塾の取り組みでは、受講生のサポートを行う本校の学生達に対し、メンターの役割を担うためのスキルを育成することも目的としています。そのために、令和2年度は次のような取り組みを行いました。

(1) 学生メンターの研修

学生メンターを少人数ずつに分け、実施主担当者とシニアメンターによる研修を複数回実施しました。

また、各講座の前後には、受講生指導に関するミーティングを実施し、シニアメンター（本校教員）等による指導を行いました。

(2) 教育アドバイザーの雇用

昨年度に引き続き、教育アドバイザーとして、元中学校教員の後野文雄先生、橋本茂先生をお迎えし、本校教員と共に学生メンターの指導をして頂きました。

KOSEN型産学共同インフラメンテナンス人材育成システムの構築

社会基盤メンテナンス教育センター長 玉田 和也

文部科学省が「Society5.0に対応した高度技術人材育成事業」として実施する「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」において、舞鶴工業高等専門学校が申請代表校となった『KOSEN型産学共同インフラメンテナンス人材育成システムの構築』が、中核拠点の取組として選定され2年目を迎えました。

本事業は、舞鶴工業高等専門学校社会基盤メンテナンス教育センターが中心となり、建設技術者が働きながら学びを続けるための環境整備や、職業能力の向上とキャリア・アップに繋がる教育プログラムの構築等、社会人のための学び（リカレント教育システム）を設計するもので、産学と地域が連携してインフラメンテナンスのリカレント教育推進のための産学連携コンソーシアムを形成し、『KOSEN型産学共同インフラメンテナンス人材育成システムの構築』を行う事業です。

本事業は、5か年で実施し、令和元年度は産学+地域による連携体制としてREIM産学連携コンソーシアムを設立するとともに、リカレント教育の実施体制と実施拠点の整備を行いました。本年度はリカレント教育プログラム及び実務家教員育成研修プログラムの開発を行いました。今後、令和3年度は開発した各種プログラムの実証・検証及び新規技術資格創設、令和4年度は実務家教員育成実施とリカレント教育プログラムの全国展開に向けた連携高専での実証講座開催、令和5年度はリカレント教育プログラムの全国展開とKOSEN型産学共同インフラメンテナンス人材育成システムの確立に向けた取組みを行います。

KOSEN型産学共同インフラメンテナンス人材育成システムの構築

少子高齢化・労働人口減少
社会基盤（インフラ）高齢化

安全・機能確保対策の必要性大
維持管理・修繕等の需要が増大

インフラ
（橋梁）
の現状

- ・ 全国の橋梁ストックは約72万橋（国道3割、市町村道7割）
- ・ このうち、建設後50年以上経過した橋梁が10年後には5割超
- ・ 町の3割、村の6割で橋梁保全業務に携わる土木技術者不在

課題・問題

- ・ 地方では高等教育を受けた技術者が非常に少ない
- ・ 実務者のインフラメンテナンス分野の経験が乏しい
- ・ 建設技術者のICTスキルが不十分で建設現場の生産性が低い

Society5.0を牽引するインフラメンテナンス人材
を育成するためのリカレント教育が急務

- 実務家教員育成研修プログラムを開発し、産学連携でリカレント教育プログラムの講師を育成
- 若手建設技術者を主な対象とし、職務を離れることなく受講可能なリカレント教育プログラムを開発・実施
- 全国5か所のリカレント教育拠点に育成した実務家教員を配置し、リカレント教育プログラムを全国展開
→リカレント教育プログラム修了者、特に高専卒（准学士）の技術者について、修士課程への社会人入学を支援



学科・部門別教員一覧 (令和3年3月現在)

人文科学部門

氏 名	職 名	校 務 分 担	担 当 科 目	専 門 分 野	研 究 テ ー マ
田村 修一 (博士〔文学〕)	教授	・ 人文科学部門長	①現代文A, B ②総合国語ⅡA, ⅡB ③日本語A, B, C, D, E, F ④日本文化論	日本近代文学	①芥川龍之介 ②阿部知二 ③日本近代文学史
藤田 憲司 (修士〔文学〕)	教授	・ 学級担任(2-1) ・ 学生主事補 ・ 国際交流センター長	①総合英語ⅡA, ⅡB, ⅢA, ⅢB, ⅣB, ⅤA ②現代英語Ⅱ ③工業英語 ④Oral English	英文学	①18世紀イギリス詩 ②批評理論
児玉 圭司 (修士〔法学〕)	教授	・ 学級担任(1-2) ・ 学生相談室長 ・ 修学支援室長	①人間論Ⅱ ②法学 ③経済学 ④現代日本の政治・経済と法Ⅰ, Ⅱ ⑤科学と社会 ⑥技術者倫理	法制史 (日本近代)	①行刑(監獄制度)史 ②刑事法・刑事政策史
Kay, Jonathan-David Robert (学士〔文学〕)	准教授			International Political Economy	Maintenance of Welfare State Legitimacy in Social Democratic Societies (e.g. Denmark, Sweden, Norway)
牧野 雅司 (博士〔文学〕)	准教授	・ 学級担任(2-3) ・ 学生主事補	①歴史総合A ②公共A, B ③地域学Ⅰ, Ⅱ ④防災リテラシー	日本近代史 対外関係史	①幕末維新期の日朝関係 ②地域史料の保存と活用
山根 秀介 (博士〔文学〕)	講師	・ 教務主事補	①総合英語ⅡA, ⅡB, ⅢA, ⅢB, ⅣB, ⅤA ②現代英語Ⅰ	近代哲学	①ウィリアム・ジェイムズ ②現代フランス哲学
荻田 みどり (博士〔文学〕)	講師	・ 寮務主事補	①古典A, B ②総合国語ⅡA, ⅡB ③国語国文Ⅰ, Ⅱ	中古文学 (平安時代の文学)	源氏物語の食事描写

氏 名	職 名	校 務 分 担	担 当 科 目	専 門 分 野	研 究 テ ー マ
大内 真一郎 (修士〔文学〕)	講師	・学級担任(1-4)	①総合英語ⅠA, ⅠB,ⅢA,ⅢB, ⅣB,ⅤA ②技術英語 ③工業英語 ④Oral English	アメリカ小説	①リチャード・パワーズ ②物語論 (ナラトロジー)
平尾 恵美 (修士〔文学〕)	助教		①総合英語ⅠA, ⅠB,ⅢA,ⅢB, ⅣA,ⅣB,ⅤA, ⅤB	英語学 言語学	①insubordination ②言いさし文 ③感情表出表現

自然科学部門

氏 名	職 名	校 務 分 担	担 当 科 目	専 門 分 野	研 究 テ ー マ
背戸柳 実 (修士〔理学〕)	教授	・学級担任(1-1)	①基礎数学A, B ②基礎数学演習A, B ③微分積分Ⅱ, Ⅲ ④応用数学ⅠA, ⅠB	①微分代数 ②p進解析	①常微分方程式の Liouville 解 ②冪級数解のp進収束 半径
小野 伸一郎 (学士〔教育学〕)	教授	・学生主事 ・交通対策検討委 員会委員長 ・人権侵害・ハラス メント防止委員 会委員長	保健体育Ⅰ, Ⅳ, Ⅴ	①運動生理学 ②運動方法学	①運動制御に対する 呼吸・代謝と不安心 理 ②身体活動と健康
奥村 昌司 (博士〔理学〕)	教授	・自然科学部門長 ・教育改善委員会 委員長	①微分積分Ⅱ, Ⅲ ②応用数学ⅡA, ⅡB	①非線形方程 式 ②微分幾何学 ③数理物理	自己双対方程式のパ ンルベ解析
上杉 智子 (博士〔理学〕)	教授	・教務主事補 ・学級担任(1-3)	①物理ⅠA, 1B ②物理ⅢA, ⅢC ③応用物理Ⅰ, Ⅱ ④近代物理学 ⑤防災リテラシー	①素粒子論 ②初期宇宙論	①宇宙論的相転移の 解明 ②宇宙磁場, 物質の起 源
宮崎 昭仁 (博士〔理学〕)	准教授			①分析化学 ②錯体化学 ③社会地球化 学 ④環境化学	①新機能性リガンド のトポロジーを用 いたナノテクノロ ジー ②物質移動の社会地 球化学的地域研究
岡田 浩嗣 (博士〔理学〕)	准教授	・学生主事補 ・進路指導委員会 副委員長(進学) ・学級担任(2-2)	①基礎数学A, B ②基礎数学演習A, B ③微分積分ⅠA, ⅠB	①微分方程式 ②力学系 ③特異摂動論	①反応拡散系におけ る内部遷移層と界 面のダイナミクス ②特異摂動法の非局 所方程式への応用
木村 健二 (修士〔体育学〕)	准教授	・学寮委員会副主事	保健体育 Ⅰ, Ⅱ, Ⅳ, Ⅴ	①スポーツバ イオメカニ クス ②トレーニング 科学	素早く移動方向を変 更させるためのスト ラテジーに関する研 究
宝利 剛 (博士〔理学〕)	講師	・学級担任(2-4) ・寮務主事補	①物理ⅡA, ⅡB ②物理ⅢB, ⅢD ③応用物理Ⅰ, Ⅱ	①相対論	ブラックホール時空 の数理

氏 名	職 名	校 務 分 担	担 当 科 目	専 門 分 野	研 究 テ ー マ
小島 広孝 (博士〔工学〕)	講師		①化学ⅠA, ⅠB ②化学ⅡA, ⅡB ③化学ⅢA, ⅢB	①分子科学 ②計算化学 ③有機合成	有機材料の分子シミュレーション
喜友名 朝也 (博士〔数理学〕)	講師	・ 寮務主事補	①微分積分ⅠA, ⅠB ②微分積分Ⅱ, Ⅲ ③応用数学ⅠA, ⅠB ④応用解析1, 2	①整数論	①保型形式環 ②保型微分方程式
熊谷 大雅 (博士〔理学〕)	助教		①基礎数学A, B ②基礎数学演習A, B ③応用数学ⅠA, ⅠB	①非線形偏微分方程式論	粘性解理論を用いた完全非線形偏微分方程式の数学解析

機械工学科

氏 名	職 名	校 務 分 担	担 当 科 目	専 門 分 野	研 究 テ ー マ
西山 等 (博士〔工学〕)	教授	・教育プログラム (MDE)委員会委員長 ・学級担任(5M)	①工作実習Ⅰ ②機構学 ③流れ学Ⅰ,Ⅱ ④機械工学実験Ⅱ ⑤知能機械工学 ⑥医工学 ⑦計算機援用工学 ⑧制御工学Ⅰ ⑨卒業研究	①流体工学 ②生体力学	①エアリフトポンプ に関する研究 ②生物模倣工学に関 する研究
篠原 正浩 (博士〔工学〕)	教授	・学級担任(3M)	①機械設計法Ⅰ ②工作実習Ⅱ ③材料力学ⅡA,ⅡB ④機械工学実験Ⅱ ⑤材料力学Ⅲ ⑥設計工学 ⑦卒業研究 ⑧弾塑性力学 ⑨材料強度学 ⑩特別実験 ⑪エンジニアリン グ・デザイン演習	①材料力学 ②複合材料工 学	①自己融着による炭 素繊維強化熱可塑 性樹脂複合材料の 接合について ②局所加熱を利用し た炭素繊維強化熱 可塑性樹脂複合材 料の曲げ加工
谷川 博哉 (博士〔工学〕)	教授	・教育研究支援セ ンター長 ・学級担任(4M)	①入門機械実習 ②工作実習Ⅱ ③材料力学ⅠA,ⅠB ④機械工学実験Ⅰ ⑤創造設計製作 ⑥設計製図Ⅳ ⑦流体工学 ⑧卒業研究 ⑨流体力学 ⑩特別研究	流体力学	①振動重力場におけ る流体の挙動 ②集風体に関する研 究
豊田 香 (博士〔工学〕)	教授	・寮務主事	①設計製図Ⅱ ②設計製図Ⅲ ③熱力学Ⅰ,Ⅱ(4M) ④熱力学Ⅰ(3S) ⑤熱力学Ⅱ(4S) ⑥熱工学 ⑦特別研究基礎 ⑧特別研究	①エネルギー 工学	膜沸騰熱伝達の研究
山田 耕一郎 (博士〔工学〕)	教授	・機械工学科長 ・入試広報部会長	①入門機械実習 ②加工学Ⅱ,Ⅲ ③工作実習Ⅱ ④創造設計製作 ⑤機械力学Ⅰ,Ⅱ ⑥機械工学実験Ⅰ,Ⅱ ⑦設計製図Ⅲ ⑧卒業研究 ⑨特別研究基礎	①計算力学 ②材料力学	①ねじの疲労試験 ②ねじ焼入れの強度 に関するシミュレ ーション

氏 名	職 名	校 務 分 担	担 当 科 目	専 門 分 野	研 究 テ ー マ
小林 洋平 (博士〔工学〕)	准教授		①設計製図Ⅰ ②計測概論 ③マリンエンジニアリング ④機械工学実験Ⅰ ⑤機械工学実験Ⅱ ⑥卒業研究 ⑦エネルギー工学 ⑧エネルギー環境学 ⑨プラント工学 ⑩特別実験 ⑪特別演習	熱流体工学	①液体ナトリウムの濡れ性に関する研究 ②廃炉ロボットの研究
室巻 孝郎 (博士〔工学〕)	准教授	・ 専攻科機械制御システム工学コース長 ・ 教務主事補	①機械工学実験Ⅱ ②情報処理Ⅱ ③設計製図Ⅲ ④入門機械電気電子情報工学 ⑤システム工学 ⑥電気工学Ⅰ, Ⅱ ⑦制御工学Ⅱ ⑧卒業研究 ⑨システム設計学 ⑩特別研究基礎 ⑪特別演習 ⑫動的設計論	①数値最適化 ②システム工学	①FA機器の開発 ②福祉機器の開発
村上 信太郎 (博士〔工学〕)	准教授	・ 寮務主事補	①機械工学実験Ⅰ ②設計製図ⅡA, ⅡB ③情報処理Ⅰ(1M) ④工学基礎演習 ⑤数学演習 ⑥工業力学Ⅰ ⑦力学基礎Ⅱ ⑧卒業研究 ⑨特別実験 ⑩特別研究	①熱流体工学 ②数値流体力学	マイクロスケール圧縮性流れの流動・伝熱
山本 昌平 (博士〔工学〕)	助教		①機械工学実験Ⅰ ②設計製図Ⅱ ③計測工学演習 ④機械設計法Ⅱ ⑤ものづくり演習 ⑥卒業研究	①熱流体工学 ②燃焼工学	燃焼により生成される有害排気物質の低減

電気情報工学科

氏 名	職 名	校 務 分 担	担 当 科 目	専 門 分 野	研 究 テ ー マ
中川 重康 (博士〔工学〕)	教授	・電気情報工学科長	①インターフェースⅠ,Ⅱ ②アナログ信号処理Ⅱ ③電気情報工学実験ⅡA,ⅡB ④ディジタル信号処理 ⑤創造工学 ⑥工学基礎研究 ⑦卒業研究 ⑧特別実験 ⑨パワーエレクトロニクス ⑩特別研究基礎 ⑪特別研究	①電力工学 ②太陽エネルギー利用	①デュアル型屋外MPPT評価システムの開発 ②日射量モデルの評価に関する研究
片山 英昭 (博士〔工学〕)	教授	・評価副委員長	①情報理論 ②数値解析実習 ③創造工学 ④工学基礎研究 ⑤過渡現象論 ⑥情報システム論 ⑦電気情報工学実験ⅣA,ⅣB ⑧卒業研究 ⑨特別実験 ⑩情報工学 ⑪特別演習 ⑫特別研究基礎	①情報システム工学 ②視覚情報処理	視覚障害者用歩行支援システムに関する研究
内海 淳志 (博士〔工学〕)	教授	・地域共同テクノセンター副センター長 ・教務主事補(後期) ・学級担任(5E)	①電気基礎 ②電気回路 ③専門AL(1E) ④電気情報工学実験ⅡB ⑤アナログ回路 ⑥電子工学Ⅰ,Ⅱ ⑦創造工学 ⑧工学基礎研究 ⑨半導体工学 ⑩卒業研究 ⑪特別実験 ⑫電磁気応用工学 ⑬特別研究基礎 ⑭特別研究	①光電子工学 ②半導体工学	①近接場光応用技術の開発 ②電子デバイス教材の開発

氏 名	職 名	校 務 分 担	担 当 科 目	専 門 分 野	研 究 テ ー マ
芦澤 恵太 (博士〔理学〕)	教授	・進路指導委員会委員長 ・男女共同参画室室長 ・学生副主事	①情報基礎 ②アナログ信号処理Ⅰ ③C言語実習 ④電気情報工学実験ⅡA, ⅡB ⑤通信工学 ⑥工学基礎研究 ⑦卒業研究 ⑧特別演習 ⑨画像工学 ⑩特別研究基礎 ⑪特別研究	①画像処理 ②数値調和解析	①画像圧縮アルゴリズムの開発 ②ギブス現象軽減に関する研究
船木 英岳 (博士〔工学〕)	准教授	・FD・ICT部会部会長	①メディアリテラシー ②ネットワーク論Ⅰ, Ⅱ ③電気情報工学実験ⅢA, ⅢB ④創造工学 ⑤工学基礎研究 ⑥オペレーティングシステムⅠ, Ⅱ ⑦卒業研究 ⑧ネットワークシステム論 ⑨エンジニアリングデザイン演習 ⑩特別研究基礎 ⑪特別研究	情報システム工学	①複数ARマーカを用いたソフトウェアの開発 ②視線入力を用いたコミュニケーションツールの開発 ③3Dプリンタを用いた福祉支援器具の製作
丹下 裕 (博士〔工学〕)	准教授	・学級担任(4E)	①電気磁気学Ⅰ ②電気磁気学Ⅲ ③創造工学 ④工学基礎研究 ⑤伝送工学 ⑥シミュレーション工学Ⅰ, Ⅱ ⑦電気情報工学実験ⅣA, ⅣB ⑧卒業研究 ⑨応用通信工学 ⑩特別研究基礎 ⑪特別研究	医用生体工学	①癌温熱治療装置の開発 ②障がい者支援に関する研究

氏 名	職 名	校 務 分 担	担 当 科 目	専 門 分 野	研 究 テ ー マ
井上 泰仁 (博士〔工学〕)	准教授	・ 専攻科電気電子システム工学コース長 ・ 教務主事補(前期)	①電気情報基礎 ②情報数学 ③ディジタル回路 ④論理回路 ⑤電気情報工学実験ⅢA, ⅢB ⑥工学基礎研究 ⑦卒業研究 ⑧医療工学	情報科学	膜タンパク質の機能予測
廣芝 伸哉 (博士〔工学〕)	准教授		①電子デバイス工学Ⅰ ②交流回路Ⅰ, Ⅱ ③電気情報工学実験ⅠA, ⅠB ④電気磁気学Ⅱ ⑤回路理論 ⑥電磁気計測 ⑦工学基礎研究 ⑧卒業研究	ナノテクノロジー 機能材料物性	フレキシブルデバイスの電子物性と応用
七森 公碩 (博士〔工学〕)	講師	・ 学級担任(3E)	①電気情報工学実験ⅠA, ⅠB ②電気機器Ⅰ, Ⅱ ③創造工学 ④エネルギー工学Ⅰ, Ⅱ ⑤アクチュエータ工学 ⑥工学基礎研究 ⑦卒業研究 ⑧特別研究基礎	パワーエレクトロニクス	①GaN, SiCの電力変換器応用 ②半導体並列接続駆動に関する研究
森 健太郎 (博士〔シミュレーション学〕)	助教		①電気情報工学実験ⅠA, ⅠB ②C言語 ③創造工学 ④工学基礎研究 ⑤卒業研究 ⑥特別演習	医用画像・信号工学	医用診断支援システムの開発

電子制御工学科

氏 名	職 名	校 務 分 担	担 当 科 目	専 門 分 野	研 究 テ ー マ
野間 正泰 (博士〔工学〕)	教授	・ 電子制御工学科長	①力学Ⅰ,Ⅱ ②材料力学Ⅰ,Ⅱ ③水力学Ⅰ,Ⅱ ④計測工学Ⅰ ⑤機械工学実験 ⑥卒業研究 ⑦流体工学特論 ⑧エンジニアリングデザイン演習	①トライボロジー ②可視化情報計測	①テラー渦とキャビティ流れの相互作用 ②移動物体まわりの流れの可視化 ③簡易風洞装置の設計製作と理科教育への適用 ④トライボロジー実験教材の開発
仲川 力 (博士〔工学〕)	教授	・ 学級担任 (3S) ・ 学術情報センター副センター長 ・ 寮務主事補	①情報処理Ⅲ ②CAD演習ⅠB ③電子制御実験 ④創造設計プロジェクト ⑤CAD演習ⅡC ⑥卒業研究 ⑦特別演習	機械工学	①クローラ走行体の走行性能に関する研究 ②VRを用いたシミュレータの開発と実験
川田 昌克 (博士〔工学〕)	教授	・ 教務主事	①メカトロニクス演習Ⅰ ②制御工学Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ ③数値計算法 ④制御工学Ⅰ,Ⅱ(5E) ⑤制御工学実験 ⑥システム制御工学	制御工学	①数値最適化による制御系解析／設計と実システムへの応用 ②制御工学教育のコンテンツ開発
伊藤 稔 (博士〔工学〕)	教授	・ 学術情報センター長 ・ 教務主事補	①メカトロニクス演習Ⅱ ②プログラミング1 ③情報学 ④画像処理 ⑤電子制御実験 ⑥卒業研究 ⑦知識情報工学 ⑧特別実験	ソフトコンピューティング	①進化計算の工学的応用 ②SLAMに関する研究

氏 名	職 名	校 務 分 担	担 当 科 目	専 門 分 野	研 究 テ ー マ
清原 修二 (博士〔工学〕)	准教授	・ 寮務主事補	①電子制御実習Ⅰ,Ⅱ ②電子工学Ⅰ,Ⅱ ③電気磁気学Ⅰ ④ディジタル電子回路 ⑤卒業研究 ⑥電子回路特論	①ナノテクノロジー ②超微細加工学 ③電子・イオンビーム工学	①液滴室温インプリント法による機能性DLCナノデバイスの開発 ②ポータブル室温ナノインプリントシステムを用いたナノテクノロジー教育
西 佑介 (博士〔工学〕)	准教授		①電子回路Ⅱ ②電子制御実験 ③電気磁気学Ⅱ ④卒業研究 ⑤エンジニアリングデザイン演習	①酸化物エレクトロニクス ②電子回路 ③半導体工学	①酸化物を用いたアナログ抵抗変化素子の評価 ②アナログ抵抗変化特性の理論解析 ③抵抗変化におけるフォーミング機構の解明
石川 一平 (博士〔工学〕)	准教授	・ 学級担任(4S)	①電気基礎Ⅰ,Ⅱ ②防災リテラシー ③電子回路Ⅰ ④電子制御実験 ⑤電子物理 ⑥卒業研究 ⑦特別実験 ⑧先端材料工学 ⑨電子デバイス工学Ⅱ	①電子物理 ②応用物理 ③材料工学	①微細発光デバイスの作製 ②プラスチックを用いた放射線計測に関する研究
高木 太郎 (博士〔工学〕)	准教授	・ 学級担任(5S)	①CAD演習ⅡA ②システム制御Ⅰ,Ⅱ ③制御工学実験 ④卒業研究 ⑤制御工学特論 ⑥特別実験 ⑦特別演習 ⑧特別研究基礎	制御工学	①概強正実性に基づく適応制御系のモデルフリー構成法 ②パワーアシストスーツに関する研究

氏 名	職 名	校 務 分 担	担 当 科 目	専 門 分 野	研 究 テ ー マ
若林 勇太 (博士〔工学〕)	講師		①振動工学Ⅰ,Ⅱ ②ロボット工学Ⅰ,Ⅱ ③メカトロニクス演習Ⅱ ④機械工学実験 ⑤創造設計プロジェクト ⑥卒業研究 ⑦ロボットシステム制御 ⑧特別研究基礎 ⑨特別研究	ロボット工学	①人とロボットの協働作業に関する研究 ②機械メカニズムによる省アクチュエータ・省センサ化
藤司 純一 (博士〔工学〕)	助教		①電子制御実験 ②創造設計プロジェクト ③計算機工学Ⅰ,Ⅱ ④CAD演習ⅡB ⑤卒業研究 ⑥信号処理特論	制御工学	①複数のロボットによる協調制御系の構成法 ②非線形システムのフィードバック線形化

建設システム工学科

氏 名	職 名	校 務 分 担	担 当 科 目	専 門 分 野	研 究 テ ー マ
高谷 富也 (博士〔学術〕)	教授			①構造・耐震工学 ②振動工学 ③動土質	①木造建築物の地震時倒壊過程解析に関する研究 ②地震時における地盤の増幅特性の評価手法およびその適用に関する研究 ③耐震建具を用いた既存木造住宅の耐震補強工法の開発に関する研究 ④3Dソフトウェアの都市計画および各種シミュレーションへの適用に関する研究
四蔵 茂雄 (博士〔工学〕)	教授	・学級担任(4C)	①環境衛生学Ⅰ,Ⅱ ②環境工学ⅠA,ⅠB ③環境工学Ⅱ ④建設システム工学実験ⅡB ⑤応用測量学Ⅰ,Ⅱ ⑥卒業研究 ⑦地球環境政策学 ⑧水圏環境学 ⑨特別演習	①環境工学 ②環境政策学	①途上国のエネルギー環境問題 ②循環型社会形成の政策論
玉田 和也 (博士〔工学〕)	教授	・地域共同テクノセンター長	①工学基礎 ②構造力学Ⅲ ③情報処理Ⅱ ④鋼構造学Ⅰ,Ⅱ ⑤応用構造力学 ⑥卒業研究 ⑦応用構造工学 ⑧メンテナンス工学 ⑨特別研究 ⑩特別実験	①メンテナンス工学 ②橋梁工学 ③構造工学	①地方自治体が管理する橋梁の維持管理 ②橋梁の健全度評価 ③アセットマネジメント ④応急復旧橋の開発 ⑤構造力学教育

氏 名	職 名	校 務 分 担	担 当 科 目	専 門 分 野	研 究 テ ー マ
尾上 亮介 (博士〔芸術文化学〕)	教授	・ 建設システム工 学科長	①建設システム工 学概論Ⅰ ②都市計画 ③建設製図Ⅰ ④建設製図Ⅱ ⑤建設製図制作 ⑥建築計画Ⅱ ⑦建設設計製図Ⅰ ⑧建築デザインⅠ ⑨卒業研究 ⑩特別研究 ⑪まちづくり学 ⑫設計製図	①建築設計 ②都市計画 ③まちづくり	①空き屋の活用に関 する研究 ②民家改修における 意匠・形態に関す る研究 ③歴史的景観を形成 する建築意匠に関 する研究
加登 文学 (博士〔工学〕)	教授	・ 専攻科長	①防災リテラシー ②建設システム工 学概論Ⅱ ③建設製図制作 ④建設システム工 学実験ⅠA,ⅠB ⑤地盤工学ⅠA,ⅠB ⑥地盤工学ⅡA,ⅡB ⑦防災工学 ⑧卒業研究 ⑨応用情報工学 ⑩特別実験 ⑪地盤工学設計論 ⑫特別研究	①地盤工学 ②土質力学	①地盤材料の力学特 性に関する研究 ②強震動予測に関す る研究 ③斜面安全管理に関 する研究
徳永 泰伸 (博士〔工学〕)	教授	・ 教務主事補	①建設システム工 学概論Ⅰ ②建設製図制作 ③建設システム工 学実験ⅠA,ⅠB ④建築環境Ⅰ,Ⅱ ⑤建築設備Ⅰ,Ⅱ ⑥卒業研究 ⑦特別実験 ⑧建築環境工学特 論	①建築環境学	①室内音環境に関す る研究 ②視覚と聴感の相互 作用に関する研究 ③室内視環境に関す る研究

氏 名	職 名	校 務 分 担	担 当 科 目	専 門 分 野	研 究 テ ー マ
渡部 昌弘 (博士〔工学〕)	准教授	・専攻科建設工学 コース長 ・学生主事補	①建築一般構造 ②情報処理 ③建設製図制作 ④建築構造Ⅰ,Ⅱ ⑤数値解析Ⅱ ⑥卒業研究 ⑦エンジニアリン グデザイン演習 ⑧特別実験 ⑨建築耐震工学 ⑩特別研究基礎 ⑪特別研究	①木質構造学 ②建築構法 ③建築構造	①歴史的木質建築物 の構造特性・耐震 性能の解明および 保存・改修に關す る研究 ②木質系構造を有す る歴史的文化的資 産の復元研究 ③近現代の組積造建 築物の構工法・構 造特性の解明 ④近代の歴史的遺構 の実態調査および 保存・再生の提案
毛利 聡 (博士〔工学〕)	准教授	・学級担任(5C)	①測量実習 ②建設材料学 ③建設システム工 学実験ⅠA,ⅠB ④コンクリート構 造学Ⅰ,Ⅱ ⑤工学演習 ⑥卒業研究 ⑦建設材料特論 ⑧特別実験 ⑨特別研究基礎	①建築材料施 工 ②コンクリー ト工学	①建築部材の補修・ 改修・維持管理技 術の高度化 ②鉄筋コンクリート 造建築物の耐久性 評価 ③公共建築物の維持 管理 ④施工技術教育
今村 友里子 (博士〔工学〕)	講師	・学級担任(3C)	①建設製図Ⅱ ②建築論Ⅰ ③建築論Ⅱ ④建築デザインⅡ ⑤建設設計製図Ⅰ ⑥建築計画Ⅰ ⑦建設計画学 ⑧卒業研究	①建築論 ②建築史	①20世紀建築におけ る制作論 ②近現代建築保存活 用
上野 卓也 (博士〔工学〕)	助教		①水理学ⅠA,ⅠB ②水理学ⅡA,ⅡB ③建設システム工 学実験ⅡA ④河川工学 ⑤海岸工学 ⑥卒業研究 ⑦環境防災論	①海岸工学	①津波氾濫数値モデ ルの開発と適用 ②砂浜海岸の地形変 化と自然外力の解 析 ③小規模河川の流出 解析

教 職 員 数

令和3年3月1日現在

校 長		1					
教 員	区 分	教授	准教授	講師	助教	特任等	計
	人 文 科 学 部 門	3	2	3	1	0	9
	自 然 科 学 部 門	4	3	3	1	0	11
	機 械 工 学 科	5	3	0	1	0	9
	電 気 情 報 工 学 科	4	4	1	1	0	10
	電 子 制 御 工 学 科	4	4	1	1	0	10
	建設システム工学科	5	2	1	1	0	9
	計	25	18	9	6	0	58
事 務 職 員	事 務 部 長	1					
	総 務 課	15					
	学生課(看護師含む)	13					
	再 雇 用 事 務 職 員	2					
	計	31					
技 術 職 員	教育研究支援センター	11					
	施 設 系	2					
	再 雇 用 技 術 職 員	1					
	計	14					
非常勤教職員	事 務 補 佐 員 等	31					
	特 命 教 授	1					
	特 命 准 教 授	1					
	特 命 助 教	2					
	非 常 勤 講 師	30					
	学 校 医 等	5					
	計	70					
合 計		173					

注1) 「特任等」…「特任教授」「嘱託教授」

注2) 「事務補佐員等」…「事務補佐員」「技術補佐員」「技能補佐員」「課外活動指導員」「学生寮指導員」「非常勤看護師」

注3) 「学校医等」…「学校医」「学校歯科医」「産業医」「カウンセラー」

学校行事日程

月	日	曜日	行 事 名
4	1	水	臨時休校（～5月7日）
5	8	金	前期 授業開始（遠隔授業）
	29	金	遠隔授業のまとめの週間（～4日）
	5	金	遠隔授業再開
	14	日	開寮（本科4・5年・専攻科）
	15	月	対面授業開始（本科4・5年・専攻科） 学位申請説明会（専攻科2年）
	21	日	専攻科学力検査選抜試験（前期） 開寮（本科2・3年）
	22	月	対面授業開始（本科2・3年）
	26	金	本科1年授業なし
	27	土	入寮（本科1年） 保護者との懇談会（本科1年）
	28	日	新入生ガイダンス（本科1年）
	29	月	対面授業開始（本科1年）
7	23	木	授業あり 海の日
	24	金	授業あり スポーツの日
	26	日	舞鶴高専1日体験会
	31	金	特別授業（本科1年以外）
8	1	土	閉寮
	2	日	閉寮、舞鶴高専1日体験会
	3	月	夏季休業（～8/21）、編入学試験
	8	土	公開講座「夏休み親子工作教室～ 太陽電池を使ったものづくり～」
	9	日	舞鶴高専1日体験会
	11	火	一斉休業
	16	日	公開講座「夏休み太陽電池教室」
	22	土	開寮、舞鶴高専1日体験会
	23	日	開寮、舞鶴高専1日体験会
	24	月	授業開始
9	5	土	舞鶴高専1日体験会
	6	日	舞鶴高専1日体験会
	12	土	公開講座「考えて動かそう！きみに もできるロボット作り」，「住まいの 設計と模型作成」
	13	日	公開講座「3D-CADを使ってみよう！ パソコンで3Dモデル組立て」
	14	月	特別授業
	15	火	前期期末試験（～22日）

月	日	曜日	行 事 名
	19	土	公開講座「住まいの設計と模型作 成」
	21	月	授業あり 敬老の日
	22	火	授業あり 秋分の日
	23	水	後期 授業開始
9	26	土	公開講座「遊んで、学ぶ。不思議な パズルとフィボナッチ数列」，「環境 発電エナジーハーベスティングを 体験しよう」
	27	日	公開講座「プログラミングによるド ローンの自動飛行」，「生体情報を測 定する脈波センサーの作成を体験 してみよう」
	30	水	試験返却等到達度確認期間 前期授業アンケート（各～10月2日）
	3	土	公開講座「POV-RayによるCG制作を 体験してみよう」
	4	日	公開講座「椅子の制作」
	6	火	特別研究基礎中間発表（専）
	7	水	避難訓練
	10	土	公開講座「水をきれいにする試み－ 環境の創造実験－」，「電波を目で 見よう」 プロコン全国大会（～11日）
10	11	日	公開講座「遊んで、学ぶ。計算機と 平方根」
	18	日	ロボコン近畿地区大会 専攻科学力検査選抜試験（後期等）
	19	月	午前；英語デー 午後；特別授業
	23	金	後援会支部総会（26日，28日）
	24	土	公開講座「3D プリンターで作る立 体造形プログラム入門」
	29	木	高専祭代替行事準備
	30	金	高専祭代替行事
	31	土	留学生研修旅行
11	7	土	公開講座「レオナルド・ダ・ヴィン チの橋をつくろう！～模型で学ぶ 橋の仕組みと形～」，「身近なもの を使ってIoTを体験してみよう」
	8	日	公開講座「テンセグリティ～宙に浮 かぶ構造体～を作ろう！」，「小・中 学生のためのナノテクノロジー体 験教室」
	14	土	公開講座「プログラミング教室」

月	日	曜日	行 事 名
11	15	日	公開講座「住宅建築模型制作（住吉の長屋）」 女子中学生一日高専体験会
	18	水	特別授業
	21	土	公開講座「プログラミング教室」,「6足歩行ロボットをつくろう製作講習会（小学生の部）」
	22	日	公開講座「リモコンロボットをつくろう製作講習会（中学生の部）」
	23	月	公開講座「中学理科復習シリーズ第1弾【実験】水溶液の性質」
	24	火	本科後期中間試験（～30日）
	29	日	ロボコン全国大会
12	3	木	後期中間試験返却（～9日）
	5	土	合同学校説明会 デザコン全国大会（～6日）
	6	日	公開講座「チカチカ光るクリスマスツリーを作ろう！」
	11	金	午前；金曜午前授業 午後；キャリアセミナー準備, CBT関係
	12	土	キャリアセミナー（～13日）
	26	土	閉寮
	28	月	冬季休業（～1月8日）
1	11	月	開寮
	12	火	特別授業
	13	水	月曜日授業
	15	金	午前；金曜日午後授業 午後：特別選抜準備・CBT関係
	16	土	特別選抜入試
	19	火	特別研究発表会（専）
	26	火	特別研究基礎発表会（専）
2	1	月	（専攻科2年）後期期末試験（～2日）
	4	木	特別授業
	8	月	（本科1～4年・専攻科1年）後期期末試験（～16日） 5年生後期期末試験（～10日）
	12	金	5年試験返却等到達度確認期間（～15日）
	16	火	（本科1～4年）試験返却等到達度確認期間 後期授業アンケート（各～19日）
	17	水	特別授業

月	日	曜日	行 事 名
2	20	土	閉寮, 学年末休業（～3/31）
	21	日	閉寮 学力検査選抜入試
	22	月	臨時休業
3	6	土	学力検査選抜2次募集
	8	月	再試験期間（～18日）
	13	土	進路に関する三者懇談会（～14日）
	14	日	入学説明会
	19	金	卒業証書・修了証書授与式
	20	土	公開講座「第11回舞鶴高専平地研究室パワーエレクトロニクスオンライン公開講座」

※令和2年度は、新型コロナウイルスの感染症対策のため、多くの行事が中止となりました。

教 育 活 動

学生数	99
本科学学生定員，現員	99
外国人留学生入学者数	99
専攻科学学生定員，現員	99
学生寮現員	100
奨学生数，授業料免除該当者数及び入学科免除・猶予	101
入試状況	102
本科志願者数	102
本科合格者数	102
編入学志願者数及び合格者数	102
専攻科入学志願者数及び合格者数	102
就職状況（本科）	103
求人及び決定状況	103
決定先の所在地域別状況	103
決定先の業種別状況	103
就職状況（専攻科）	104
求人及び決定状況	104
決定先の所在地域別状況	104
決定先の業種別状況	104
進学状況（本科）	105
進学状況（専攻科）	105
進路先一覧（本科）	106
進路先一覧（専攻科）	107
卒業研究題目	108
機械工学科	108
電気情報工学科	108
電子制御工学科	109
建設システム工学科	110
専攻科特別研究題目（第2学年）	112
インターンシップ受入先（本科）	113
課外活動成績	114
課外活動に対する教員の活動状況	115

学 生 数

本科学学生定員

学 科	機 械 工 学 科	電気情報工学科	電子制御工学科	建設システム工学科	計
入学定員	40	40	40	40	160
学生総定員	200	200	200	200	800

本科学学生現員

令和2年5月1日現在

学年・学科	機 械 工 学 科	電気情報工学科	電子制御工学科	建設システム工学科	計
第1学年	43(2)	43(8)	40(2)	42(16)	168(28)
第2学年	42(6)	40(7)	46(6)	42(13)	170(32)
第3学年	45(2)	42(5)	43(3)	42(10)	172(20)
第4学年	37(2)	46(6)	35(3)	40(9)	158(20)
第5学年	26(5)	38(5)	35(2)	35(11)	134(23)
計	193(17)	209(31)	199(16)	201(59)	802(123)

() 内は女子学生数を示す。(内数)

外国人留学生入学者数(第3学年編入学生数)

学 科	機 械 工 学 科	電気情報工学科	電子制御工学科	建設システム工学科	計
人 数	0	0	0	0	0

専攻科学生定員

専 攻	総合システム工学専攻		
コ ー ス	電気電子システム工学コース	機械制御システム工学コース	建設工学コース
入学定員	16		
総 定 員	32		

専攻科学生現員

令和2年5月1日現在

専 攻	総合システム工学専攻			計
コ ー ス	電気電子システム工学コース	機械制御システム工学コース	建設工学コース	
第1学年	10(1)	11(2)	6(2)	27(5)
第2学年	8(0)	5(0)	4(0)	17(0)
計	18(1)	16(2)	10(2)	44(5)

() 内は女子学生数を示す。(内数)

学生寮現員

R2. 5. 1 現在

学 年	男 子	女 子	合 計
第1学年	126	23	149
第2学年	121	26	147
第3学年	105	16	121
第4学年	81	16	97
第5学年	60	10	70
専攻科1年	5	1	6
専攻科2年	2	0	2
計	500	92	592

奨学生数（令和3年2月現在）

奨 学 金 の 種 類		奨 学 生 数							
		1年	2年	3年	4年	5年	専1年	専2年	計
日本学生支援機構奨学金	第一種	4	4	9	11	5	3	4	40
	第二種	対象外			3	4	2	1	10
	給付型	対象外			20	8	3	1	32
京都府高等学校等修学資金		1	3	6	3	1	対象外		14
その他 府県奨学金		0	6	1	1	1	0	0	9
市町村奨学金		0	1	1	1	0	0	0	3
法人等の奨学金		0	1	2	5	3	0	3	14

授業料免除者数

区 分		免 除 者 数				
		4年	5年	専1年	専2年	計
前 期	全額免除	11 (11)	5 (2)	2 (1)	3 (1)	21
	半額免除		2	0	0	2
後 期	全額免除	10 (10)	7 (3)	2 (1)	2 (1)	21
	半額免除		1	0	0	1

※括弧書きは日本学生支援機構給付奨学生数で内数

入 学 料 免 除 者 数 …… 0名

入 学 料 徴 収 猶 予 者 数 …… 0名

授業料免除における特別措置 対象者数

（高等学校就学支援金受給者については、支給後の本人負担額を免除）

免除者数 前期…0名

後期…0名

卓越した学生に対する授業料免除

免除者数 後期…4年生4名（半額免除）

入 試 状 況

本科志願者数(都道府県別)

府県名 学科	京都府	福井県	兵庫県	滋賀県	大阪府	その他	計
機械工学科	18(1)	2(1)	5(0)	8(1)	5(0)	3(0)	41(3)
電気情報工学科	27(5)	0(0)	8(1)	6(0)	1(0)	0(0)	42(6)
電子制御工学科	21(0)	1(0)	8(0)	8(1)	2(0)	3(0)	43(1)
建設システム工学科	12(3)	1(0)	8(0)	4(0)	5(2)	5(2)	35(7)
計	78(9)	4(1)	29(1)	26(2)	13(2)	11(2)	161(17)

令和3年3月23日現在, () 内数字は女子学生で内数。

本科合格者数(都道府県別)

府県名 学科	京都府	福井県	兵庫県	滋賀県	大阪府	その他	計
機械工学科	17(1)	2(1)	5(0)	8(1)	5(0)	3(0)	40(3)
電気情報工学科	26(4)	0(0)	8(1)	6(0)	1(0)	0(0)	41(5)
電子制御工学科	20(0)	1(0)	7(0)	8(1)	1(0)	3(0)	40(1)
建設システム工学科	12(3)	0(0)	8(0)	4(0)	5(2)	5(2)	34(7)
計	75(8)	3(1)	28(1)	26(2)	12(2)	11(2)	155(16)

令和3年3月23日現在, () 内数字は女子学生で内数。

編入学志願者数及び合格者数

学科	志願者数	合格者数
機械工学科	0(0)	0(0)
電気情報工学科	0(0)	0(0)
電子制御工学科	1(0)	0(0)
建設システム工学科	1(0)	0(0)
計	2(0)	0(0)

令和3年3月23日現在, () 内数字は女子学生で内数。

専攻科入学志願者数及び合格者数

専攻	コース	志願者数	合格者数
総合システム工学専攻	電気電子システム工学コース	22(2)	13(0)
	機械制御システム工学コース	8(1)	4(1)
	建設工学コース	9(1)	5(1)
計		39(4)	22(2)

令和3年3月23日現在, () 内数字は女子学生で内数。

就職状況（本科）

求人及び決定状況

令和3年3月31日現在

区分	卒業者数	就職希望者数	内定者数	大学・専攻科進学希望者数	合格者数	その他	求人社数(社)	求人数(人)	求人倍率
機械	25	15	15	10	10	0	789	814	54.3
電気情報	36	20	20	15	15	1	811	836	41.8
電子制御	34	21	21	13	13	0	783	807	38.4
建設システム (都市環境)	17	12	12	5	5	0	519	562	46.8
建設システム (建築)	18	10	10	8	8	0	515	560	56.0
合計	130	78	78	51	51	1	3417	3579	45.9

求人社数は、学科間の重複を含む。

決定先の所在地域別状況

区分	京都府	大阪府	兵庫県	滋賀県	中京地域	京浜地域	その他	合計
機械	1 6.7%	5 33.3%	0 0.0%	1 6.7%	2 13.3%	5 33.3%	1 6.7%	15
電気情報	2 10.0%	6 30.0%	4 20.0%	1 5.0%	0 0.0%	6 30.0%	1 5.0%	20
電子制御	2 9.5%	6 28.6%	1 4.8%	0 0.0%	2 9.5%	8 38.1%	2 9.5%	21
建設システム (都市環境)	1 8.3%	3 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	7 58.3%	1 8.3%	12
建設システム (建築)	3 30.0%	4 40.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 30.0%	0 0.0%	10
合計	9 11.5%	24 30.8%	5 6.4%	2 2.6%	4 5.1%	29 37.2%	5 6.4%	78

上段の数字は人数を示す。

決定先の業種別状況

区分	建設	食品	繊維	出版・印刷	化学	鉄鋼・金属	機械	電気機器	輸送用機器	精密機器	電力・ガス	その他製造	情報通信	運輸・通信	卸売・小売	不動産・賃貸	生活・娯楽	学術サービス	その他サービス	官公庁	合計
機械	0 0.0%	2 13.3%	0 0.0%	1 6.7%	1 6.7%	0 0.0%	4 26.7%	1 6.7%	1 6.7%	1 6.7%	0 0.0%	2 13.3%	0 0.0%	1 6.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 6.7%	0 0.0%	15
電気情報	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 15.0%	1 5.0%	4 20.0%	2 10.0%	2 10.0%	0 0.0%	4 20.0%	1 5.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 10.0%	1 5.0%	0 0.0%	20
電子制御	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	7 33.3%	1 4.8%	1 4.8%	3 14.3%	1 4.8%	1 4.8%	1 4.8%	1 4.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 19.0%	1 4.8%	0 0.0%	21
建設システム (都市環境)	5 41.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 8.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 8.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 25.0%	0 0.0%	2 16.7%	12
建設システム (建築)	5 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 30.0%	0 0.0%	1 10.0%	0 0.0%	1 10.0%	10
合計	10 12.8%	2 2.6%	0 0.0%	1 1.3%	1 1.3%	0 0.0%	14 17.9%	3 3.8%	6 7.7%	6 7.7%	4 5.1%	3 3.8%	5 6.4%	4 5.1%	0 0.0%	3 3.8%	0 0.0%	10 12.8%	3 3.8%	3 3.8%	78

上段の数字は人数を示す。

就職状況（専攻科）

求人及び決定状況

令和3年3月31日現在

区分	修了者数	就職希望者数	内定者数	大学・専攻科進学希望者数	合格者数	その他	求人会社数(社)	求人数(人)	求人倍率
電気電子	8	3	3	5	5	0	746	757	252.3
機械制御	4	4	4	0	0	0	731	743	185.8
建設	4	2	2	2	2	0	514	575	287.5
合計	16	9	9	7	7	0	1991	2075	230.6

求人会社数は、コース間の重複を含む。

決定先の所在地域別状況

区分	京都府	大阪府	兵庫県	滋賀県	中京地域	京浜地域	その他	合計
電気電子	2	1	0	0	0	0	0	3
	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
機械制御	0	2	1	1	0	0	0	4
	0.0%	50.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
建設	0	0	1	0	0	0	1	2
	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	
合計	2	3	2	1	0	0	1	9
	22.2%	33.3%	22.2%	11.1%	0.0%	0.0%	11.1%	

上段の数字は人数を示す。

決定先の業種別状況

区分	建設	食品	繊維	出版・印刷	化学	鉄鋼・金属	機械	電気機器	輸送用機器	精密機器	電力・ガス	その他製造	情報通信	運輸・通信	卸売・小売	不動産・賃貸	生活・娯楽	学術サービス	その他サービス	官公庁	合計
電気電子	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
機械制御	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	4
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	
建設	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	
合計	1	0	0	0	0	0	3	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	9
	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	22.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%	0.0%	11.1%	

上段の数字は人数を示す。

進学状況（本科）

令和3年3月31日現在

大 学 ・ 専 攻 科	機 械 工 学 科	電 気 情 報 工 学 科	電 子 制 御 工 学 科	建 設 シ ス テ ム 工 学 科	計
舞鶴工業高等専門学校専攻科	3	7	4	4	18
松江工業高等専門学校専攻科		1			1
近畿大学工業高等専門学校専攻科		1			1
北海道大学			1		1
長岡技術科学大学	1		1	2	4
金沢大学	1				1
福井大学			1		1
千葉大学				1	1
山梨大学		1			1
豊橋技術科学大学	3	1	4	2	10
岐阜大学	1	1		1	3
京都工芸繊維大学	1	1	1	1	4
神戸大学		1			1
岡山大学			1		1
愛媛大学		1			1
滋賀県立大学				1	1
立命館大学				1	1
計	10	15	13	13	51

進学状況（専攻科）

令和3年3月31日現在

大 学 院	ES	MS	CA	計
筑波大学大学院	1			1
大阪大学大学院			1	1
奈良先端科学技術大学院大学	3			3
神戸大学大学院	1			1
和歌山大学大学院			1	1
計	5	0	2	7

ES:電気電子システム工学コース、MS:機械制御システム工学コース、CA:建設工学コース

進路先一覧（本科）

令和3年3月31日現在

科	進路先	人数	科	進路先	人数	科	進路先	人数
機械工学科	IDEC（株）	1	電気情報工学科	（株）FIXER	1	電子制御工学科	長岡技術科学大学	1
	旭化成（株）	1		本田技研工業（株）	1		福井大学	1
	大阪シーリング印刷（株）	1		三菱電機（株）伊丹製作所	1		豊橋技術科学大学	4
	サントリーホールディングス（株）	1		三菱電機（株）姫路製作所	1		京都工芸繊維大学	1
	（株）シーアールイー	1		舞鶴工業高等専門学校専攻科	7		岡山大学	1
	東海旅客鉄道（株）	1		松江工業高等専門学校専攻科	1	小計		34
	（株）日産オートモーティブテクノロジー	1		近畿大学工業高等専門学校専攻科	1	建設システマ工学科	（株）IHIインフラ建設	1
	パナソニック（株）ライフソリューションズ社栗東工	1		山梨大学	1		（株）一条工務店	1
	日立造船（株）	1		豊橋技術科学大学	1		エヌ・ティ・ティ・インフラネット（株）	1
	ファナック（株）	1		岐阜大学	1		（株）大林組	1
	三菱電機ビルテクノサービス（株）	1		京都工芸繊維大学	1		（株）長村組	1
	三菱パワー（株）	1		神戸大学	1		亀岡市	1
	村田機械（株）	1		愛媛大学	1		関西電力（株）	1
	ヤンマーホールディングス（株）	1		HAL大阪（専門学校）	1		（株）駒井ハルテック	1
	理研ビタミン（株）	1	小計		36		（株）CTIウイング	1
	舞鶴工業高等専門学校専攻科	3	電子制御工学科	（株）NHKテクノロジー	1		J R 西日本不動産開発（株）	1
	長岡技術科学大学	1		オプテックス・エフエー（株）	1		住友不動産（株）	1
	金沢大学	1		関西電子ビーム（株）	1		大和ハウス工業（株）	1
	豊橋技術科学大学	3		（株）カンセツ	1		（株）竹中工務店	1
	岐阜大学	1		京セラ（株）鹿児島国分工場	1		（独）鉄道建設・運輸施設整備支援機構	1
	京都工芸繊維大学	1		（株）京都製作所	1		野村不動産パートナーズ（株）	1
	小計	25		（株）ジェイテクト	1		阪急阪神不動産（株）	1
電気情報工学科	アイテック阪急阪神（株）	1		（株）JALエンジニアリング	1		阪神高速技術（株）	1
	（株）インダ	1		ダイキン工業（株）	1		東日本旅客鉄道（株）	1
	NTTコムソリューションズ	1		大東精機（株）	1		（株）ひかり塗装	1
	NTTコムウェア（株）	1		ダイハツ工業（株）	1		宮津市	1
	（株）エヌ・ティ・ティ・ネオメイト	1		（株）タカラトミーアーツ	1		（株）URリンケージ	1
	（株）NTTフィールドテクノ	1		DMG森精機（株）	1		吉村建設工業（株）	1
	大阪ガス（株）	1		西日本旅客鉄道（株）	1		舞鶴工業高等専門学校専攻科	4
	オムロン（株）	1		日本原子力発電（株）	1		長岡技術科学大学	2
	関西電力（株）	1		パナソニック（株）US社	1		千葉大学	1
	キャノンメディカルシステムズ（株）	1		（株）ビーネックスソリューションズ	1		豊橋技術科学大学	2
	グローリー（株）	1		富士電機（株）	1		岐阜大学	1
	サンテック（株）豊岡工場	1		富士フイルムメディカル（株）	1		京都工芸繊維大学	1
	西日本旅客鉄道（株）	1		三菱電機システムサービス（株）	1		滋賀県立大学	1
	パナソニック（株）アプライアンス社	1		メタウォーター（株）	1		立命館大学	1
	日立造船（株）	1		舞鶴工業高等専門学校専攻科	4	小計		35
	（株）日立ビルシステム	1		北海道大学	1	合計		130

進路先一覧（専攻科）

令和3年3月31日現在

令和5年5月31日現在

コース	進路先	人数	コース	進路先	人数
電気電子システム工学コース	アイテック阪急阪神(株)	1	建設工学コース	(株)関西工務店	1
	朝日レントゲン工業(株)	1		兵庫県	1
	サンエー電機(株)	1		大阪大学大学院	1
	筑波大学大学院	1		和歌山大学大学院	1
	奈良先端科学技術大学院大学	3		小計	4
	神戸大学大学院	1	合計		16
	小計	8			
機械制御システム工学コース	(株)小松製作所大阪工場	2			
	神鋼テクノ(株)	1			
	パナソニック(株)アプライアンス社	1			
	小計	4			

卒業研究題目

学科	題 目	指導教員
機 械 工 学 科	ジャミング転移を利用したソフトグリップの基礎研究	西山 等
	3次元2足受動歩行機の設計・製作と動作解析	
	つる巻二重らせん構造物と弾性管を付加したハイブリッド型エアリフトポンプの性能評価	
	カエデの種を模擬した風力発電装置の基礎研究	
	自己融着による炭素繊維強化熱可塑性樹脂複合材料の接合について	篠原 正浩
	局所加熱を利用した炭素繊維強化熱可塑性樹脂複合材料の曲げ加工	
	電気自動車の設計製作	谷川 博哉
	低レイノルズ数域での翼の数値シミュレーション	
	新型風レンズの設計開発	
	旋盤を用いたホーニング砥石の摩擦摩耗試験 ―試験機の製作―	山田耕一郎
	汎用スターリングエンジンキットを模した設計製作	
	産業用モノレールの半自動ポイント切り替え装置の開発	室巻 孝郎
	展示用メカトロ装置の設計・製作	
	起立補助椅子のデザインに関する研究	
	生産ラインにおける箱詰め作業の自動化についての設計開発	
	低融点金属の濡れ性評価と実験装置の製作	小林 洋平
	液体金属の濡れ性の評価～低融点金属を用いた動的濡れ性評価試験～	
	マイクロチューブ内圧縮性流れの管摩擦係数測定に関する研究	村上信太郎
	マイクロ流路を有する伝熱プレートの加工方法に関する研究	
	多孔質真空チャックの流動特性・把持力に関する研究	
電 気 情 報 工 学 科	MPPTにおけるチョッパ回路の高速化	中川 重康
	屋外計測における発電特性の評価	
	液晶シャッタによる日射変動再現装置の開発	
	太陽光による傾斜面日射量屋外再現モデルの提案	
	物体検出システムのサラウンド音声への改良	片山 英昭
	歩行者用信号機の識別システムの開発	
	Raspberry Pi を用いた物体検出システムの小型化	
	LBP 値の特徴比較を用いた不良品判別システムの開発	
	遠隔地教育における簡易測定器の利用の検討	内海 淳志
	シリコン酸化膜の膜厚測定に関する基礎的検討	
	自然環境モニタリングのための Bluetooth Low Energy を用いた通知対象セグメンテーション	
	面接練習のための視線補正アプリの開発	
	GAN による 3D モデル生成に向けた 3次元 U-Net 生成器の学習	芦澤 恵太
	視覚誘導性自己運動感覚の客観的評価指標の提案に向けて	
	デジタル画像の統計的性質について	

学科	題 目	指導教員
電気情報工学 学科	3D プリンタを用いたコロナ対策用器具の設計・製作	船木 英岳
	3D プリンタを用いた自助具の製作	
	視線入力を用いたイラスト作成ツールの開発	
	生体情報を用いた健康管理システムの開発	丹下 裕
	MADOCa 補正情報を用いた GNSS 精密単独測位の精度評価	
	視覚障害者向け教材の触感再現に関する研究	
	インターフェースの学習内容を利用した炊飯器教材の製作	
	視覚障害者のためのスマート触地図システムの開発	
	バイクの排熱による温度差発電装置の開発	井上 泰仁
	あえて負けに動くオセロ AI の開発	
	シグナルペプチドを有する膜タンパク質ドメインの解析	
	ヒト由来の膜貫通タンパク質のドメイン解析	
	温度差発電装置の開発	
	GROMACS を用いたポリ乳酸の分子動力学計算	廣芝 伸哉
	フレキシブル基板の表面処理と印刷プロセスによる電極形成	
	溶液プロセスによる圧電ポリマー薄膜作製法の検討	
	高周波電流センシング用ロコスキーコイルの製作	七森 公碩
	マイクロインバータの小型化に関する回路検討	
	ワイヤレス給電回路の高効率化とロバスト性の向上	
	速度センサレス制御による教育用ロボットの小型化	
	GaN HEMT の誤点弧ロック現象に関する研究	
電子制御 工学 学科	トライボロジー実験教材の開発 ー傾斜法による摩擦試験の統計的検討ー	野間 正泰
	トライボロジー実験教材の開発 ー1 軸ステージによる摩擦試験ー	
	簡易風洞装置の改良とコロナ下での出前授業への適用	
	移動物体まわりの流れの可視化実験と理科教育への適用	
	低コストな教育用コンピュータシステムの開発	仲川 力
	レーザーを用いた簡易基板加工システムの開発	
	HMD を用いた建設機械シミュレータの開発	
	機械学習を用いた害虫駆除システムの開発	
	ROS を用いた移動ロボットシステムによる実践的教育コンテンツの開発	伊藤 稔
	移動ロボットにおける ROS の活用	
	ResNet を用いた顔認識システムの開発	
	粒子群最適化の性能改善に関する研究	
	超音波振動液滴室温ナノインプリントによる DLC マイクロギヤの作製	清原 修二
	ナノインプリントを用いた小・中学生向けナノテク教育	
	超音波振動液滴室温ナノインプリントのスループット向上と DLC ドットアレイの作製	
	超音波液滴室温ナノインプリント用 PDMS モールドの寿命・耐久性検証	

学科	題 目	指導教員
電子制御工学	酸化物を用いた抵抗変化素子の電気的特性に対する電極材料の効果	西 佑介
	Pt/TaO _x /Ta ₂ O ₅ /Pt 素子におけるアナログ抵抗変化特性の理論解析	
	絶縁破壊との類似性に着目したフォーミング機構の解明	
	固体飛跡検出器のエッチング液改良等が実験時間に与える影響の評価	石川 一平
	重合禁止剤が PADC プラスチックに与える影響の評価	
	無機 EL デバイス作製実験の教育コンテンツの開発	
	ゲーム要素を取り入れた PLC シーケンス制御教材の製作	
	人工筋肉の収縮量制御	高木 太郎
	人工筋肉型パワーアシストスーツの設計製作	
	持ち上げ動作とモータの同期制御に関する研究	
	モータ型パワーアシストスーツの設計	
	可動型ハンドルを有するパワーアシストカートの旋回運動に関する研究	若林 勇太
	Cardboard Robot Hand: ロボットハンドと倍力機構に関する研究	
	電動台車操作時における姿勢計測と操作性の評価	
	顔検出技術を用いたヒューマンエラー発生予測の検討	
	小型クアッドロータを用いた教育用教材の開発	藤司 純一
	小型クアッドロータの姿勢制御に関する研究	
	小型クアッドロータを用いた古典制御工学実験教材の開発	
	小型クアッドロータを用いた現代制御工学実験教材の開発	
建設システム工学	ルワンダ国のエネルギーの現状と課題	四蔵 茂雄
	トランスログモデルによるバイオマスエネルギー消費分析	
	EU の電力グリッドが再生可能エネルギー普及に及ぼす影響について	
	日本の電力の将来 ― 国民が考える望ましい電源構成 ―	
	固有値解析による淀川大橋振動計測の補完に関する研究	玉田 和也
	間人大橋のケーブルに関する健全度診断	
	刎橋の力学模型と構造解析 ― 歴史的橋梁形式の解明 ―	
	インハウス AI エンジニア育成のための教材開発 ― 土木・建築分野に向けて ―	
	新田辺駅東地区キララ商店街における駅前コミュニティ空間の提案	尾上 亮介
	中山道守山宿における児童施設の提案	
	こどもテリトリーからこどもパブリック ― 舞鶴八島公園の整備提案 ―	
	継承を生む器 ― 明延鉦山 北星社宅の二拠点居住化 ―	
	防災士を対象とした風水害に対する防災教育教材の開発	加登 文学
	琵琶湖西岸断層帯の地震活動と強震動予測	
	塑性限界試験の力学的考察と新たな試験方法の提案	
	舞鶴市の管理する都市公園の防災機能評価	

学科	題 目	指導教員
建設システム工学科	舞鶴市高野川の3次元洪水シミュレーションに関する研究 ーRiverFlow2Dの適用についてー	加登 文学 上野 卓也
	視覚情報の有無が音の大きさ感に与える影響	徳永 泰伸
	音楽空間の光・色彩環境と聴感印象の関係	
	照明条件が内装材の見え方に与える影響	
	座席位置に起因する視覚情報の違いが聴感印象に与える影響	
	近代組積造建築物の構造特性に関する研究 ー舞鶴赤れんが倉庫7号棟における木部架構の構面単位の構造解析ー	渡部 昌弘
	近代産業遺構の保存・再生に関する研究 ー旧海軍第三火薬廠乾燥谷爆薬乾燥場を対象としてー	
	中世木造寺院の構造特性に関する研究 ー中山寺本堂の構造解析ー	
	木造三重塔の構造特性に関する研究 ー金剛院三重塔の構造解析ー	
	あと施工アンカーを介して接続された新旧部材取合部における耐久性評価	毛利 聡
	コンクリートと建築部材との接着耐久性促進劣化手法の検討	
	左官動作解析手法の開発における模擬モルタルの改良	
	旧日本海軍のコンクリート技術の再現	
	空間のあらわれを試行する教材開発 ーソウノハコー	今村友里子
	現代的な茶室に関する研究 ー「茶室性」を有する空間制作を通してー	
	舞鶴市朝来地区における景観に関する研究 ー舞鶴海軍第三火薬廠建設に伴う景観の変化ー	
	沖種郎の建築思想の展開	
	水月湖年縞による降水量の長期変動に関する考察	上野 卓也
	RTK ドローン測量による微地形を考慮した河道地形モデルの解析	
	高精度地形モデルによる志楽川河口部の氾濫解析	

専攻科特別研究題目(第2学年)

専攻：総合システム工学専攻

コース	題 目	指導教員
電気電子システム工学コース	放射線プラスチック検出器のエッチング工程における危険性の低減の検討	石川 一平 清原 修二
	アダマール変換と勾配予測による画像信号圧縮	芦澤 恵太 片山 英昭
	人転倒防止システムのための足関節角度に基づくつまずきの検出	丹下 裕 片山 英昭 船木 英岳
	リアル人体モデルを用いたがん温熱治療用空洞共振器の電磁界解析	丹下 裕 片山 英昭 船木 英岳
	適応走査を用いた新たな画像圧縮手法の提案	芦澤 恵太 片山 英昭
	ガリウム合金を用いたショットキーバリアダイオードの開発	内海 淳志 石川 一平
	ARtoolkit による漢字・単語学習ソフトウェアの改良	船木 英岳 芦澤 恵太
	太陽電池屋外高精度評価可能な日射条件の検討	中川 重康 内海 淳志
機械制御システム工学コース	車輪型自動搬送システムの機構と制御	室巻 孝郎 若林 勇太
	離散特異点法を用いたラグランジアンカオスの数値解析	谷川 博哉 村上信太郎
	長楕円体まわりの飽和膜沸騰熱伝達の実験	谷川 博哉 豊田 香
	Cardboard Robot に関する研究	室巻 孝郎 若林 勇太
建設工学コース	建築雑誌を用いた改修家屋の分類に関する研究 その2 ～建物規模と上下階面積における改修傾向に関して～	尾上 亮介 渡部 昌弘
	木造建築の接合部に用いる合成繊維補強に関する研究 一部材内に接着面をもつ接合部を想定した引張強度の評価について	渡部 昌弘 尾上 亮介
	地域防災力の向上を目的とした洪水解析シミュレーション	加登 文学 上野 卓也
	修繕工事を行う橋梁の状態変化の検証に関する研究	玉田 和也 毛利 聡

インターンシップ受入先

学科	受 入 先	人数	学科	受 入 先	人数
機械工学科	(株) イシダ	1	電子制御工学科	オムロン (株)	1
	オムロン (株)	2		関西電力 (株)	1
	(株) クボタ	1		(株) クリエイティブキャスト	1
	(株) 小松製作所	1		三精テクノロジーズ (株)	1
	サントリーホールディング (株)	1		(株) 資生堂	1
	J X T G エネルギー (株)	1		神鋼テクノ (株)	1
	(株) 椿本チエイン	1		DMG 森精機 (株)	1
	日本血液製剤機構	1		パナソニック (株) アプライアンス社	1
	二九精密機械工業 (株)	1		パナソニック (株) オートモーティブ社	1
	マルホ発條工業 (株)	1		(株) バンダイ	1
	小 計	11		ファナック (株)	1
電気情報工学科	アークレイ (株)	1		三菱重工業 (株)	1
	(株) N T T フィールドテクノ	1		村田機械 (株)	1
	大阪ガス (株)	1		(株) メンバーズ	1
	キヤノンメディカルシステムズ (株)	1		陸上自衛隊	1
	(株) クボタ	1		小 計	15
	(株) 小松製作所	1	建設システム工学科	小野田ケミコ (株)	1
	(株) ジーエス・ユアサ コーポレーション	1		関西電力 (株)	1
	住友電工 (株)	1		(株) 鴻池組	2
	東海旅客鉄道 (株)	1		住友不動産 (株)	1
	日新電機 (株)	1		大和リース (株)	1
	パナソニック (株) アプライアンス社	1		(株) 竹中土木	1
	フェンリル (株)	1		帝人エコ・サイエンス (株)	1
	富士電機 (株)	1		メタウォーター (株)	1
	富士フイルム (株)	1		淀川河川工事事務所	1
	ホソカワミクロン (株)	1		小 計	10
	村田機械 (株)	1		合 計	53
	(株) 村田製作所	1			
	小 計	17			

課外活動成績

《体育系》

第11回男子西日本女子全日本高等専門学校バスケットボール大会

女子 3位

令和2年度全日本バレーボール高等学校選手権大会両丹予選会

男子 ベスト6 (ウイングスパイカー)
今江志隆

令和2年舞鶴卓球選手権大会

一般女子シングルスA級 3位 大藤文佳
安田聡子

令和2年度両丹高等学校柔道個人選手権大会

男子無段の部 3位 山内誠斗

令和2年度京都府高等学校柔道選手権大会両丹予選

男子60kg級 3位 吉岡 晨

第53回全国高等専門学校サッカー選手権大会近畿地区予選

優秀選手賞 中 悠斗
梅宮丈瑠

令和2年度舞鶴市テニス協会ダブルス練習会

一般男子ダブルスAクラス 準優勝
松村友人・竹内京平
一般男子ダブルスBクラス 準優勝
足立将昌・勝川琳平

《文化系》

第2級アマチュア無線技士国家試験合格

柳原莉碧

Yahoo! JAPAN Hack Day 2021 Online

JCV 賞 なんかいける気がする
(大森崇志・中島滉太・松本壮太)
「顔文字アバタープラグイン
ビデオチャットが顔文字にハックされた」

第33回アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2020近畿地区大会

特別賞 (セメダイン株式会社)
舞鶴高専Cチーム「emPeror」

第17回全国高等専門学校デザインコンペティション2020

空間デザイン部門全国大会出場 田中大智

第八管区海上保安本部 海の安全推進部

感謝状 HANDMADE部

課外活動に対する教員の活動状況

藤田 憲司

第14回全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト，実行委員，2020年4月～2021年3月

平尾 恵美

第14回近畿地区高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト，主幹校実行委員，2020年4月～2021年3月

奥村 昌司

舞鶴市吹奏楽連盟，理事，2020年4月～2021年3月

近畿地区高等専門学校吹奏楽合同演奏会理事会，理事，2020年4月～2021年3月

上杉 智子

近畿地区高等専門学校吹奏楽合同演奏会理事会，理事，2020年4月～2021年3月

木村 健二

一般社団法人全国高等専門学校サッカー連盟，審判委員，2020年4月～2021年3月

令和2年度近畿地区高等専門学校体育連盟，サッカー専門員，2020年4月～2021年3月

令和2年度全国高等専門学校体育大会競技運営専門委員会，近畿地区委員，2020年4月～2021年3月

西山 等

近畿地区高等専門学校吹奏楽合同演奏会理事会，理事，2020年4月～2021年3月

舞鶴市吹奏楽連盟，理事，2020年4月～2021年3月

山田 耕一郎

両丹高体連バスケットボール専門部，記録委員長，2020年4月～2021年3月

片山 英昭

全国高等専門学校プログラミングコンテスト実行委員会，ブロック委員，2020年4月～2020年10月

芦澤 恵太

京都府高等学校野球連盟，理事，2019年4月～2020年3月

船木 英岳

舞鶴市テニス協会，理事，2020年4月～2021年3月

井上 泰仁

全国高等専門学校プログラミングコンテスト実行委員，部門別専門委員，2020年4月1日～2021年3月31日

若林 勇太

両丹バスケットボール専門部，記録委員，2020年4月～2021年3月

玉田 和也

全国高等専門学校デザインコンペティション実行委員会，専門部会専門委員

加登 文学

舞鶴卓球協会，理事，2020年4月～2021年3月

研 究 活 動

研究業績	1 1 7
校長	1 1 7
人文科学部門	1 1 8
自然科学部門	1 2 0
機械工学科	1 2 3
電気情報工学科	1 2 5
電子制御工学科	1 2 7
建設システム工学科	1 3 0
学位取得状況	1 3 2
研究成果発表状況	1 3 2
外部研究費受入	1 3 3
科学研究費補助金	1 3 3
受託研究，共同研究	1 3 4
寄附金	1 3 5
学協会委員及び学会・研究会等の開催協力	1 3 8

(注) 研究成果発表の分類については，以下のとおりとする。

1. 著書
2. 解説
3. 査読付論文
4. 国際会議
5. 学会発表
6. 特許
7. その他

校 長

内海 康雄

その他

舞鶴工業高等専門学校紀要，IT プラットフォームの構築プロジェクト AMATERAS (Advanced Massive Architecture of Technology, Education and Research Accelerating System)，内海康雄・鈴木直康・仲川力・井上卓・福野泰介，第 56 号，2021 年 2 月

舞鶴工業高等専門学校紀要，北近畿地域の振興と舞鶴高専の役割について，内海康雄・上野卓也・玉田和也・加登文学・高橋正憲・歳弘浩三，第 56 号，2021 年 2 月

口頭発表(WEB)，沿岸漁業における漁師知見の可視化について，マリン IT ワークショップ 2021 みえ，主催 公立はこだて未来大学マリン IT・ラボ，2021 年 3 月

人文科学部門

児玉 圭司

解説

近代日本の自由刑における刑種の変遷——国事犯への定役をめぐる議論を中心に, 児玉圭司, 法律時報, pp. 15-20, 2021年3月

その他

初代司法卿・江藤新平とその業績, 児玉圭司, 人権のひろば, 137号, pp. 23-26, 2021年1月

明治監獄制度史研究と警察関係史料—新出の『警察監獄学校設立始末』について—, 児玉圭司, 大警視だより, 40号, pp. 17-18, 2021年1月

藤田 憲司

その他

真理を生産するフィクション—レノックス『女キホーテ』におけるロマンス対小説論争, 藤田憲司, 日本ジョンソン協会年報, No. 44, pp. 43-44, 2020年7月

牧野 雅司

その他

第三海軍火薬廠砲炸薬成形工場跡の遺物調査(その1), 牧野雅司, 毛利聡, 松本和也, 林田海翔, 井上忍, 高原岳歩, 古久保惇, 舞鶴工業高等専門学校紀要, 第56号, pp. 47-57, 2021年3月

荻田 みどり

その他

浦島伝説の系譜を比較する古典授業——対面授業と遠隔授業の実践を通して——, 荻田みどり, 舞鶴工業高等専門学校紀要, 第56号, pp. 46-36, 2021年3月

『河海抄』『花鳥余情』における「食」表現, 荻田みどり, 寝覚物語研究会会報, 第1号, pp. 15-25, 2021年3月

山根 秀介

その他

シャルル・ルヌヴィエの反カント主義とウィリアム・ジェイムズ, 山根秀介, 『フランス哲学・思想研究』, 第25号, pp. 14-26, 2020年9月

書評: 沖永宜司『始原と根拠の形而上学』北樹出版, 二〇一九年, 山根秀介, 『宗教哲学研究』, 第38号, pp. 112-115, 2021年3月

平尾 恵美

その他

insubordinationと慣習性：感情表出機能を持つthat節の場合，平尾恵美，日本語用論学会第22回大会発表論文集，第15号，pp. 121-128，2020年6月

自然科学部門

奥村 昌司

著書

詳解と演習：大学編入試験問題：数学, 河東泰之 佐々木良勝 鈴木香織 竹縄知之 他 10 名, pp. 17-32, 数理工学社, 2020 年 5 月

上杉 智子

学会発表

第 51 回国際物理オリンピック 2020 に向けての研修報告, 中屋敷勉, 東辻浩, 栗原進, 上杉智子, 大原仁, 岡部豊, 興治文子, 金子朋史, 杉山忠男, 田中忠芳, 波田野彰, 吉岡大二郎, 松本益明, 真梶克彦, 安藤静敏, 毛塚博史, 近藤泰洋, 呉屋博, 佐藤誠, 鈴木功, 並木雅俊, 長谷川修司, 高橋拓豊, 福澤昂汰, 吉田智治, 小宮山智浩, 中江優介, 渡辺明大, 石井敬直, 氏野道統, 大倉拓真, 岸本竜太, 喜田輪, 永濱壮真, 西幸太郎, 松下謙太郎, 吉見光祐, 北原和夫, 日本物理学会 2020 年秋季大会, 2020 年 9 月 11 日

第 51 回国際物理オリンピック (IPhO) 2020 および第 4 回ヨーロッパ物理オリンピック (EuPhO) 2020 に向けた研修報告, 松本益明, 中屋敷勉, 東辻浩夫, 栗原進, 上杉智子, 大原仁, 岡部豊, 興治文子, 金子朋史, 杉山忠男, 田中忠芳, 波田野彰, 吉岡大二郎, 真梶克彦, 安藤静敏, 毛塚博史, 近藤泰洋, 呉屋博, 佐藤誠, 鈴木功, 並木雅俊, 長谷川修司, 高橋拓豊, 福澤昂汰, 吉田智治, 小宮山智浩, 中江優介, 渡辺明大, 石井敬直, 氏野道統, 大倉拓真, 岸本竜太, 喜田輪, 永濱壮真, 西幸太郎, 松下謙太郎, 吉見光祐, 北原和夫, 第 81 回応用物理学会秋季学術講演会, 2020 年 9 月 10 日

その他

舞鶴高専におけるジュニアドクター育成塾による次世代人材育成の取組, 令和 2 年度 KOSEN フォーラム ポスターセッション P-24, 上杉智子, 2021 年 3 月 4 日

高専は科学人材育成ににどう貢献するか? —舞鶴高専での取り組み—, 令和 2 年度 KOSEN フォーラム OS-51 「高専物理教育の新展開の具体化」, 上杉智子, 2021 年 3 月 3 日

宝利 剛

査読付論文

The First Order Symmetry Operator on Gravitational Perturbations in the 5-dimensional Myers-Perry Spacetime with Equal Angular Momenta, Masataka Tsuchiya, Tsuyoshi Houri, Chul-Moon Yoo, Progress of Theoretical and Experimental Physics, Volume 2021, Issue 3, 033E01, March 2021

国際会議

Hidden symmetry and the separability of the Maxwell equation on the Wahlquist spacetime, Tsuyoshi Houri, online JGRG workshop 2020, November 23, 2020

小島 広孝**査読付論文**

Combining photosynthesis and photovoltaics: a hybrid energy harvesting system using optical antennas, A. Tamang, R. Parsons, C. Lertchaiwarakul, U. Palanchoke, H. Kojima, A. Salleo, M. Nakamura, and D. Knipp, ACS Appl. Mater. Interfaces 12, 40261-40268 (2020)

Enhancement of short-range ordering of low-bandgap donor-acceptor conjugated polymer in polymer/polymer blend films, A. T. Hidayat, H. Benten, N. Ohta, Y. Na, A. Muraoka, H. Kojima, M.-C. Jung, and M. Nakamura, Macromolecules 53, 6630-6639 (2020)

学会発表

π 共役曲面をもつジベンゾクリセンにおける巨大ゼーベック効果, 川内暁貴, 小嶋晃平, 阿部竜, 小島広孝, 辨天宏明, 辻 勇人, 大井綾子, 山岸正和, 中村雅一, 第 81 回応用物理学会秋季学術講演会, オンライン開催, 8p-Z13-16, 2020 年 9 月 8 日

光照射型電流計測 AFM で明らかにする高分子/高分子ブレンド薄膜太陽電池の局所光電変換特性, 山形侑嗣, Anjar Taufik Hidayat, 小島広孝, 中村雅一, 辨天宏明, 第 66 回高分子研究発表会, 兵庫県民会館 (兵庫県神戸市), D-13, 2020 年 7 月 10 日

電流計測 AFM で明らかにする n 型共役高分子薄膜の局所電子輸送特性, 辨天宏明, Anjar Taufik Hidayat, 小島広孝, 鄭敏喆, 中村雅一, 第 69 回高分子学会年次大会, 福岡国際会議場 (福岡県福岡市), 2Pd074, 2020 年 5 月 28 日

共役高分子ブレンド薄膜における高分子鎖の構造秩序化, Na Yunju, Anjar Taufik Hidayat, 太田昇, 小島広孝, 鄭敏喆, 中村雅一, 辨天宏明, 第 69 回高分子学会年次大会, 福岡国際会議場 (福岡県福岡市), 2Pc073, 2020 年 5 月 28 日

光照射型電流計測 AFM で明らかにする高分子薄膜太陽電池の局所光電変換機能, 山形侑嗣, Anjar Taufik Hidayat, 小島広孝, Jung Min-Cherl, 中村雅一, 辨天宏明, 第 69 回高分子学会年次大会, 福岡国際会議場 (福岡県福岡市), 2Pc075, 2020 年 5 月 28 日

高分子ブレンド薄膜太陽電池における電荷再結合と曲線因子, 佐藤諒, 久保田翔太, 小島広孝, Jung Min-Cherl, 中村雅一, 辨天宏明, 第 69 回高分子学会年次大会, 福岡国際会議場 (福岡県福岡市), 2Pc079, 2020 年 5 月 28 日

熊谷 大雅**査読付論文**

An asymptotic analysis for Hamilton-Jacobi equations with large Hamiltonian drift terms, Taiga Kumagai, Advances in Calculus of Variations, 14 巻 1 号, pp.63-81, 2021 年 1 月

学会発表

An averaging result for a class of Hamilton-Jacobi equations, 熊谷大雅, 京都大学 NLPDE セミナー, 2020 年 7 月

Averaging of Hamilton-Jacobi equations with large Hamiltonian drift terms, 熊谷大雅, Elliptic and Parabolic Zoom Seminar, 2020 年 11 月

Averaging of Hamilton-Jacobi equations over Hamiltonian flows, 熊谷大雅, 高専間ネットワークによる微分方程式研究会, 2021 年 3 月

機械工学科

谷川 博哉

査読付論文

Hydrogen Production From Petroleum Hydrocarbons, Toshio Shinoki, Masaaki Kamizono, Koshi Katagiri, Masaki Kusumi, Yasuyoshi Takeda, Hirochika Tanigawa, Katsuya Hirata, Journal of Electrochemical Energy Conversion and Storage Vol. 18, 011013-1- 011013-8, 2021年2月

その他

回転しながら飛行する中空円筒について, 平田勝哉, 貴田洋輔, 中井俊宏, 内藤悠介, 谷川博哉, 中野政身, 野口尚史, 同志社大学ハリス理化学研究報告, 第61巻 第3号, pp. 165-175, 2020年10月

豊田 香

査読付論文

マイクロチャンネル熱交換器流路系の気体流れの圧力損失予測に関する研究, 村上信太郎, 豊田香, 浅古豊, 日本機械学会論文集, 86巻 (2020) 884 号, pp. 20-00022, 2020年4月

小林 洋平

査読付論文

液体ナトリウム及び液体錫による純金属の濡れ性, 斉藤淳一, 小林洋平, 澁谷秀雄, 日本金属学会誌, Vol. 85, No. 3, pp. 110-119, 2021年2月

室巻 孝郎

学会発表

SDGsのための工学および工学教育に関する研究調査(第2報:学生から見たSDGsと工学の関係性, 須田敦, 室巻孝郎, 日本設計工学会2020年度秋季研究発表講演会, pp. 83-84, 2020年10月

3次元照明システムの点灯パターン制御, 室巻孝郎, 南裕樹, システム・情報部門学術講演会2020 (SSI2020), pp. 568-569, 2020年11月

SDGsのための工学および工学教育(企業技術者と学生の合同ワークショップおよび意識調査), 須田敦, 室巻孝郎, 第21回システムインテグレーション部門講演会(SI2020), pp. 2390-2392, 2020年12月

脚型ロボットの蹴り出し動作の生成, 中村成志, 室巻孝郎, 浦久保孝光, 日本設計工学会関西支部2020年度研究発表講演会, pp. 37-40, 2021年3月

空間内の照明の点灯パターン制御, 谷仁裕, 室巻孝郎, 南裕樹, 日本設計工学会関西支部2020年度研究発表講演会, pp. 47-50, 2021年3月

作業用モノレール分岐器の自動化, 大崎淳矢, 須田敦, 室巻孝郎, 日本設計工学会関西支部2020年度研究発表講演会, pp. 53-55, 2021年3月

その他

計算モデルを利用した3次元照明システムのON/OFFパターン制御，室巻孝郎，南裕樹，舞鶴高専紀要56号，pp. 23-27，2021年3月

村上 信太郎

査読付論文

マイクロチャンネル熱交換器流路系の気体流れの圧力損失予測に関する研究，村上信太郎，豊田香，浅古豊，日本機械学会論文集，Vol. 86，No. 884，DOI:10.1299/transjsme.20-00022，2020年4月

山本 昌平

査読付論文

Three-dimensional Thermal Network Analysis of Multi-stage Heat Sink with Water-mist Injection Applied to Thermal Management of Electric Aircraft, A. Kamiyama, A. Murata, S. Yamamoto, K. Iwamoto and Y. Okita, International Journal of Gas Turbine, Propulsion and Power Systems, Vol.11, No. 4, pp. 45-49, Oct. 2020

学会発表

ガスタービン翼後縁部脈動フィルム冷却流の多段面3成分PTV計測による位相平均統計量，早川千紘，村田章，於保克，山本昌平，岩本薫，第57回伝熱シンポジウム講演論文集，pp. 1，2020年6月

電気情報工学科

中川 重康

学会発表

Study on MPPT Simulation Based on High-Speed I-V Measurement, 第3ブロック専攻科学研究フォーラム, Kazuyo Onishi, Shigeyasu Nakagawa, Atsushi Utsumi, Kimihiro Nanamori, Kenta Yamamoto, 第3ブロック専攻科学研究フォーラム, 2021年3月

高速計測 I-V 特性に基づく MPPT 更新間隔の検討, 大西一誉, 中川重康, 山本謙太(京都大学), 令和3年電気学会全国大会講演論文集, WEB32-A2_7-018, 2021年3月

内海 淳志

学会発表

ガリウム合金を用いたショットキーバリアダイオードの開発, 萩原隆仁, 内田竣也, 内海淳志, 第68回応用物理学会春季学術講演予稿集, 2021年3月

液体金属を用いたショットキーバリアダイオード作製実験の実施, 内田竣也, 萩原隆仁, 内海淳志, 第68回応用物理学会春季学術講演予稿集, 2021年3月

船木 英岳

学会発表

特別支援学校教員を対象とした高専のモノづくり教育を通じた教育の実践と教育効果, 船木英岳, 丹下裕, 福井繁雄, 畑亮次, 井谷武史, 金森克浩, 第45回教育システム情報学会全国大会講演会論文集, pp. 229-230, 2020年9月

特別支援学校教員を対象としたスイッチ教材のIoT化を目指したプログラミング教育, 船木英岳, 丹下裕, 福井繁雄, 畑亮次, 井谷武史, 土出隆之, 金森克浩, 第45回教育システム情報学会全国大会講演会論文集, pp. 315-316, 2020年9月

舞鶴高専と地域の特別支援学校との連携, 船木英岳, 丹下裕, オンラインシンポジウム「特別支援教育と3Dプリンタ」, 2021年3月

丹下 裕

学会発表

特別支援学校教員を対象とした高専のモノづくり教育を通じた教育の実践と教育効果, 船木英岳, 丹下裕, 福井繁雄, 畑亮次, 井谷武史, 金森克浩, 第45回教育システム情報学会全国大会, pp. 229-230, 2020年9月

特別支援学校教員を対象としたスイッチ教材のIoT化を目指したプログラミング教育, 船木英岳, 丹下裕, 福井繁雄, 畑亮次, 井谷武史, 土出隆之, 金森克浩, 第45回教育システム情報学会全国大会, pp. 315-316, 2020年9月

筋電位と膝関節角度を用いた人の歩行状態の事前推定, 小西智裕, 丹下裕, 木村健二, 日本福祉工学会九州支部大会 熊本 2020, pp. 36-37, 2020 年 9 月

舞鶴高専と地域の特別支援学校との連携, 船木英岳, 丹下裕, オンラインシンポジウム「特別支援教育と 3D プリンタ」, 2021 年 3 月

井上 泰仁

学会発表

井上泰仁, 香山美知代, 射場誠, 川戸慎也, 品田直毅, 京都府内の小・中学校におけるプログラミング学習の実践, 2020 年度 情報処理学会関西支部 支部大会 講演論文集, 2020, 2020 年 9 月

井上泰仁, 丸田要, 黒木祥光, 松野良信, 小嶋徹也, 小保方幸次, 寺元貴幸, リアルタイム対戦型陣取りゲーム題材としたプログラミング教材の開発と教育効果, 情報教育シンポジウム論文集, pp. 96-100, 2020 年 12 月

七森 公碩

学会発表

GaN デバイスの並列接続時における特性差の検証, 第 3 ブロック専攻科研究フォーラム, 熊谷鷹, 七森公碩, 内海淳志, 中川重康, 2021 年 3 月

近接配線によるゲート電圧保持現象の検証, 令和 3 年電気学会全国大会, 松本瀬名, 七森公碩, 2021 年 3 月

森 健太郎

査読付論文

GA-guided mD-VcMD: A genetic-algorithm-guided method for multi-dimensional virtual-system coupled molecular dynamics , Junichi Higo, Ayumi Kusaka, Kota Kasahara, Narutoshi Kamiya, Itaya Hayato, Xie Qilin, Takuya Takahashi, Ikuo Fukuda, Kentaro Mori, Yutaka Hata, Yoshifumi Fukunishi, Biophysics and Physicobiology, Vol.17, pp.161-176, 2020

Automated worker skill evaluation for improving productivity based on labeled LDA , Kentaro Mori, Hiroshi Nakajima, Yutaka Hata, International Journal of Machine Learning and Cybernetics, 2020. 11

Molecular Interaction Mechanism of a 14-3-3 Protein with a Phosphorylated Peptide Elucidated by Enhanced Conformational Sampling, Junichi Higo, Takeshi Kawabata, Ayumi Kusaka, Kota Kasahara, Narutoshi Kamiya, Ikuo Fukuda, Kentaro Mori, Yutaka Hata, Yoshifumi Fukunishi, Haruki Nakamura, Journal of Chemical Information and Modeling, Vol.60, No.10, pp.4867-4880, 2020.10

A Uterine Motion Classification in MRI Data for Female Infertility, Kentaro Mori, Yoshimitsu Tokunaga, Tetsurou Sakumoto, Akira Nakashima, Isamu Komesu, Yutaka Hata, Current Medical Imaging Formerly Current Medical Imaging Reviews, Vol.16, No.5, pp.479-490, 2020.5

電子制御工学科

清原 修二

学会発表

放射線教育プラスチック検出器のエッチング，液の改良による危険性の低減，伊藤大洋，石川一平，清原修二，日本高専学会第26回年会講演会講演論文集，pp.61-62，2020年9月5日

その他

液滴室温ナノインプリントを用いた小・中学生のためのナノテクノロジー教育，清原修二，石川一平，飯田裕樹，藤原魁人，山邊弘太，吉永修司，針谷達，滝川浩史，倉島優一，SEAJ Journal, No. 172, pp. 24-26, 2021年2月

西 佑介

査読付論文

Grain-boundary structures and their impact on the electrical properties of NiO films deposited by reactive sputtering, Tatsuya Iwata, Yusuke Nishi, Tsunenobu Kimoto, Thin Solid Films, Vol. 709, pp. 138203-1-138203-9, 2020.7

国際会議

Improvement of analog resistive switching characteristics in TaO_x-based synaptic devices through complementary resistive switching, Toshiki Miyatani, Yusuke Nishi, Tsunenobu Kimoto, Materials Research Society, Spring/Fall Meeting, 2020.11

Correlation between depth distribution of chemical compositions and resistive switching characteristics in Metal/Ta₂O₅/Pt cells, Toshiki Miyatani, Yusuke Nishi, Tsunenobu Kimoto, Materials Research Society, Spring/Fall Meeting 2020.11

Dissolution of conductive filaments by heat in NiO-based resistive switching cells, Yusuke Nishi, Tsunenobu Kimoto, Materials Research Society, Spring/Fall Meeting, 2020.11

Depth profile of chemical compositions in Ta₂O₅-based resistive switching cells, Toshiki Miyatani, Tsunenobu Kimoto, Yusuke Nishi, International Symposium on Creation of Advanced Photonic and Electronic Devices 2021, 2021.3

学会発表

Ta 酸化物中の化学組成分布と抵抗変化のアナログ制御性の相関，宮谷俊輝，西佑介，木本恒暢，第81回応用物理学会秋季学術講演会予稿集，11p-Z07-2，2020年9月

Ti/Pr_{0.7}Ca_{0.3}MnO_x/Pt 素子における酸素熱処理が抵抗変化特性に与える効果，井室充登，金上尚毅，木本恒暢，西佑介，第81回応用物理学会秋季学術講演会予稿集，11p-Z07-3，2020年9月

Mode Control of Resistive Switching Operations in Pt/TaO_x/Ta₂O₅/Pt Cells，宮谷俊輝，西佑介，木本恒暢，薄膜材料デバイス研究会第17回研究集会，5a-001，2020年11月

TiN 電極を用いた Ta₂O₅-ReRAM 素子におけるデジタルおよびアナログ抵抗変化の共存, 山田和尚, 木本恒暢, 西佑介, 電子情報通信学会技術研究報告, Vol. 120, No. 273, pp. 42-45, 2020 年 12 月

Ni/Ta₂O₅/TiN/Pt 素子におけるデジタルおよびアナログ抵抗変化, 宮谷俊輝, 山田和尚, 木本恒暢, 西佑介, 第 68 回応用物理学会春季学術講演会予稿集, 19p-Z14-15, 2021 年 3 月

その他

Pt/NiO/Pt 積層構造におけるフォーミング特性分布, 西佑介, 山中拓弥, 舞鶴工業高等専門学校紀要, No. 56, pp. 29-34, 2021 年 3 月

石川 一平

著書

やさしくわかるシーケンス制御, 南裕樹, 石川一平, pp. 1-157, オーム社, 2020 年 6 月

学会発表

放射線教育プラスチック検出器のエッチング液の改良による危険性の低減, 伊藤大洋, 石川一平, 清原修二, 日本高専学会第 26 回年会講演会講演論文集, pp. 61-62, 2020 年 9 月

その他

液滴室温ナノインプリントを用いた小・中学生のためのナノテクノロジー教育, 清原修二, 石川一平, 飯田裕樹, 藤原魁人, 山邊弘太, 吉永修司, 針谷達, 滝川浩史, 倉島優一, SEAJ Journal, No. 172, pp. 24-26, 2021 年 2 月

高木 太郎

査読付論文

Null-space-based steady-state tracking error compensation of simple adaptive control with parallel feedforward compensator and its application to rotation control, T. Sato, K. Fujita, N. Kawaguchi, T. Takagi, I. Mizumoto, Control Engineering Practice, Vol. 105, pp. 104651-104651, 2020 年 12 月

若林 勇太

学会発表

コンビニエンスストアにおける陳列・廃棄自動化システムに関する研究 - 第 1 報: 舞鶴高専での PBL 教育と移動ロボットプラットフォームのコンセプト -, 浦崎健人, 若林勇太, ロボティクス・メカトロニクス講演会 2020, 2020 年 5 月

CFPick: Confirmation Free Picking System - 第 2 報: ピッキング動作の認識アルゴリズムの提案 -, 川埜美穂, 吉田泰洋, 衣川潤, 若林勇太, 小菅一弘, ロボティクス・メカトロニクス講演会 2020, 2020 年 5 月

Cardboard Robot Hand "CbR Hand" - 第 1 報: 段ボールと折り紙構造を利用したロボットハンド -, 若林勇太, 品川雄哉, ロボティクス・メカトロニクス講演会 2020, 2020 年 5 月

キッティングにおける情報処理能力モデルの検討 ー第1報:顔検出とヒューマンエラーの関係ー, 湯原義輝, 谷貝まひる, 衣川潤, 若林勇太, 第21回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会, 2020年12月

受動型連結機構を用いた複数棚の同時搬送システムの試作および有用性の試算, 若林勇太, 衣川潤, 上岡正也, 小菅一弘, 第26回ロボティクスシンポジウム, 2021年3月

その他

ロボットと物理の実験室～ロボットと物理をどっちも体験!!～, 若林勇太, 七森公碩, 宝利剛, 上杉智子, 上野卓也, 舞鶴文化教育財団 教育研究助成, 2020年4月～2021年3月

ヒューマンエラーゼロを実現する協働型工場内物流システムへの挑戦, 衣川潤, 若林勇太, 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C), 2019年4月～2022年3月

建設システム工学科四蔵 茂雄**学会発表**

電源に対する市民の選好評価, 山岸拓斗, 四蔵茂雄, 2020 年度土木学会関西支部年次学術講演会, 2020 年 5 月 23 日

Present State of Energy Situation in Rwanda and its Future Subject, HYPOLITE Rumanzi, 四蔵茂雄, 2020 年度土木学会関西支部年次学術講演会, 2020 年 5 月 23 日

玉田 和也**解説**

コンクリートの明日を支える技術者の育成/1. 建設技術者の育成と技術伝承 地域の建設技術者のためのコンクリート工事教育カリキュラムの開発, 玉田和也, 毛利聡, 嶋田知子, コンクリート工学 Vol. 59 No. 1, pp. 4-9, 2021 年 1 月

土木を救うリカレント教育, 玉田和也, 土木学会誌 Vol. 106 No. 2, pp. 72-73, 2021 年 2 月

学会発表

学び直しのための構造力学教育動画の開発～自学自習とリカレント教育のために～, 玉田和也, 青木一樹, 令和 2 年度土木学会全国大会第 75 回年次学術講演会, CS1-25, 2020 年 9 月

床版取替工事を実施する橋梁（淀川大橋）の振動計測 第 2 報, 二上稜太, 玉田和也, 伊藤安男, 令和 2 年度土木学会全国大会第 75 回年次学術講演会, I-350, 2020 年 9 月

KOSEN 型産学共同インフラメンテナンス人材育成システムの構築（その 1）～取組概要及び実務家教員育成研修プログラムの開発概要～, 嶋田知子, 掛園恵, 毛利聡, 玉田和也, 令和 2 年度土木学会全国大会第 75 回年次学術講演会, CS1-23, 2020 年 9 月

KOSEN 型産学共同インフラメンテナンス人材育成システムの構築（その 2）～橋梁メンテナンス技術者育成ステップアップ型リカレント教育プログラムの開発概要等～, 掛園恵, 嶋田知子, 毛利聡, 玉田和也, 令和 2 年度土木学会全国大会第 75 回年次学術講演会, CS1-24, 2020 年 9 月

橋梁メンテナンスに関するリカレント教育～構造物の詳細調査カリキュラムの開発～, 掛園恵, 毛利聡, 林和彦, 佐々木昇, 嶋田知子, 玉田和也, 令和 2 年度土木学会全国大会第 75 回年次学術講演会, VI-632, 2020 年 9 月

その他

リカレント教育と実務家教員と技術伝承:iMec の活動と KOSEN-REIM, 玉田和也, 近畿建設協会報 Vol. 66, 2020 年 10 月

尾上 亮介**学会発表**

移住者を対象とした空き家改修計画 一舞鶴市居住者促進住宅における利用実態の調査一, 木村悠希, 尾上亮介, 2020 年度日本建築学会大会（関東）, 学術講演会梗概集, pp227-228

その他

舞鶴市 UI ターン者のためのお試し住宅の改修設計・監修（舞鶴市受託研究），尾上研究室、2021 年 3 月

加登 文学**国際会議**

DYNAMIC STATE OF RIVER-MOUTH BAR IN YURAGAWA RIVER AND APPLICATION OF DRONE PHOTOGRAPHY IMAGE TO OBTAIN ITS TOPOGRAPHICAL DATA, Hiroshi Miwa, Mio Omura, Takashi Wada, Yoshinori Kato, Keiichi Kanda, Proceedings of the 22nd IAHR-APD Congress 2020 (1-3-5), 1 - 8, 2020.9

The Influence of Coupled Horizontal and Vertical Components of Strong Ground Motions on the Ground Response Analysis: Experimental and Numerical Approaches, Tsubasa Maeda, Hemanta Hazarika, Yoshinori Kato, Proceedings of 1st International Symposium on Construction Resources for Environmentally Sustainable Technologies (CREST2020), Paper ID 3476, 2021.3

学会発表

単点常時微動観測による盛土造成地の地形把握に関する研究，加登文学，岸本拓馬，上田健人，地域安全学会梗概集，47，71 - 74，2020 年 10 月

毛利 聡**査読付論文**

海軍第三火薬廠汽缶場跡の調査，毛利聡，牧野雅司，今村友里子，日本建築学会技術報告集，第 26 巻，第 64 号，pp.863-868，2020 年 10 月

学会発表

橋梁メンテナンスに関するリカレント教育～構造物の詳細調査カリキュラムの開発～，掛園恵，毛利聡，林和彦，佐々木昇，嶋田知子，玉田和也，令和 2 年度土木学会全国大会第 75 回年次学術講演会，第 VI 部門 建設マネジメント (4)，VI-632

学位取得状況

学位	校長	人文	自然	機械	電気	制御	建設	計
博士	1	4	8	9	9	10	10	51
修士		4	2		1			7
学士		1	1					2
合計	1	9	11	9	10	10	10	60

研究成果発表状況

区 分	著 書	解 説	査読論文	国際会議	学会発表	特 許	その他	計
校 長							3	3
人文学部部門		1					9	10
自然科学部部門	1		4	1	11		2	19
機械工学科			5		7		2	14
電気情報工学科			4		15			19
電子制御工学科	1		2	4	12		5	24
建設システム工学科		2	1	2	10		2	17
教育研究支援センター								
合 計	2	3	16	7	55		23	106

外部研究費受入

科学研究費助成事業(代表者)

研究種目等	研究課題名	研究代表者	配分額(千円)
基盤研究C	「技術者としての地域貢献」を舞鶴市と連携して実施する教育モデルの構築	片山 英昭 (電気情報工学科)	520
基盤研究C	実践的に制御理論を学ぶための教材とカリキュラム開発	川田 昌克 (電子制御工学科)	780
基盤研究C	触地図ディスプレイと連動した視覚障害者を歩行支援する触地図情報配信システムの構築	丹下 裕 (電気情報工学科)	601
基盤研究C	二元系金属酸化物を用いた抵抗変化現象における量子化コンダクタンスの発現	西 佑介 (電子制御工学科)	320
若手研究	ホテル照明による光環境制御システムの構築	室巻 孝郎 (機械工学科)	390
基盤研究C	官吏・典獄と被収容者から読み解く、明治日本の監獄	児玉 圭司 (人文科学部門)	520
若手研究	外交文書の「見た目」から読み解く近世日朝関係の特質	牧野 雅司 (人文科学部門)	1,040
若手研究	誤点弧ロック現象の発見と解明	七森 公碩 (電気情報工学科)	260
研究活動スタート支援	源氏物語の受容を中心とした食に対する意識の変遷に関する研究	荻田 みどり (人文科学部門)	1,300
基盤研究C	特別支援学校教員を対象としたスイッチ教材のIoT化を目指したプログラミング教育	船木 英岳 (電気情報工学科)	1,690
基盤研究C	小・中学校でも利用可能な放射線教育プラスチック検出器の開発と教育モデルの構築	石川 一平 (電子制御工学科)	1,300
若手研究	ウィリアム・ジェイムズの多元論哲学に対するシャルル・ルヌヴィエの影響に関する研究	山根 秀介 (人文科学部門)	1,300
若手研究	分子性物質におけるフォノン解析に基づく熱輸送-電荷輸送関連の解明	小島 広孝 (自然科学部門)	3,120
研究活動スタート支援	不妊症診断支援システムへ向けた医療画像拡張手法の開発	森 健太郎 (電気情報工学科)	1,300
計 14 件			14,441

※間接経費を含む。学外分担者への送金分は含まない。千円未満四捨五入。

科学研究費助成事業(分担者)

研究種目等	研究課題名	研究分担者	配分額(千円)
基盤研究C	「技術者としての地域貢献」を舞鶴市と連携して実施する教育モデルの構築	丹下 裕 (電気情報工学科)	260
基盤研究C	触地図ディスプレイと連動した視覚障害者を歩行支援する触地図情報配信システムの構築	片山 英昭 (電気情報工学科)	179
基盤研究C	特別支援学校教員を対象としたスイッチ教材のIoT化を目指したプログラミング教育	丹下 裕 (電気情報工学科)	65
基盤研究C	小・中学校でも利用可能な放射線教育プラスチック検出器の開発と教育モデルの構築	内海 淳志 (電気情報工学科)	130

基盤研究 B	近代日本の地域自治 - 村と大字の法史学的研究 -	児玉 圭司 (人文科学部門)	221
基盤研究 B	意匠性に配慮した既存木造建築の開口部補強構法の開発	渡部 昌弘 (建設システム工学科)	325
基盤研究 C	ヒューマンエラーゼロを実現する協働型工場内物流システムへの挑戦	若林 勇太 (電子制御工学科)	910
基盤研究 C	腐食した組立部材の圧縮耐荷力特性に関する研究	玉田 和也 (建設システム工学科)	130
基盤研究 B	拡張 π 共役分子と分子集合体造形に基づく熱電変換材料の開発	小島 広孝 (自然科学部門)	650
基盤研究 C	粘性解理論の進展：漸近問題と境界値問題	熊谷 大雅 (自然科学部門)	325
基盤研究 B	3D プリンタを活用した視覚障害教育のための立体模型作成ネットワークの構築	丹下 裕 (電気情報工学科)	325
計 11 件			3,520

※間接経費を含む。千円未満四捨五入。

受託事業

研 究 題 目	相手先	受入額 (千円)
ジュニアドクター育成塾	国立研究開発法人科学技術振興機構	9,900
計 1 件		9,900

※間接経費を含む。千円未満四捨五入。

受託研究

研 究 題 目	研究担当者	相手先	受入額 (千円)
市道間人漁港線（大間橋）橋梁調査研究	玉田 和也 (建設システム工学科)	京丹後市	498
橋梁長寿命化修繕計画実施における課題の検討	玉田 和也 (建設システム工学科)	舞鶴市	495
空き家を活用した居住促進住宅設置に係る建物	尾上 亮介 (建設システム工学科)	舞鶴市	200
計 3 件			1,193

※間接経費を含む。千円未満四捨五入。

共同研究

研 究 題 目	研究担当者	相手先	受入額 (千円)
3D プリンタ・ASHIGARU 用リアルタイム監視システムの開発	藤司 純一 (電子制御工学科)	株式会社 Polyuse	1,290
めっき用の大容量高効率電源装置の制御技術の確立	七森 公碩 (電気情報工学科)	株式会社 中央製作所	330
IoT 時代に即した印刷プロセスによるフレキシブルセンサデバイス作製	廣芝 伸哉 (電気情報工学科)	豊橋技術 科学大学	286

デュアル型屋外強制日射変動による”高速MPPT評価システム”の開発・	中川 重康 (電気情報工学科)	gomme 合同会社	55
擬似教師データ自動生成ツールの開発	片山 英昭 (電気情報工学科)	日立造船株式会社	110
GNSS 精密測位の精度評価	丹下 裕 (電気情報工学科)	日立造船株式会社	100
計 6 件			2,171

※間接経費を含む。千円未満四捨五入。

寄附金

件 名	研究担当者	受入額 (千円)
iMec 寄附金 (一般社団法人兵庫県測量設計業協会)	玉田 和也 (建設システム工学科)	560
教育活動支援寄附金 (舞鶴工業高等専門学校後援会)	教 職 員	2,000
三川譲二寄附金 (三川 譲二)	校長	500
iMec 寄附金 (有限会社トライテック)	玉田 和也 (建設システム工学科)	80
iMec 寄附金 (有限会社神輝興産)	玉田 和也 (建設システム工学科)	660
iMec 寄附金 (日本空糸株式会社)	玉田 和也 (建設システム工学科)	80
iMec 寄附金 (日本ラインサービス株式会社)	玉田 和也 (建設システム工学科)	30
iMec 寄附金 (株式会社京都イングス)	玉田 和也 (建設システム工学科)	50
iMec 寄附金 (株式会社真鍋組)	玉田 和也 (建設システム工学科)	40
iMec 寄附金 (日本ミクニヤ株式会社 大阪支店)	玉田 和也 (建設システム工学科)	230
iMec 寄附金 (京福コンサルタント株式会社)	玉田 和也 (建設システム工学科)	50
iMec 寄附金 (株式会社ユーズ)	玉田 和也 (建設システム工学科)	120
iMec 寄附金 (リノブリッジ株式会社)	玉田 和也 (建設システム工学科)	20
iMec 寄附金 (株式会社三東工業社)	玉田 和也 (建設システム工学科)	50
iMec 寄附金 (日本ミクニヤ株式会社 大阪支店)	玉田 和也 (建設システム工学科)	90
iMec 寄附金 (株式会社ユーズ)	玉田 和也 (建設システム工学科)	40

iMec 寄附金 (東海産商株式会社)	玉田 和也 (建設システム工学科)	60
iMec 寄附金 (株式会社三東工業社)	玉田 和也 (建設システム工学科)	60
iMec 寄附金 (有限会社トライテック)	玉田 和也 (建設システム工学科)	30
iMec 寄附金 (有限会社ダイキ開発)	玉田 和也 (建設システム工学科)	50
iMec 寄附金 (田中シビルテック株式会社)	玉田 和也 (建設システム工学科)	50
iMec 寄附金 (株式会社丸尾計画事務所)	玉田 和也 (建設システム工学科)	60
iMec 寄附金 (株式会社ユニオン)	玉田 和也 (建設システム工学科)	60
オリエンタル白石寄附金 (オリエンタル白石株式会社)	玉田 和也 (建設システム工学科)	300
iMec 寄附金 (大日コンサルタント株式会社)	玉田 和也 (建設システム工学科)	240
ニューセンサー開発寄附金 (有限会社ニューセンサー開発)	森 健太郎 (電気情報工学科)	200
NSK メカトロニクス財団助成金 (公益財団法人 NSK メカトロニクス技術高度化財団)	若林 勇太 (電子制御工学科)	1,989
教育活動支援寄附金 (舞鶴工業高等専門学校後援会)	教 職 員	1,000
日進製作所寄附金 (株式会社日進製作所)	校長	300
教育研究支援基金 (寄附件数 461 件)	教 職 員	5,765
計 30 件		14,764

※間接経費を含む。千円未満四捨五入。

その他助成金

件名	研究担当者	受入額 (千円)
上田記念財団助成金	玉田 和也 (建設システム工学科)	3,000
泉科学技術振興財団助成金	西 佑介 (電子制御工学科)	1,000
池谷科学技術振興財団助成金	西 佑介 (電子制御工学科)	1,500
日本国土開発未来研究財団助成金	上野 卓也 (建設システム工学科)	954
舞鶴文化教育財団助成金	若林 勇太 (電子制御工学科)	194
計 5 件		6,648

※間接経費を含む。千円未満四捨五入。

補助金（代表校）

事業名(プロジェクト名)	相手先	受入額 (千円)
持続的な産学共同人材育成システム構築事業 (KOSEN 型産学共同インフラメンテナンส์人材育成シ ステムの構築)	文部科学省	26,308
計 1 件		26,308

学協会委員及び学会・研究会等の開催協力

校長

内海 康雄	(公社) 空気調和・衛生工学会, 換気設備委員会委員, 2020年4月～2021年3月
-------	---

自然科学部門

上杉 智子	特定非営利活動法人物理オリンピック日本委員会, 物理チャレンジ実行委員会 理論問題部会, 委員, 2020年4月～2021年3月
	特定非営利活動法人物理オリンピック日本委員会, 国際物理オリンピック派遣委員会 理論研修部会, 委員, 2020年4月～2021年3月
宝利 剛	The 4th workshop on "Mathematics and Physics in General Relativity", 世話人, 2021年3月20・21日
熊谷 大雅	高専間ネットワークによる微分方程式研究会, 研究会世話人, 2021年3月23日～2021年3月24日

機械工学科

篠原 正浩	先端材料技術協会 (SAMPE Japan) コンポジット委員会, 事務局, 2020年度
	日本材料学会複合材料部門委員会, 委員, 2020年度
	関西工学教育協会高専部会, 幹事, 2020年度
	第12回自動車用途コンポジットシンポジウム実行委員, 2020年11月13日
室巻 孝郎	日本設計工学会関西支部, 商議員, 2020年4月1日～2021年3月31日
	計測自動制御学会システム・情報部門自律分散システム部会, 運営委員, 2020年4月1日～2021年3月31日
村上信太郎	日本機械学会関西支部第96期商議員, 2020年4月1日～2021年3月31日
	日本機械学会関西支部MECHAVOCATION2021編集委員, 2020年4月1日～2021年3月31日

電子制御工学科

野間 正泰	日本トライボロジー学会・“超”を目指す軸受技術研究会, 幹事, 2020年4月1日～2021年3月31日
	関西潤滑懇談会, 理事, 2020年4月1日～2021年3月31日
西 佑介	MEMRISYS2020, プログラム編集委員・特集号編集委員, 2020年
高木 太郎	データ駆動制御とその産業応用に関する調査専門委員会, 委員, 2019年2月～2021年

建設システム工学科

尾上 亮介	京都府景観アドバイザー, 2018年4月1日～2023年3月31日
-------	-----------------------------------

地域・社会活動

地域・社会業績	1 4 0
公開講座	1 4 0
出前授業	1 4 3
産学連携事業	1 4 6
学外講演，講習，展示	1 4 7
地域共同テクノセンター技術相談	1 4 9
地域委員	1 5 1

地 域 ・ 社 会 業 績

公開講座

開講日	開講時間	講 座 名	受 講 対象者	講師名	募集 人数	受講 者数
8月8日	9:30 ～ 11:30	夏休み親子工作教室 ～太陽電池を使ったものづくり～	舞鶴市内在住の 小学3～6年生	内海 淳志 井上 泰仁 福井 繁雄 井谷 武史	16名	10名
8月16日	13:00 ～ 15:00	夏休み太陽電池教室	中学生	内海 淳志	10名	10名
9月12日	13:00 ～ 16:00	考えて動かそう！ きみにもできるロボットづくり	小中学生	室巻 孝郎	9名	9名
9月12日	13:00 ～ 16:00	住まいの設計と模型作成	小学5年生 ～中学生	徳永 泰伸 加登 文学	10名	9名
9月13日	13:00 ～ 16:00	3D-CADを使ってみよう！ パソコンで3Dモデル組立て	中学生	室巻 孝郎 山本 昌平 須田 敦	10名	8名
9月19日	13:00 ～ 16:00	住まいの設計と模型作成	小学5年生 ～中学生	徳永 泰伸 加登 文学	10名	8名
9月26日	13:00 ～ 15:00	遊んで、学ぶ。 不思議なパズルとフィボナッチ数列	小中学生	宝利 剛	10名	9名
9月26日	13:00 ～ 16:00	環境発電エナジーハーベスティングを 体験しよう	中学生	廣芝 伸哉 内海 淳志	10名	5名
9月27日	9:00 ～ 12:00	プログラミングによるドローンの自動飛行	中学生	小林 洋平	8名	5名
9月27日	13:00 ～ 16:00	生体情報を測定する脈波センサーの作成を 体験してみよう	中学生	丹下 裕 福井 繁雄 井谷 武史	10名	4名
10月3日	13:00 ～ 16:00	POV-RayによるCG制作を体験してみよう	中学生	舩木 英岳	15名	12名
10月4日	13:00 ～ 15:00	椅子の制作	小学校高学年 ～中学生	尾上 亮介 高本 優也	5名	3名
10月10日	13:00 ～ 15:00	水をきれいにする試み -環境の創造実験-	小学6年生 ～中学生	四蔵 茂雄	10名	6名
10月10日	13:00 ～ 16:00	電波を目で見てみよう	中学生	丹下 裕 福井 繁雄 井谷 武史	10名	4名
10月11日	13:00 ～ 15:00	遊んで、学ぶ。計算機と平方根	中学生	宝利 剛	10名	7名

開講日	開講時間	講座名	受講対象者	講師名	募集人数	受講者数
10月24日	13:00～16:00	3Dプリンターで作る 立体造形プログラム入門	中学生	舩木 英岳	10名	6名
11月7日	13:00～14:30	レオナルド・ダ・ヴィンチの橋をつくろう！ ～模型で学ぶ橋の仕組みと形～	中学生	玉田 和也	15名	5名
11月7日	13:00～16:00	身近なものを使ってIoTを体験してみよう	中学生	七森 公碩	10名	8名
11月8日	13:00～14:30	テンセグリティ～宙に浮かぶ構造体～ を作ろう！	小中学生	玉田 和也	15名	16名
11月8日	13:00～15:00	小・中学生のための ナノテクノロジー体験教室	小学4年生 ～中学生	清原 修二	10名	10名
11月14日	13:00～15:00	プログラミング教室	中学生	井上 泰仁	10名	6名
11月15日	13:00～15:00	住宅建築模型制作(住吉の長屋)	小学校高学年 ～中学生	尾上 亮介 高本 優也	10名	7名
11月21日	13:00～15:00	プログラミング教室	小学生	井上 泰仁	10名	11名
11月21日	12:00～16:00	6足歩行ロボットをつくろう製作講習会 (小学生の部)	小学4年生 ～5年生	藤司 純一 石川 一平 高木 太郎 若林 勇太	20名	16名
11月22日	12:00～16:00	リモコンロボットをつくろう製作講習会 (中学生の部)	小学6年生 ～中学生	藤司 純一 石川 一平 高木 太郎 若林 勇太	20名	18名
11月23日	13:00～15:00	中学理科復習シリーズ 第1弾【実験】水溶液の性質	中学生	福井 繁雄 梶田 勲 畑 亮次 櫻井 一樹 高本 優也	20名	8名
12月6日	13:00～16:00	チカチカ光るクリスマスツリーを作ろう！	小学3年生 ～6年生	片山 英昭 森 健太郎 福井 繁雄 井谷 武史	10名	11名
2月14日 ※中止	13:00～15:00	住宅建築模型制作(前川國男自邸)	小学校高学年 ～中学生	尾上 亮介 高本 優也	10名	-

開講日	開講時間	講 座 名	受 講 対象者	講師名	募集 人数	受講 者数
2月28日 ※中止	13:00～15:00	オリジナルのペン立て付き ブックスタンドを作ろう	小学4年生 ～中学3年生	櫻井 一樹 福井 繁雄 畑 亮次 梶田 勲	10名	-
3月20日	13:00～17:00	第11回舞鶴高専平地研究室 パワーエレクトロニクスオンライン公開講座	企業技術者	中川 重康 七森 公碩	30名	23名

iMec 公開講座

開講日	講 座 名	受 講 対象者	講師名	募集 人数	受講 者数
6月25日～6月26日	e+iMec 講習会【基礎編(橋梁点検)】	行政機関技術職員 及び民間企業技術者	玉田 和也	10名	10名
6月27日～6月28日				10名	11名
7月2日～7月3日				10名	10名
7月11日～7月12日				10名	10名
8月1日～8月2日				10名	6名
9月12日～9月13日				10名	7名
9月14日～9月15日				10名	8名
10月10日～10月11日				10名	10名
10月22日～10月23日				10名	9名
2月27日～2月28日 ※中止				-	-
7月18日	准橋梁点検技術者切替講習会	平成27年度以前の iMec 講習会(基礎編) 受講修了者	玉田 和也	20名	12名
9月26日 ※中止				-	-
7月24日～7月26日	滋賀メンテナンス技術者養成講座 e+iMec 講習会【基礎編(橋梁点検)】	滋賀県メンテナンス 技術者養成協議会	玉田 和也	10名	11名
7月31日	e+iMec 講習会【舗装と防水層】	行政機関技術職員 及び民間企業技術者	玉田 和也 坂上 典幸	10名	3名
8月21日～8月23日	e+iMec 講習会【応用編(橋梁点検)】	行政機関技術職員 及び民間企業技術者	玉田 和也	10名	9名
8月30日～9月1日				10名	7名
9月4日～9月6日				10名	9名
10月17日～10月18日	e+iMec 講習会【構造物の詳細調査】	行政機関技術職員 及び民間企業技術者	玉田 和也 毛利 聡	10名	8名

10月27日～10月28日	e+iMec 講習会【橋梁長寿命化対策】	行政機関技術職員 及び民間企業技術者	玉田 和也	10名	8名
10月24日, 25日, 29日, 11月7日	e+iMec 講習会【コンクリートの品質管理】	行政機関技術職員 及び民間企業技術者, 学生	毛利 聡	10名	8名
11月14日～11月15日	e+iMec 講習会【施工技術と施工管理】	行政機関技術職員 及び民間企業技術者	玉田 和也	10名	7名
11月27日～11月29日	e+iMec 講習会【地盤と斜面】	行政機関技術職員 及び民間土木技術者	玉田 和也 沢田 和秀	10名	6名
12月19日～12月20日	e+iMec 講習会【基礎編(橋梁点検)】	民間企業技術者	玉田 和也	10名	9名
1月23日～1月24日 ※延期	e+iMec 講習会【構造物の詳細調査】	行政機関技術職員 及び民間企業技術者	玉田 和也 毛利 聡	10名	-
2月6日～2月7日 ※延期	e+iMec 講習会【橋梁長寿命化対策】	行政機関技術職員 及び民間企業技術者	玉田 和也 毛利 聡	10名	-
2月13日～2月14日 ※延期	e+iMec 講習会【施工技術と施工管理】	行政機関技術職員 及び民間企業技術者	玉田 和也 毛利 聡	10名	-

出前授業

実施日	授 業 名	実施場所等	対象者	講師名
6月30日	レオナルド・ダ・ヴィンチの橋をつくろう！ ～模型で学ぶ橋の仕組みと形～	養父市立大屋中学校	中学3年生	玉田 和也
7月9日	防災教育(地震と災害現象)	京都府立福知山高等学校 附属中学校	中学2年生	加登 文学 上野 卓也 西村 良平 高本 優也
7月14日	・定規より便利な工具(ノギス)を作ろう	舞鶴市立若浦中学校	中学3年生	山田耕一郎
	・エクセルで画像処理			芦澤 恵太
	・段ボールで作る本格派ロボットハンド			若林 勇太
	・家具デザインシュローダテーブルの模型を作ろう			尾上 亮介
8月17日	プログラミング講座 ～ビジュアルプログラミング編～	京都府立舞鶴支援学校	教員	舩木 英岳 丹下 裕 福井 繁雄 畑 亮次 井谷 武史

実施日	授 業 名	実施場所等	対象者	講師名
8 月 20 日	レオナルド・ダ・ヴィンチの橋をつくろう！	舞鶴市大浦会館	小学校低学年	玉田 和也
10 月 7 日	プログラミング講座② ～Pyonkee iPad でビジュアルプログラミング～	京都府立舞鶴支援学校	教員	丹下 裕 福井 繁雄 井谷 武史
10 月 16 日	電気の基礎	舞鶴市立朝来小学校	小学 4～6 年生	丹下 裕 福井 繁雄 井谷 武史
10 月 17 日	綱渡りをするロボットの製作	舞鶴市立志楽小学校	小学 1 年生～ 中学生	丹下 裕 福井 繁雄 井谷 武史
10 月 29 日	ハンドスピナーを作ろう	舞鶴市立和田中学校	中学 1 年生	山田耕一郎 村上信太郎
	ゲームを開発しよう			井上 泰仁 福井 繁雄 井谷 武史
	ロボットと遊ぼう		中学 2 年生	高木 太郎 藤司 純一 若林 勇太
	建築模型を作ろう			今村友里子 高本 優也
11 月 14 日	LEGO ロボット製作と iPad によるプログラミング	北部産業創造センター	小学 5 年生 ～中学生	川田 昌克 高木 太郎
11 月 19 日	住まいの設計	綾部市立何北中学校	中学 1～2 年生	徳永 泰伸 高本 優也
11 月 28 日	「マーブリングをしてみよう！」 「身近な物体まわりの流れを見てみよう！」	舞鶴市立朝来小学校	小学 6 年生	野間 正泰 畑 亮次
12 月 3 日 12 月 9 日	住まいの設計	舞鶴市立白糸中学校	中学 2 年生	尾上 亮介 加登 文学 渡部 昌弘 西村 良平 徳永 泰信 高本 優也
12 月 11 日	イルミネーションの製作 (クリスマスのためのイルミネーション作り)	舞鶴市立朝来小学校	小学 4～6 年生	丹下 裕 福井 繁雄 井谷 武史

実施日	授 業 名	実施場所等	対象者	講師名
12月25日	プログラミング講座③ ～Pyonkee-iPad でビジュアルプログラミング～	京都府立舞鶴支援学校	教員	船木 英岳 丹下 裕 福井 繁雄 畑 亮次 井谷 武史
1月20日	住まいの設計	舞鶴市立和田中学校	中学2年生	尾上 亮介 徳永 泰伸 加登 文学
1月22日	はんだごてで作るアクセサリ	舞鶴市立朝来小学校	小学4～6年生	丹下 裕 福井 繁雄 井谷 武史
2月4日	プログラミングにチャレンジ ～ブロックプログラミングを体験しよう～	与謝野町立岩滝小学校	小学5年生	井上 泰仁
	プログラミングにチャレンジ ～電気の節約を考えよう～		小学6年生	
2月15日	プログラミングにチャレンジ ～お絵描きプログラミング～		小学2年生	
	プログラミングにチャレンジ ～アニメーションを作ってみよう～		小学3年生	
2月17日	プログラミングにチャレンジ ～楽器を作ってみよう～		小学4年生	
3月25日	プログラミング講座④ ～Pyonkee-iPad でビジュアルプログラミング～	京都府立舞鶴支援学校	教員	船木 英岳 丹下 裕 福井 繁雄 畑 亮次 井谷 武史

産学連携事業

連携事業名称	連携先	実施期間	指導者
地域企業との連携による地域を担う機械技術者の育成	株式会社椿本チエイン	R2. 5. 12 ～10. 16	豊田 香 山田耕一郎 室巻 孝郎
地域企業との連携による地域を担う機械技術者の育成	オムロン株式会社 綾部工場	R2. 7. 14 ～10. 9	豊田 香 山田耕一郎 室巻 孝郎
専攻科エンジニアリングデザイン演習	株式会社堀場製作所 株式会社日進製作所	R2. 10～11	篠原 正浩 舩木 英岳 野間 正泰 西 佑介 渡部 昌弘
地域企業との連携による地域を担う機械技術者の育成	株式会社イシダ	R2. 10. 23 ～R3. 1. 27	豊田 香 山田耕一郎 室巻 孝郎
京都府の港湾を題材とした港湾管理に関する学習	国土交通省近畿地方 整備局舞鶴港湾事務所 京都府港湾局	R2. 11～R3. 1	上野 卓也 加登 文学

学外講演, 講習, 展示

校長

内海 康雄	招待講演, 北近畿地域におけるSDGsを踏まえたコンパクトシティ構築へ向けての提言, 北近畿地域連携会議, WEB, 2020年8月7日
	招待出展, 局所的海洋データを活用した漁業の効率化の研究開発, 内海康雄, 北島宏之, 若生一広, 菅原利弥, 宇都宮栄二, 井戸上彰, 阿部博則, 福嶋正義, 小川哲司, 小林哲則, 中野鐵平, 橋本和夫, 総務省ICTイノベーションフォーラム2020, WEB, 2021年1月21日
	招待講演, 舞鶴地域における小河川の浸水対策について, 内閣府地方創生SDGs官民連携プラットフォーム, SDGsスタートアップ研究分科会フォーラム, WEB, 2021年3月13日

人文科学部門

児玉 圭司	パネル展示, 法務省法務史料展示室「法曹三者の歴史」(「列伝」を担当), 法務省, 東京都千代田区, 2020年7月～現在に至る
荻田みどり	展覧会, 舞鶴市郷土資料館企画展「こどもが会える丹後伝説—AIで広がる“海辺の京都 浮世絵コレクション”」, 展示協力, 舞鶴市郷土資料館, 舞鶴市, 2020年10月3日-2020年10月30日
	ワークショップ, AIを使って丹後の伝説を読む, 講師, 舞鶴市郷土資料館, 舞鶴市, 2020年10月11日

機械工学科

山田耕一郎	出前授業, 舞鶴市立若浦中学校出前体験, 舞鶴市, 2020年7月14日
	出前授業, ハンドスピナーを作ろう, 舞鶴市立和田中学校, 舞鶴市, 2020年10月29日
室巻 孝郎	公開講座, 考えて動かそう! きみにもできるロボットづくり, 舞鶴高専, 2020年9月12日
	公開講座, 3D-CADを使ってみよう! パソコンで3Dモデル組立て, 舞鶴高専, 2020年9月13日
村上信太郎	出前授業, ハンドスピナーを作ろう, 舞鶴市立和田中学校, 舞鶴市, 2020年10月29日

電気情報工学科

内海 淳志	公開講座, 夏休み親子工作教室～太陽電池を使ったものづくり～, 舞鶴市大浦会館, 舞鶴市, 2020年8月8日
	公開講座, 夏休み太陽電池教室, 舞鶴高専, 舞鶴市, 2020年8月16日
船木 英岳	出前授業, プログラム講座(ビジュアルプログラミング)～Pyonkee(ピョンキー)を用いたプログラミング 1～, 京都府立舞鶴支援学校, 舞鶴市, 2020年8月
	出前授業, プログラム講座(ビジュアルプログラミング)～Pyonkee(ピョンキー)を用いたプログラミング 2～, 京都府立舞鶴支援学校, 舞鶴市, 2020年10月
	出前授業, プログラム講座(ビジュアルプログラミング)～Pyonkee(ピョンキー)を用いたプログラミング 3～, 京都府立舞鶴支援学校, 舞鶴市, 2020年12月
	出前授業, プログラム講座(ビジュアルプログラミング)～Pyonkee(ピョンキー)を用いたプログラミング 4～, 京都府立舞鶴支援学校, 舞鶴市, 2021年3月
丹下 裕	出前授業, プログラム講座(ビジュアルプログラミング)～Pyonkee(ピョンキー)を用いたプログラミング 1～, 京都府立舞鶴支援学校, 舞鶴市, 2020年8月
	公開講座, 生体情報を測定する脈波センサーの作成を体験してみよう, 舞鶴工業高等専門学校, 舞鶴市, 2020年9月
	出前授業, プログラム講座(ビジュアルプログラミング)～Pyonkee(ピョンキー)を用いたプログラミング 2～, 京都府立舞鶴支援学校, 舞鶴市, 2020年10月
	出前授業, 抵抗の謎, 舞鶴市立朝来小学校理科クラブ, 舞鶴市, 2020年10月
	出前授業, 綱渡りロボット, 設楽子育て支援協議会, 舞鶴市, 2020年10月
	公開講座, 電波を目で見よう, 舞鶴工業高等専門学校, 舞鶴市, 2020年10月
	出前授業, クリスマスのためのLEDイルミネーションづくり, 舞鶴市立朝来小学校理科クラブ, 舞鶴市, 2020年12月

丹下 裕	出前授業，プログラム講座（ビジュアルプログラミング）～Pyonkee（ピョンキー）を用いたプログラミング 3～，京都府立舞鶴支援学校，舞鶴市，2020年12月
	出前授業，プログラム講座（ビジュアルプログラミング）～Pyonkee（ピョンキー）を用いたプログラミング 4～，京都府立舞鶴支援学校，舞鶴市，2021年3月

電子制御工学科

清原 修二	公開講座「小・中学生のためのナノテクノロジー体験教室」，舞鶴高専地域共同テクノセンター，舞鶴市，2020年11月8日
-------	--

建設システム工学科

四蔵 茂雄	ネイチャーガイド養成講座，舞鶴市，2020年10月6日
	福知山市上下水道経営審議会，福知山市，2020年11月5日，11月13日，11月26日
	舞鶴市伝統的建造物群保存事業あり方懇話会，舞鶴市，2021年1月20日
玉田 和也	京都府北部・橋りょう維持管理研修会，講師，京都府及び8市町，第1回綾部市（2020年6月12日），第2回綾部市（2020年7月10日），第3回綾部市（2020年9月3日），第4回綾部市（2020年10月16日），第5回綾部市（2020年11月13日）
尾上 亮介	公開講座，椅子の制作，講師，舞鶴高専，舞鶴市，2020年10月4日
	公開講座，住宅建築模型制作，講師，舞鶴高専，舞鶴市，2020年11月15日
	出前授業，住まいの設計，講師，白糸中学校，舞鶴市，2020年12月9日
	出前授業，住まいの設計，講師，和田中学校，舞鶴市，2021年1月20日
加登 文学	わかりやすい地盤工学基礎シリーズ講習会，講師，地盤工学会，オンライン，2020年8月20日，21日
	出前授業，防災学習～地震と災害現象～，講師，福知山高校附属中学校，福知山市，2020年7月9日
	出前授業，住まいの設計，講師，和田中学校，舞鶴市，2021年1月20日
	出前授業，住まいの設計，講師，白糸中学校，舞鶴市，2020年12月3日
毛利 聡	発表「舞鶴高専における取り組み」，パネラー，旧軍港四市鎮守府日本遺産シンポジウム，旧軍港市日本遺産活用推進協議会，2021年3月13日

教育研究支援センター

櫻井 一樹	公開講座，中学理科復習シリーズ 第1弾【実験】水溶液の性質，舞鶴高専，舞鶴市，2020年11月23日
西村 良平	技術相談，ドローンによる舞鶴学園の空撮，舞鶴市，2020年7月20日

地域共同テクノセンター技術相談

	相 談 内 容	対応教員	備考
1	歴史的建造物の保存活用	尾上 亮介	○
2	公営住宅長寿命化	尾上 亮介	○
3	海軍遺産の活用	尾上 亮介	○
4	GPS 精密単独測位法について	丹下 裕	○
5	AI 活用 食品工場品質管理システムについて	片山 英昭	○
6	CAM ソフト (NC Viewer and Converter) に関する一般質問への回答 2 件	眞柄 賢一	○
7	空き屋活用	尾上 亮介	○
8	廃棄物削減に関して	尾上 亮介	○
9	床版橋の維持管理について	玉田 和也	○
10	都市計画に関して	尾上 亮介	○
11	FPGA を用いた PLL (位相同期系) の実現と応用	町田 秀和	○
12	都市計画に関して	尾上 亮介	○
13	海軍遺産の調査研究に関して	尾上 亮介	○
14	舞鶴市の農地活用	尾上 亮介	○
15	遮音性能の予測について	徳永 泰伸	○
16	海軍遺産の活用	尾上 亮介	○
17	中学校技術科新指導要領における 3D プリンターの実習について	舩木 英岳	○
18	公共用地の活用	尾上 亮介	○
19	多世代交流、子育て支援施設の運営	尾上 亮介	○
20	宮津市の景観形成	尾上 亮介	○
21	IoT システムについて	内海 淳志	○
22	市内遺構の日本遺産認定について	尾上 亮介 毛利 聡	○
23	CAM ソフト (NC Viewer and Converter) に関する技術質問への回答 4 件	眞柄 賢一	○
24	廃棄物削減に関して	尾上 亮介	○
25	里村紹巴が舞鶴で詠んだ俳句について	牧野 雅司	○
26	市内で発見された 1927 年作成の図面について	牧野 雅司	○
27	CAM ソフト (NC Viewer and Converter) のアドイン・スクリプトについて	石井 貴弘	○
28	Doboku Lab (ドボクラボ) に対する企画及び参画について	玉田 和也	○
29	CNC 旋盤での CAD/CAM 運用	眞柄 賢一	○
30	京都府建設業魅力向上プロジェクト推進プラットフォームについて	玉田 和也	○
31	間人大橋の定期点検について (点検項目および注意点)	玉田 和也	○
32	居住者促進住宅に関して	尾上 亮介	○
33	土取り場 地山斜面の崩壊について	加登 文学	○
34	地域の分散型独立電力の開発、災害時に EV・PHEV の車載蓄電池によるネットワーク構築にむけた、京都北部の産官学での取組の実証の協力依頼	野間 正泰 玉田 和也	○
35	著書『いまからはじめる NC 工作第 2 版』の読者質問	眞柄 賢一	○
36	テクノアカデミア会員との共同使用機器について	玉田 和也	○
37	空き屋活用	尾上 亮介	○
38	CAM ソフト (NC Viewer and Converter) に関する一般質問への回答	眞柄 賢一	○
39	由良川大橋及び小原橋の耐震補強工事について	玉田 和也	○
40	明治期の法令の読み (旧字体と新字体の対応) について	児玉 圭司	○
41	浸水対策について	加登 文学 上野 卓也	○

	相 談 内 容	対応教員	備考
42	産学連携活動の強化について	玉田 和也	○
43	管理橋梁の橋梁台帳の統廃合について	玉田 和也	○
44	公共施設長寿命化	尾上 亮介	○
45	市内遺構の調査について	尾上 亮介 渡部 昌弘 毛利 聡	○
46	海軍遺産の活用	尾上 亮介	○
47	ポンプの弁の動きを数値化することについて	谷川 博哉 村上信太郎	○
48	本校教員との共同研究実施について	玉田 和也	○
49	外壁タイルの施工について	毛利 聡	○
50	ドローン撮影について	西村 良平	○
51	3D-GAD を使用したものづくり相談	玉田 和也	○
52	都市計画マスタープランに関して	尾上 亮介	○
53	本校教員との共同研究実施について	内海 淳志	○
54	産学連携マッチングに関する相談	内海 淳志	○
55	CAM ソフト (NC Viewer and Converter) に関する一般質問への回答 4 件	眞柄 賢一	○
56	廃棄物削減に関して	尾上 亮介	○
57	あそびあむの運営に関して	尾上 亮介	○
58	廃棄物削減に関して	尾上 亮介	○
59	都市計画立地適正化計画に関して	尾上 亮介	○
60	地震計の設置について	玉田 和也	○
61	都市計画立地適正化計画に関して	尾上 亮介	○
62	文化的景観に関して	尾上 亮介	○
63	公共施設活用に関して	尾上 亮介	○
64	公共施設の活用に関して	尾上 亮介	○
65	海軍遺産の調査研究に関して	尾上 亮介 毛利 聡	○
66	CAM ソフト (NC Viewer and Converter) に関する技術質問への回答 3 件	眞柄 賢一	○
67	交流モータの PID 制御について	川田 昌克	○
68	PID 制御について	川田 昌克	○
69	京都府の港湾に関して	尾上 亮介	○
70	寄贈を受けた近世の地図に描かれた、刑事施設の性質について	児玉 圭司	○
71	京都縦貫道橋梁の耐震補強に関する検討について	玉田 和也	○
72	農地でのドローン活用に関して	尾上 亮介 西村 良平	○
73	都市計画に関して	尾上 亮介	○
74	舞鶴市下水道の評価	四蔵 茂雄	○
75	銀箔、金箔、アルミの箔を使用した製品に関する抗菌効果について	内海 淳志	○
76	パソコンに装着する光るパネルのプロトタイプ作成について	丹下 裕	○
77	都市計画に関して	尾上 亮介	○
78	交流モータの PID 制御について	川田 昌克	○
79	都市計画マスタープランに関して	尾上 亮介	○
80	公共施設更新に関して	尾上 亮介	○

備 考：○印……本校で対応した相談

■印……他の機関に紹介した相談

※2020 年 1 月 1 日～2020 年 12 月 31 日に相談があったものを掲載

地 域 委 員

校長

内海 康雄	ISO/TC163/SC1 国内対応委員会委員長 (TC163/SC1), 2020年4月～現在
	舞鶴市総合計画審議会, 座長, 2020年10月～2021年3月
	(一社)持続可能で安心安全な社会をめざす新エネルギー活用推進協議会(JASFA), 会長, 2020年5月～現在
	内閣府, 地方創生SDGs官民連携プラットフォーム, SDGsスタートアップ研究分科会, メンバー, 2019年5月～現在
	PMI日本支部教育国際展開委員会, 委員, 2018年4月～現在
	特定非営利活動法人AMATERAS理事長, 2021年4月～現在

人文科学部門

児玉 圭司	舞鶴市情報公開・個人情報保護審査会, 委員, 2020年4月～2021年3月
	舞鶴市情報公開・個人情報保護審議会, 委員, 2020年4月～2021年3月
	舞鶴市行政不服審査会, 委員, 2020年4月～2021年3月
	独立行政法人国立病院機構舞鶴医療センター・倫理委員会, 委員, 2020年6月～2021年3月
	綾部市行政不服審査会, 委員, 2020年4月～2021年3月

機械工学科

西山 等	舞鶴工業高等専門学校同窓会, 理事, 2020年4月～2021年3月
------	------------------------------------

電気情報工学科

中川 重康	舞鶴市公共工事事故調査委員会, 委員, 2020年4月～2021年3月
	舞鶴子ども発明クラブ, 指導員, 2020年7月～2021年3月
片山 英昭	舞鶴市プロポーザル評価委員会, 委員, 2020年5月
七森 公碩	舞鶴市地域エネルギービジョン策定業務委託プロポーザル評価委員会, 委員長, 2020年9月
	舞鶴市地域エネルギービジョン策定に係る検討委員会, 委員, 2020年12月～2021年3月

建設システム工学科

玉田 和也	舞鶴市入札監視委員会, 委員, 2020年4月～2021年3月
	舞鶴市地域公共交通会議, 委員, 2020年4月～2021年3月
	国土交通省近畿地方整備局, 橋梁ドクター, 2020年4月～2021年3月
	国土交通省近畿地方整備局, 近畿地方整備局新技術活用評価会議, 委員, 2020年7月～2021年3月
	舞鶴クレーンブリッジ専門家会議, 会長, 2020年10月～2021年3月
	京都縦貫自動車道の橋梁耐震補強技術検討委員会, 委員長, 2020年10月～2022年9月
尾上 亮介	綾部市都市計画審議会, 委員, 2019年4月～2021年4月
	福知山市都市計画審議会, 委員, 2019年1月～2021年10月
	福知山市景観審議会, 委員, 2019年2月～2021年11月
	舞鶴市総合計画審議会, 委員, 2019年11月～2021年11月
	舞鶴市都市計画審議会, 委員, 2020年4月～2022年4月
	舞鶴市農業委員会, 委員, 2020年7月～2022年7月

尾上 亮介	京都府舞鶴港港湾審議会，委員，2020年9月～2022年9月
	宮津市公共施設マネジメント推進会議，委員，2021年2月～2023年1月

報 道 記 事

報道記事一覧	1 5 4
--------------	-------

報道記事一覧

見出し	掲載紙(誌)	掲載年月日
舞鶴高専 一般入試で合否判定ミス 1人を追加合格	舞鶴市民新聞	令和2年4月3日(金)
舞鶴から支援の輪を 舞鶴高専教員らフェイスシールド製作 医療の現場へ 思い届け	舞鶴市民新聞	令和2年4月24日(金)
3Dプリンターでフェイスシールド 舞鶴高専 府内外へ寄贈	朝日新聞	令和2年5月11日(月)
手作り動画で海難防止 舞鶴高専生ら撮影、編集 ミニボート転覆 模型で再現「安全運航に生かして」	京都新聞	令和2年5月14日(木)
舞鶴工専教員有志 医療従事者一助に フェイスシールド製作 地元歯科医や大阪府に寄贈	京都新聞	令和2年5月19日(火)
元舞鶴高専教員の模型店主 町田秀和さん ものづくり 楽しさを伝えたい	京都新聞	令和2年5月21日(木)
小中にフェイスシールド 舞鶴高専・教員有志 3Dプリンターで製作、市立校へ寄贈	毎日新聞	令和2年5月26日(火)
フェイスシールド寄贈 舞鶴高専教員 市教委に 3Dプリンターで製作	読売新聞	令和2年5月27日(水)
舞鶴高専 フェイスシールド 市内全小中学校へ 寄贈	舞鶴市民新聞	令和2年6月2日(火)
未来の科学者 応援 舞鶴高専 理系「育成塾」第2期生募集	毎日新聞	令和2年6月7日(日)
舞鶴支援学校再開 フェイスシールド着け児童の食事を介助 (舞鶴高専から寄付)	京都新聞	令和2年6月9日(火)
学生発想でリフォーム 舞鶴高専と舞鶴市が「お試し住宅」 3件目完成 子育て世代向け	京都新聞	令和2年6月11日(木)
舞鶴高専「未来の科学博士」ジュニアドクター育成塾 第2期生募集開始	舞鶴市民新聞	令和2年6月12日(金)
旧海軍施設 日本遺産認定 蛇島ガソリン庫を追加 舞鶴湾 軍港支えた技術史示す (舞鶴高専が学術調査などで市と協力)	京都新聞	令和2年6月20日(土)
【シリーズ 市政の今】市民と共に進めるまちづくり 「このまちに魅かれ移り住みたくなるまち」の実現 (「お試し住宅」事業で舞鶴高専と地域住民が連携)	広報まいづる	2020年7月号
旧海軍遺構「蛇島ガソリン庫」構成文化財に追加認定 技術史的価値が評価される (舞鶴高専建設システム工学科 毛利准教授・尾上教授が有識者コメント)	舞鶴市民新聞	令和2年7月17日(金)
練習できず諦めた「京都大会」… 舞鶴高専 舞い込んだ夏 市内4校戦 25日開催決定 球児「悔いのないよう戦う」	京都新聞	令和2年7月22日(水)
志楽川の水位予測に期待 舞鶴市など ICT活用協定の成果発表 (舞鶴市、舞鶴高専、KDDI)	毎日新聞	令和2年7月23日(木)

見 出 し	掲載紙 (誌)	掲 載 年 月 日
最新技術 地域の力に データ解析 防災や農業に活用 舞鶴市、高専と KDDI 取り組み継続へ	産 経 新 聞	令和 2 年 7 月 23 日 (木)
舞鶴市・高専・KDDI スマート農業・防災 取り組み成果発表	京 都 新 聞	令和 2 年 7 月 23 日 (木)
KDDI、舞鶴市、舞鶴高専が地域活性化へ 連携協定の成果を発表 スマート農業・防災の取り組み示す	電 波 新 聞	令和 2 年 7 月 29 日 (水)
人に寄り添う最新技術 防災情報の発信に先端技術を活用 (舞鶴高専と連携し、氾濫予測の研究)	広報まいづる	2020 年 8 月号
【私たちの備え 北部の水害 ⑥中小河川 (舞鶴市)】 水位予測し、避難行動に (舞鶴高専が志楽川の水位予測に取り組む)	京 都 新 聞	令和 2 年 8 月 9 日 (日)
太陽電池で扇風機作る 舞鶴高専で講座 中学生、仕組み学ぶ	京 都 新 聞	令和 2 年 8 月 19 日 (水)
【特集 空き家に魅せられて】 空き家を居住促進住宅に 設計は舞鶴高専の学生	広報まいづる	2020 年 9 月号
高校野球秋季府大会 市内 4 校が参加 2 校が勝利し次戦へ (舞鶴高専 ブロック 2 回戦に勝利)	舞鶴市民新聞	令和 2 年 9 月 8 日 (火)
秋季府高校野球 西高・舞鶴高専 ブロック決勝で敗退	舞鶴市民新聞	令和 2 年 9 月 15 日 (火)
理想の家 親子ら設計 動線や部屋の配置考え 舞鶴高専で講座	京 都 新 聞	令和 2 年 9 月 16 日 (水)
文化の違い話し合う ラオス、モンゴルの留学生と 東舞鶴高 将来見つめる機会に (舞鶴高専の留学生 2 名が参加)	毎 日 新 聞	令和 2 年 10 月 1 日 (木)
日食・月食 とらえた 30 点 福知山で天体写真展 (舞鶴高専 塩見名誉教授撮影)	読 売 新 聞	令和 2 年 10 月 11 日 (日)
「舞鶴クレインブリッジ」橋脚部損傷 破断面に異物混入か 専門家会議初会合 原因究明など検討 (会長に舞鶴高専建設システム工学科 玉田教授)	京 都 新 聞	令和 2 年 10 月 21 日 (水)
【北部の DNA 47】糸井文庫@舞鶴市 丹後の伝説 満載の絵や書籍 (舞鶴高専で古文書のくずし字を AI で読み解く授業)	京 都 新 聞	令和 2 年 11 月 1 日 (日)
港の仕事や土木技術体感 舞鶴高専生、国際埠頭見学 先輩技術者と意見交換も	京 都 新 聞	令和 2 年 11 月 13 日 (金)
【京いちにち】【京都ニュース 845】 舞鶴 学生が空き家改修デザイン (建設システム工学科 尾上研究室)	NHK 京都放送局	令和 2 年 11 月 26 日 (木)
舞鶴「お試し住宅」4 軒目整備へ 改修プラン 学生提案 高専生 地域住民らに説明 (建設システム工学科 尾上研究室)	京 都 新 聞	令和 2 年 12 月 2 日 (水)

見 出 し	掲載紙 (誌)	掲 載 年 月 日
【news フェイス】 移住促進目指す舞鶴市 舞鶴高専の学生が空き家リフォーム (建設システム工学科 尾上研究室)	KBS 京都 テレビ	令和2年12月4日(金)
設置当初から割れ? 舞鶴クレインブリッジ専門家会議 橋脚部の部品交換、復旧へ (会長 舞鶴高専建設システム工学科 玉田教授)	京 都 新 聞	令和2年12月24日(木)
舞鶴の魅力「しろ塾」若者ら結成 ボードゲーム作成、動画も (メンバーに舞鶴高専卒業生。同校とデザインなどでの協力も検討)	京 都 新 聞	令和3年1月16日(土)
【まいづる元気人 Vol. 82】 地元でも「ものづくり」ができる場を 舞鶴電脳工作室店長 町田秀和さん (元舞鶴高専准教授、ロボコン指導教員)	広報まいづる	2021年2月号
舞鶴高専志願者 初の定員割れ 二次募集実施	京 都 新 聞	令和3年2月6日(土)
高専で二次募集 異例の対応 志願者定員割れを受け	舞鶴市民新聞	令和3年2月16日(火)
【京都新聞文化会議 ソフィア 750 三川譲二氏】 福知山・久留米、有馬藩ゆかり (舞鶴高専名誉教授)	京 都 新 聞	令和3年2月19日(金)
【エネルギーの行方 府北部の事例から ⑤風力伊根は府営終了】市民出資 洋上に期待感 (洋上風力を研究する舞鶴高専機械工学科 小林准教授がコメント)	京 都 新 聞	令和3年3月7日(日)
「沈黙の遺産」語り合う 旧軍港4市、舞鶴でシンポ 史跡の魅力や課題報告 (建設システム工学科の毛利准教授が、学校近くの旧海軍第3火薬工廠跡などを紹介)	毎 日 新 聞	令和3年3月14日(日)
舞鶴で旧軍港四市鎮守府日本遺産シンポ 施設の調査成果報告 オンライン 歴史伝える重要性訴え (建設システム工学科の毛利淳興が、舞鶴高専の取り組みを紹介)	京 都 新 聞	令和3年3月17日(水)
小中生、理系研究成果を発表 舞鶴高専教員のアドバイス受け (舞鶴高専ジュニアドクター育成塾研究フォーラムを開催)	京 都 新 聞	令和3年3月22日(月)

Annual Report 2020

– Education and Research Activities–



National Institute of Technology, Maizuru College

No.18 April 2021